第61回(令和4年度)農林水産祭参加表彰行事

第49回 全国酪農青年女性

酪農発表大会

日時:令和3年7月15日(木)

会場:「江陽グランドホテル」

仙台市青葉区本町2丁目3-1

主催 全国酪農青年女性会議 全国酪農業協同組合連合会

統一綱領

- 一. われら酪友は交流し、研鑽して酪農の 永続発展をはかろう。
- 一. われら酪友は経営を近代化し、世界の酪農とともに進歩しよう。
- 一. われら酪友は酪農によって、豊かな家庭と、住みよい社会をつくろう。

統一性格

- 1. 明日の日本酪農の中核となる酪農青年女性の自主的な研究交流組織である。
- 2. 政治に対しては中立な立場を堅持する組織である。
- 3. 豊かな郷土と楽しい酪農人生を築くことを目標とする組織である。
 - ○われらが担う明日の酪農
 - ○国に満てミルクの匂い文化の香り
 - ○団結は力、系統利用は団結の母
 - ○伸そう経営生かそう組織

第 49 回全国酪農青年女性酪農発表大会日程

月 日	時 刻	事 項
7月15日(木)	$10:30 \sim 10:40$ $10:40 \sim 12:10$ $12:10 \sim 13:00$ $13:00 \sim 15:00$ $15:00 \sim 16:00$ $16:00 \sim 16:30$ $16:30 \sim$	開会式 酪農意見・体験発表(6名) 休憩(昼食) 酪農経営発表(6名) 休憩 審査講評・表彰式 宣言文朗読・閉会式

目 次

第49回全国酪農青年女性酪農発表大会日程1
後援
協賛
酪農経営発表実施状況4
酪農意見・体験発表実施状況8
全国酪農青年女性酪農発表大会開催要綱 10
全国酪農青年女性酪農発表大会開催要領 11
第 49 回酪農経営発表
第 31 回酪農意見・体験発表 73
第 47 回らくのうこどもギャラリー
広告協賛
大会宣言150

後 援

農 省 林 水 産 宮 城 県 仙 市 台 送協会 (NHK) H 放 本 競 馬 全 地 方 玉 協 公益社団法人 中 央 畜 産 一般社団法人 日本ホルスタイン登録協会 一般社団法人 中 央 酪 農会 一般社団法人 J 3 ル 一般社団法人 全 国略 農 一般社団法人 酪農ヘルパー全国協会 一般社団法人 全 国 農 業 会 一般社団法人 家 畜 改 良 事 寸 農 H 本 酪 政 治 連 各 農 業 酪 協 同 組 各県酪農業協同組合連合会

一般社団法人 全 国 酪 農 一般社団法人 酪農ヘルパー全国協会 一般社団法人 中 央 酪農 公益社団法人 中 央 畜 產 一般社団法人 全 国 農 業 会 議 所 本 酪 農 政治 連 一般社団法人 日本ホルスタイン登録協会 一般社団法人 家 畜 改 良 事 雪印メグミルク株式会 社 農乳業 株式会社酪 速 株式会社ワ 材 コ 成工業株式会 株式会社北海道協同組合通信社 株式会社酪農経済通信社 株式会社デーリィ・ジャパン社 株式会社セ 産業 油化 株式 株式会社ゼン・トレーディング 株 式 ーズ 共栄火災海上保険株式会社 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 株式会社あ 株式会社ピ T ラ ン ユ 式 株 シ 社 イ A 三 井 リ ー ス 株 式 会 会 社 理 工 加加 產 株 式

酪農経営発表実施状況

項目回数	開催日	開催場所	参加人員	北海道
第1回	昭和 46 年 7月8~9日	東京都「農林年金会館」	150 名	厚岸郡:掛水 忠征
第2回	昭和 47 年 8月6~7日	滋賀県大津市「比叡山延暦寺会館」	300名	千歳市:戸田 肇
第3回	昭和 48 年 8月6~7日	愛知県蒲郡市「ふきぬき」	500名	札幌市:橘 要
第4回	昭和 49 年 8月 26 ~ 27 日	福島県郡山市「磐梯熱海グランドホテル」	650 名	広尾郡:高野 拓治
第5回	昭和 50 年 7月 21 ~ 22 日	静岡県熱海市「熱海市観光会館」	800名	十勝郡:向井 征治
第6回	昭和 51 年 7月 20 ~ 21 日	大分県別府市「別府国際観光会館」	1,500 名	足寄郡:後藤 一幸
第7回	昭和 52 年 7月 21 ~ 22 日	京都府京都市「京都会館」	1,500 名	△ 足寄郡:東森 充
第8回	昭和 53 年 7月 20 ~ 21 日	三重県長島町「ホテル長島」	1,500 名	野付郡:佐藤 龍彦
第9回	昭和 54 年 8月1~2日	北海道札幌市「札幌市民会館」	1,500 名	◎△ 江別市:長谷川 求
第 10 回	昭和 55 年 8月4~5日	宮城県宮城町作並温泉「ホテルグリーングリーン」	1,300 名	名寄市:後藤 賢治
第 11 回	昭和 56 年 7月 18 ~ 19 日	兵庫県神戸市「神戸国際会館」	1,300 名	厚岸郡:松川 定雄
第 12 回	昭和 57 年 7月 22 ~ 23 日	鹿児島県指宿市「指宿市民会館」	1,300 名	野付郡:上月 光彦
第 13 回	昭和 58 年 7月 27 ~ 28 日	栃木県藤原町「藤原町総合文化会館」	1,300 名	宗谷郡:佐藤 清光
第 14 回	昭和 59 年 7月 19 ~ 20 日	岐阜県岐阜市「岐阜グランドホテル」	1,300 名	釧路市:宮高 敏祝
第 15 回	昭和 60 年 7月 24 ~ 25 日	広島県広島市「広島グランドホテル」	1,300 名	※ 野付郡:長田 勉
第 16 回	昭和 61 年 7月 23 ~ 24 日	岩手県花巻市「ホテル千秋閣」	1,000 名	△ (代理) 天塩郡:佐々木忠光
第 17 回	昭和 62 年 7月 30 ~ 31 日	北海道札幌市「定山渓ビューホテル」	800 名	◎△ 上川郡:村上 祐司
第 18 回	昭和 63 年 7月 25 ~ 26 日	熊本県熊本市「ニュースカイホテル」	1,300 名	◇ 沙流郡:戸津川秀之
第 19 回	平成元年 7月26~27日	宮城県松島町「ホテル松島大観荘」	1,000 名	○ 天塩郡:荒瀬 誠
第 20 回	平成 2 年 7月 24 ~ 25 日	千葉県浦安市「東京ベイヒルトンインターナショナル」	1,200 名	◇ 河西郡:佐伯美智子

^{・◎}印 農林水産大臣賞 (第6回までは農林大臣賞)

各ブロック別発表者					
東 北	関東甲信越	中 部	西日本	中国三県	九 州
福島県:霜山 清	栃木県:菅山 寛	愛知県:花井 則文	岡山県:石原 幸子	島根県:土江 和男	鹿児島県:持増 清光
福島県:石川 功	栃木県:岡本 秀治	岐阜県:工藤とくよ	◎ 滋賀県:谷 千代	広島県:山本 芳紀	熊本県:大賀 慶一
岩手県:有馬 利子	◎ 栃木県:小室 長寿	愛知県:伊藤 敏之	岡山県:松岡美江子	島根県:福田 幸紀	熊本県:富田 龍子
△ 福島県:富士田 豊	△ 栃木県:高瀬タマ子	三重県:内田みさ子	◎△(辞退) 兵庫県:木寺 正	広島県:宮地 詢司	△(代理) 熊本県:中原 康文
福島県:高橋 勝信	◎△ 長野県:一柳 進	岐阜県:馬瀬口久子	△ 岡山県:今尾 房枝	広島県:中野 完悟	△ 鹿児島県:永田 義弘
△ 福島県:菅野 春雄	◎△ 茨城県:朝倉 節子	岐阜県:山本 旭	△ 岡山県:難波紀美香	広島県:田河 一伸	※ 大分県: 森田 静一
※ 福島県:佐藤 金正	埼玉県:鈴木 進	△ 岐阜県:平田 嘉子	◎△ 岡山県:原野 周子	山口県:本広 儀久	宮崎県:加藤エミ子
△ 福島県:佐藤 正義	栃木県: 斉藤 修	※ 三重県:大森 茂美	◎△ 岡山県:中山ミヨ子	広島県:小丸 明義	△ 熊本県:隈部 幸子
福島県: 岡崎 芳昭	群馬県:小暮美津子	愛知県:大沢 三子		※ 広島県:三浦貴美子	△ (辞退) 宮崎県 : 原田マスミ
※ 山形県:今 作雄	群馬県:新木 茂	岐阜県:熊崎 均	西 E ◎△ 兵庫県:古家後康夫	太島県:田辺 一枝	△ 大分県:山田 史郎
※ 岩手県:佐々木 顕	長野県:鍵田 豊次	岐阜県:河合智香子	◎△ 岡山県:野田 富子	△ 広島県:道田 弘	△ 熊本県:金子 美之
※ 山形県:鈴木 哲雄	△ 茨城県:佐藤 俊文	三重県:高田 征二	△ 兵庫県:足立 梅則		◎△ 福岡県:池松 和幸
※ 宮城県:佐藤 文徳	△ 茨城県:佐藤 俊之	石川県:大塚 久樹	◎△ 広島県:岩竹 重城		△ 大分県:堀 トミ子
※ 岩手県:高橋 影信	栃木県:和気 弥生	◎△ 岐阜県:中谷香代子	△ 岡山県:清水みゆき		△ 鹿児島県:吉崎 勝志
△ 福島県:熊谷 清子	干葉県: 秋山 豊	富山県:柴 年子	◎△ 広島県:田河 一伸		△ 熊本県:山本 昂輔
△ (代理) 福島県:高橋 忠	◎△ 栃木県:檜山 政義	※ 愛知県:榊原 義則	△ 岡山県:筒井 秀子		△ 大分県:首藤 弘三
※ 山形県:樋口 一彦	△ 干葉県:川名 初江	△ 三重県:鈴木 克美	△ 岡山県:益田 守		△ (代理) 福岡県:伊藤 清則
◎◇ 福島県:岩谷 金良	◇ 新潟県:藤田 毅	◇ 岐阜県:花田 増美	◇ 愛媛県:黒河 正高		◇ 熊本県:吉井 龍二
◇ 山形県:山口 長一	◎◇ 栃木県:本多 修	◇ 岐阜県:川端たか子	◇ 徳島県:片岡 令子		◇ (代理) 福岡県:穂坂 精樹
◇ 岩手県:菊池 哲夫	☆ 新潟県:斉藤 久子	◇ 静岡県:鈴木喜久雄	○◇ 広島県:折田 正明		◇ (辞退) 宮崎県:吉留 久美

[・]第6回大会 関東甲信越代表の朝倉節子さんは、第15回農業祭において日本農林漁業振興会会長賞を受賞。

^{· △}印 欧州酪農視察派遣

^{・※}印 酪農後継者育成事業 (欧州酪農視察) に推薦 (主催、社団法人全国酪農協会)

^{・◇}印 豪州・ニュージーランド酪農視察派遣

^{・□}印 アメリカ・カナダ酪農視察派遣

[・]第13回大会 西日本代表の岩竹重城氏は、第22回農林水産祭において天皇杯を受賞。

[・]第14回大会 中部代表の中谷香代子さんは、第23回農林水産祭において内閣総理大臣賞を受賞。

[・]第16回大会 関東甲信越代表の檜山政義氏は、第25回農林水産祭において内閣総理大臣賞を受賞。

[・]第17回大会 北海道代表の村上祐司氏は、第26回農林水産祭において内閣総理大臣賞を受賞。

酪農経営発表実施状況

項目回数	開催日	開催場所	参加人員
第 21 回	平成3年 7月24~25日	石川県加賀市「ホテル百万石」	1,000 名
第 22 回	平成 4 年 7月 23 ~ 24 日	愛媛県松山市「ホテル奥道後」	1,100 名
第 23 回	平成5年 7月28~29日	北海道弟子屈町「釧路圏摩周観光文化センター」	1,200 名
第 24 回	平成6年 7月27~28日	宮崎県宮崎市「サンホテルフェニックス」	1,000 名
第 25 回	平成7年 7月27~28日	栃木県藤原町「あさやホテル」	1,000 名
第 26 回	平成8年 7月25~26日	福島県郡山市「郡山ユラックス熱海」	850 名
第 27 回	平成9年 7月24~25日	愛知県豊橋市「ホリデイインクラウンプラザ豊橋」	800 名
第 28 回	平成 10 年 7月 30 ~ 31 日	北海道札幌市「定山渓ビューホテル」	700名
第 29 回	平成 11 年 7月 22 ~ 23 日	京都府京都市「都ホテル」	600名
第 30 回	平成 12 年 7月 26 ~ 27 日	東京都「東京全日空ホテル」	650 名
第 31 回	平成 13 年 7月 26 ~ 27 日	福岡県「ホテル シーホーク&リゾート」	800 名
第 32 回	平成 14 年 7月 25 ~ 26 日	岩手県花巻市「ホテル千秋閣」	650 名
第 33 回	平成 15 年 7月17~18日	三重県長島町「ホテル花水木」	600 名
第 34 回	平成 16 年 7月22~23日	北海道札幌市「札幌プリンスホテル国際館パミール」	600 名
第 35 回	平成 17年 7月 21 ~ 22 日	岡山県岡山市「ホテルグランヴィア岡山」	600 名
第 36 回	平成 18 年 7月 20 ~ 21 日	神奈川県横浜市「横浜ロイヤルパークホテル」	600 名
第 37 回	平成 19 年 7月 19 ~ 20 日	宮崎県宮崎市「ワールドコンベンションセンター サミット」	600 名
第 38 回	平成 20 年 7月17~18日	福島県いわき市「スパリゾートハワイアンズ」	600 名
第 39 回	平成 21 年 7月16~17日	愛知県名古屋市「名古屋 東急ホテル」	600 名
第 40 回	平成 22 年 7月15~16日	埼玉県さいたま市「大宮ソニックシティ」	中止
第 41 回	平成 24 年 7月12~13日	兵庫県神戸市「神戸国際会議場」	550 名
第 42 回	平成 25 年 7月11~12日	熊本県熊本市「ホテル日航熊本」	600 名
第 43 回	平成 26 年 7月17~18日	宮城県仙台市「ホテルメトロポリタン仙台」	600 名
第 44 回	平成 27 年 7月15~16 日	東京都台東区「浅草ビューホテル」	550 名
第 45 回	平成 28 年 7月 14 ~ 15 日	愛知県名古屋市「名古屋東急ホテル」	520 名
第 46 回	平成 29 年 7月13~14 日	北海道札幌市「札幌ビューホテル大通公園」	530 名
第 47 回	平成 30 年 7月19~20日	広島県広島市「グランドプリンスホテル広島」	510名
第 48 回	令和元年 7月11~12日	鹿児島県鹿児島市「城山ホテル鹿児島」	550 名

^{・◎}印 農林水産大臣賞 (第6回までは農林大臣賞) ・△印 欧州酪農視察派遣

				各ブロ		カー別 発 表					
北海	道	東	北	関東甲信	越	中	部	西日	本	九	州
	, 	CATABLE LEE	\ps:		, ,		oth for =		_L-7	◎◇ (代理)	
川上郡 : 中沢多 ^>	思于	山形県:太田 ◎◇	源一	千葉県: 増戸ケ	イナ	岐阜県: 志津 ◇ (辞退)	農舞士_	岡山県: 平田 ◇ (辞退)	又子	熊本県:宇藤	又二
〜 技幸郡: 池田	道子	◎ ▽ 福島県: 高橋	邦弘	が が が 大県: 興野	一美	愛知県:青木	春代	広島県: 沖	正文	熊本県:川辺	俊司
\Diamond		$\bigcirc \Diamond$		◇ (辞退)		\Diamond		\Diamond		\Diamond	
白糖郡: 才田	一義	岩手県:川邊 △(代理)	美恵子	栃木県: 高久	秀明	岐阜県: 内木	悟子	岡山県: 小倉	越子	福岡県:武本	淳一
△ 野付郡:平林身	色知子	△(八)壁/ 青森県:村居	修一	◎△ 栃木県: 田中	和雄	△ 愛知県:羽佐田	宣貴子	△ 岡山県: 松崎 :	* n 子	大分県: 志賀	義弘
	CVH 1	△	19	△ (代理)	ТНЖЕ	△ (辞退)	田八丁		<u> </u>		72,32
紋別郡:村上	直樹	山形県:今 い	いく子	栃木県: 高瀬	賢治	愛知県:金子。	みえ子	広島県:和田	慎吾	熊本県: 内田	恵助
△ (代理) 技幸郡 : 前田	H±:	△ 福島県: 目黒 <i>A</i>	5. F.Z.	△(辞退) 栃木県:渡辺	H4+17.	△ (辞退) 三重県: 高橋	邦治	△ 徳島県: 高瀬	tile	△ (代理) 宮崎県: 本田	和浩
<u>以于師・則田</u> △ (辞退)	1-10	価毎年・日志の	741	△(辞退)	牧拓	△里尔・同個	ナルイロ	△(代理)	敏	△	不口 (t
河西郡:鈴木	文雄	福島県:木目澤	久實子	埼玉県:岩崎	真一	愛知県:森	京子	兵庫県: 堤	洋子	熊本県:田代	孝文
] (辞退)	- h	□ (辞退)		□ (代理)	t 1.		-		v= 1:	□ (辞退)	LO.
江別市:中澤_ □	誠一	福島県:小林加口(代理)	加代子_	千葉県:作田	知志	愛知県:野口- □(辞退)	十思于	兵庫県: 助島	猛久	宮崎県: 勝吉	裕_
_ 広尾郡: 岡田	秀子	岩手県:佐々木	く好	茨城県:酒井	由雄	三重県:佐々ス	卜 修	徳島県: 中川	澄雄	宮崎県:前原	和明
□(代理)		□ (辞退)								◎□ (代理)	
野付郡: 宗像_ □ (辞退)	宏充	山形県:後藤□	忠雄	千葉県:須藤 □(辞退)	裕紀	岐阜県: 大井	幸男	岡山県:川上	和恵	宮崎県:森 仮	建太良
」(好 <i>返)</i> 門別町:梅村	義郎	□ 福島県:遠藤	洋子	□(矸返) 栃木県:阿久津	建官之	□ 岐阜県:宮前2		□ 岡山県: 大木で	ひろ子	熊本県:村上	久弍
□ (代理)	32NP		11 3	□ (辞退)	-ш.с		1.3 II 3	□ (辞退)	, ,	□ (辞退)	/ ()
東神楽町:前田	哲也	岩手県: 武村	東	茨城県: 橘	和宏	愛知県: 辻村	幸子	愛媛県: 入船	篤志	鹿児島県:松田	新
」 滝川市: 薦田	一宏	◎□ 福島県:阿部	弘	□(辞退) 長野県:城田	忠志	□ (辞退) 愛知県:清水(チベム	□ (代理) 兵庫県: 太田	耕治	□(辞退) 大分県:松本耳	Э 1—18
^{電川市・鳥田} □ (辞退)	14	□ (辞退)	74	□ (辞退)	ルシュル	 	4 70%	◎□ (辞退)	471 (11	□ (辞退)	2) 1
野付郡:中村	貞志	岩手県:佐々木	、総隆	長野県: 斧研	賢司	岐阜県: 棚橋	山治	鳥取県: 森田	雄一	熊本県: 富田	文学
	`#- #=	一 有自用、冰却	17.5x J.U.	□ (代理)	kn →	至691日,1日	÷/.#/.	□ (辞退)	31 A		40 -
沙流郡 : 吉田_ □	浩貴	福島県:渡部	隆雄	群馬県:森田□(辞退)	智子	愛知県: 土屋□(代理)	敦敬	徳島県:大松 □(辞退)	弘美	熊本県:前田	裕章
_ 釧路市: 成田	洋子	秋田県:佐藤	清	茨城県: 藤枝	英明	石川県: 橋本	康子	岡山県: 松崎	範之	宮崎県: 山本	隆元
								□ (辞退)			
旭川市:宮崎	伊弘	福島県:門馬□(代理)	秀昭	千葉県: 松本	光止	岐阜県:古田□(代理)	幸人	鳥取県:高間 □(辞退)	理拓	熊本県:後藤□(辞退)	J.
」 北見市: 松崎	繁	福島県:藤沢	啓	 茨城県:海老沙	尺隆志	愛知県: 北村	克己		正幸	鹿児島県:松本	啓
		□ (辞退)				□ (辞退)		□ (辞退)			
深川市: 大森_ ○□	薫	岩手県: 山中	博喜	栃木県: 小針	勤	岐阜県: 江﨑	裕貴		昭博	福岡県: 松野	竜フ
シニ 小清水町: 中山	斉	□ 宮城県: 渡辺	孝一	□ 群馬県:新井さ	さき子	□(辞退) 岐阜県:嶋田	均	□(辞退) 岡山県:服部	千敏		
	/1	□ (辞退)	•	□ (辞退)	,		. ,	□ (辞退)	1 19%		
同爺湖町:塩野谷	谷孝二	福島県:鈴木	正隆	長野県: 小松	正平	愛知県:伴	奈生子	徳島県: 江本	洋子	熊本県:立作	浩-
」 北海道:都築	岳志	□ (辞退) 福島県:橋本	なき	 茨城県:宮澤	知此	□ (辞退) 静岡県:桑原	占州	□ (辞退) 岡山県: 吉原	直樹	◎□ 熊本県:齋藤	潤
<u>□ (辞退)</u>	田心	個局景·倘本 ◎□ (代理)	w) c	八帆尓・百倖	智浩		平世	□ (辞退)	旦倒	□ (辞退)	但出
常呂郡: 森下	智崇	山形県:高橋	実	栃木県:八木沢	直人		智花	兵庫県:岡本	孝史	福岡県: 今村	浩
○□ (代理)	TH-141	□ (辞退) □ (辞退)	ក្ ពរា		典上	□ (辞退)	士17 1—	□ (辞退)	 上 人	□ (辞退)	<u>ж</u> .
天塩町: 山下 	雅博	岩手県:丹内 □(辞退)	良昭	茨城県:郡司	貴大	愛知県:福井	邦仁	岡山県:山縣 □ (辞退)	泰介	鹿児島県: 莚平修	建一 [
」 小清水町:秋葉	直美	宮城県:八巻	誠	栃木県:駒場	靖史	愛知県:森	富士樹	愛媛県:楠	亮	熊本県:芹川	恵
(辞退)	-le -3	◎□ (辞退)				□ (辞退)					
技幸町 : 関口_ □ (辞退)	真也	福島県:田中 □(辞退)	進	茨城県:関 □ (辞退)	岳彦	愛知県:渡辺□(辞退)	賢司	山口県: 松永 □ (代理)	毅	宮崎県:長友(◎□(辞退)	
」(好返) 足寄郡:佐藤	伸哉	□(矸返) 福島県:遠藤	明		陽一	静岡県:後藤	康弘	岡山県:美甘	正平	宮崎県:本部	博ク
] (辞退)		□ (辞退)		□ (辞退)		□ (辞退)		□ (辞退)		◎□ (農)霧島	第一牧
票茶町:千葉		福島県:安齋		茨城県:米山				徳島県:古川	善久	鹿児島県:池田	
第23回大会 東北代表の川邊美恵子さんは、第32回農林水産祭において日本農林漁業振興会会長賞を受賞。 第26回大会 第35回農林水産祭に不参加。 第27回大会 東北代表の木目澤久實子さんは、第36回農林水産祭において日本農林漁業振興会会長賞を受賞。 第38回大会 関東甲信越代表の海老沢隆志さんは、第47回農林水産祭において日本農林漁業振興会会長賞を受賞。 第40回大会 口蹄疫の発生により、大会を中止。審査会において受賞者を選出。 第41回大会 東日本大震災により、大会を1年延期。北海道代表の塩野谷孝二さんは、第51回農林水産祭において内閣総理大臣賞を受賞。 第44回大会 北海道代表の山下雅博さんは、第54回農林水産祭において内閣総理大臣賞を受賞。 第49回大会 新型コロナウィルス感染拡大により、大会を1年延期											

^{・※}印 酪農後継者育成事業(欧州酪農視察)に推薦(主催、社団法人全国酪農協会)

^{・◇}印 豪州・ニュージーランド酪農視察派遣・□印 アメリカ・カナダ酪農視察派遣

酪農意見・体験発表実施状況

	開催日	開催場所	参加人員
第1回	平成元年 7月26~27日	宮城県松島町「ホテル松島大観荘」	1,000 名
第2回	平成2年 7月24~25日	千葉県浦安市「東京ベイヒルトンインターナショナル」	1,200 名
第3回	平成3年 7月24~25日	石川県加賀市「ホテル百万石」	1,000 名
第4回	平成 4 年 7 月 23 ~ 24 日	愛媛県松山市「ホテル奥道後」	1,100 名
第5回	平成5年 7月28~29日	北海道弟子屈町「釧路圏摩周観光文化センター」	1,200 名
第6回	平成6年 7月27~28日	宮崎県宮崎市「サンホテルフェニックス」	1,000 名
第7回	平成7年 7月27~28日	栃木県藤原町「あさやホテル」	1,000 名
第8回	平成8年 7月25~26日	福島県郡山市「郡山ユラックス熱海」	850 名
第9回	平成9年 7月24~25日	愛知県豊橋市「ホリデイインクラウンプラザ豊橋」	800 名
第 10 回	平成 10 年 7月 30 ~ 31 日	北海道札幌市「定山渓ビューホテル」	700名
第11回	平成 11 年 7 月 22 ~ 23 日	京都府京都市「都ホテル」	600 名
第 12 回	平成 12 年 7月 26 ~ 27日	東京都「東京全日空ホテル」	650 名
第13回	平成 13 年 7 月 26 ~ 27 日	福岡県「ホテル シーホーク & リゾート」	800 名
第 14 回	平成 14 年 7 月 25 ~ 26 日	岩手県花巻市「ホテル千秋閣」	650 名
第 15 回	平成 15 年 7月 17 ~ 18 日	三重県長島町「ホテル花水木」	600 名
第 16 回	平成 16 年 7月 22 ~ 23 日	北海道札幌市「札幌プリンスホテル国際館パミール」	600 名
第 17 回	平成 17 年 7 月 21 ~ 22 日	岡山県岡山市「ホテルグランヴィア岡山」	600 名
第 18 回	平成 18 年 7月 20 ~ 21 日	神奈川県横浜市「横浜ロイヤルパークホテル」	600名
第 19 回	平成 19 年 7月19~20日	宮崎県宮崎市「ワールドコンベンションセンター サミット」	600名
第 20 回	平成 20 年 7月17~18日	福島県いわき市「スパリゾートハワイアンズ」	600 名
第 21 回	平成 21 年 7月16~17日	愛知県名古屋市「名古屋 東急ホテル」	600 名
第 22 回	平成 22 年 7月15~16日	埼玉県さいたま市「大宮ソニックシティ」	中止
第 23 回	平成 24 年 7月12~13日	兵庫県神戸市「神戸国際会議場」	550 名
第 24 回	平成 25 年 7月11~12 日	熊本県熊本市「ホテル日航熊本」	600 名
第 25 回	平成 26 年 7月 17 ~ 18 日	宮城県仙台市「ホテルメトロポリタン仙台」	600 名
第 26 回	平成 27 年 7月15~16日	東京都台東区「浅草ビューホテル」	550 名
第 27 回	平成 28 年 7月14~15日	愛知県名古屋市「名古屋東急ホテル」	520 名
第 28 回	平成 29 年 7月13~14日	北海道札幌市「札幌ビューホテル大通公園」	530 名
第 29 回	平成 30 年 7月19~20日	広島県広島市「グランドプリンスホテル広島」	510名
第 30 回	令和元年 7月11~12日	鹿児島県鹿児島市「城山ホテル鹿児島」	550名

		各ブロック	为 別 発 表 者		
北 海 道	東 北	関東甲信越	中 部	西日本	九州
	宮城県:佐々木日出子	栃木県:高橋 栄子			
		千葉県:加瀬 せつ	岐阜県:坂橋 宝子		
			石川県:岡田栄里子	山口県:松永 信子	
枝幸郡:井上 悦子				愛媛県:村橋喜久子	
野付郡:青野 一枝	福島県:佐々木喜子	栃木県:滝沢 悦郎	静岡県:萩原 輝美	鳥取県:三谷 里美	佐賀県:樋口 静子
空知郡:高松 恵子	宮城県:佐藤ひろ子	茨城県:柳沢喜代子	岐阜県:武藤 和穂	京都府:上原 幸子	福岡県:大鶴 照子
足寄郡:大西 慎司	山形県:山田 友子	千葉県:鈴木 伸江	岐阜県:柘植 裕佳	兵庫県:川上久美子	熊本県:大薮真裕美
千歳市: 黒澤 浩子	岩手県:佐々木 好	長野県:片桐 徳江	岐阜県:中谷 昇	岡山県:田中 京子	熊本県:中村 栄作
中川郡:山田 凉子	秋田県:桜田 雪子	埼玉県:中辻 泉	三重県:生駒 さが	徳島県:広澤 英子	福岡県:林 頼子 ◎宮崎県:本田 和浩
□ (代理) 苫前郡:伊藤まち子	□ (辞退) 青森県:成澤真紀夫	□ (辞退) 茨城県:高栖 洋一	□(代理) 愛知県:榊原 一智	□ 鳥取県:杉浦 玲子	◎□ 熊本県:竹内 美晴
□ (代理) 瀬棚郡:岡本林太郎	□(辞退) 宮城県:佐藤 正信	東京都:満島 千穂	◎□ 愛知県:蜂須賀千夏	岡山県:成本 文子	熊本県:村上 勝治
□ (辞退) 広尾郡:山本 和美	□(辞退) 山形県:羽隅 典代	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	愛知県:伊藤美津子	岡山県:三竿千津子	□ 佐賀県:山口 純子 □(辞退)
□ (辞退) 興部町:武藤 典晃 ◎□ (代理)	□ (代理) 福島県:菅野 浪男	□ 埼玉県:保延 文子 □(辞退)	岐阜県:森川 素行	兵庫県:川 笑子	沖縄県:仲本 久子 □(代理)
新得町:湯浅 優子	山形県:若月二三子 □ (辞退)	埼玉県:村川 徳浩	愛知県:森 京子	岡山県:岡田 和子□(辞退)	福岡県:井手 康夫
本別町:川岸三津子 □(辞退)	岩手県:羽沢 憲子		愛知県:前田眞理子	岡山県:長恒 京子□(辞退)	沖縄県:城間とき子
□ (計26) 枝幸郡:前田ゆう子 □ (辞退)	秋田県:佐藤 博久	埼玉県:吉田 英子 □ (代理)	□ 岐阜県:中島ゆみ子 □ (代理)	岡山県: 冨谷千津子	大分県:武田由久美
□ (計26) 足寄郡:黒田 節子 □ (辞退)	福島県:福田 祐子	千葉県:大地 洋夫	□(代達) 石川県:畑中千恵美 □(辞退)	岡山県:東山 大介□(辞退)	佐賀県:堤 豊子
(計26) 大樹町:服部 園子 □(辞退)	福島県:安斎 洋志	群馬県:茂木 利子 (辞退)	石川県: 平松世志子	岡山県:服部由美子	□ 沖縄県:玉城 盛作 □(辞退)
□(肝返) 新冠郡:清水 香理 □(辞退)	宮城県:阿部由紀子	東京都:小泉 勝	□ (辞退) 静岡県:国京やよい □ (辞退)	鳥取県:前田 洋子	宮崎県:原田 美子
空知郡:藤田 塁	福島県:伊藤 正好	栃木県:熊倉 義雄	岐阜県:河野 秋子	岡山県:平野 博子□(代理)	宮崎県:矢北 玲子 □ (辞退)
足寄町:石黒志津江 □(辞退)	宮城県:菊地 武士□(代理)	群馬県:小林佳奈子 □(辞退)	三重県:堀山 静代	岡山県:佐藤タマエ□(辞退)	大分県:竹内 秀馬
浜頓別町: 小川 優子	福島県:佐藤 佳子	埼玉県:小林 誠	愛知県:小笠原和美 □	岡山県:亀山 昭博	□ (辞退)
∬一一(辞退)	岩手県:小笠原幸子	栃木県:石川 文子	三重県:鈴木 真子	鳥取県:山下 敏子	宮崎県:加藤 教昭
北海道:浦 好惠 □ (代理)	宮城県:佐藤みゆき □ (辞退)	長野県:柳澤 聡 ◎□ (辞退)	静岡県:佐々木千尋	岡山県:坂手美智子□(辞退)	熊本県:山口やよい □ (辞退)
	宮城県:安達 麻美	栃木県:野口 弘子	愛知県:宮下 優子 □ (辞退)	広島県:山延伊久江□(辞退)	鹿児島県:大渡 康弘 ◎□ (代理)
	岩手県:桜井 善善	群馬県:小見 幸江 □ (辞退)	愛知県:藤田千恵子	徳島県:片岡 寛之 □ (辞退)	熊本県:富安麻紀子
第子屈町: 芳賀ひとみ○□ (辞退)	宮城県:菅原真由美□(辞退)	長野県:高嶋 和磨	愛知県:石川 栄子 □ (辞退)	岡山県:川合 宏子□(辞退)	沖縄県:横井 直彦
	宮城県:髙橋 駿太	栃木県:前田 匡彦 □(辞退)	石川県:西出 穣	岡山県:安富由美子□(辞退)	熊本県:後藤みどり □(辞退)
広尾郡:砂子田円佳 □	宮城県:柴田耕太郎	l .	□ 石川県:久保 貴光 □(辞退)	鳥取県:川本 恵子	熊本県:坂本 龍一
	山形県:佐藤 純子 口発生により、大会を中		愛知県:北村 克己	岡山県:岸本 美加	沖縄県:横井 美鈴

[・]第22回大会 口蹄疫の発生により、大会を中止。審査会において受賞者を選出。 ・第23回大会 東日本大震災により、大会を1年延期。 ・第31回大会 新型コロナウィルス感染拡大により、大会を1年延期

^{・◎}印 農林水産大臣賞 (第23回以降は最優秀者) ・第9回大会より、農林水産祭 (第36回) に参加し、第23回大会より、返還。 ・□印 アメリカ・カナダ酪農視察派遣

全国酪農青年女性酪農発表大会開催要綱

1. 趣 旨

この大会は、全国各地域の酪農青年女性会議が推薦する酪農の優秀な経営の成果及び示唆に 富む有益な意見・体験を発表し、それに基づく意見の交換を行い、酪農に対する思いの共有を 図るとともに、わが国酪農業の安定的発展を目指して、生産性の高い豊かでゆとりある酪農経 営を確立し、国民経済の発展に資することを目的とする。

2. 主 催

全国酪農青年女性会議 全国酪農業協同組合連合会

3. 後 援

別紙開催要領3.後援のとおり。

4. 開催要領

別紙開催要領のとおり。

5. 農林水産祭への参加

毎年11月23日の勤労感謝の日を中心として、農林水産省及び(公財)日本農林漁業振興会の共催により開催される農林水産祭へ参加する表彰行事として、当該年度の前年の1月1日から当該年度の12月31日に至る期間の酪農経営発表の出品財をもって、これを充てるよう体系づける。

6. 経費

会員参加費・主催者の支出及び後援団体の寄付金をもって充当する。

7. 各地域酪農青年女性会議の酪農発表会等

全国酪農青年女性会議の会員たる各地域酪農青年女性会議が主催する酪農経営発表大会及び 酪農意見・体験発表大会等で、この大会開催の2か月前までに開催するものは、この大会の地 方予選として行い、各地域酪農青年女性会議は優秀なものを、経営発表及び意見・体験発表の 部ごとにそれぞれ1点、この大会に推薦するものとする。

全国酪農青年女性酪農発表大会開催要領

1. 開催期日

令和3年6月10日(木)~令和3年7月15日(木) (ただし、発表大会実施日は令和3年7月15日(木))

2. 開催場所

宮城県仙台市「江陽グランドホテル」

3. 後 援

農林水産省、宮城県、仙台市、日本放送協会(**NHK**)、地方競馬全国協会、 (公社)中央畜産会、(一社)家畜改良事業団、(一社)日本ホルスタイン登録協会、 (一社)中央酪農会議、(一社)Jミルク、(一社)全国酪農協会、(一社)酪農ヘルパー全国協会、 日本酪農政治連盟、(一社)全国農業会議所、各酪農業協同組合及び連合会

4. 参加資格

全国大会の地方予選として、全国酪農青年女性会議の会員たる各地域酪農青年女性会議(以下各会議という)が、この大会開催の2か月前までに開催した酪農経営発表大会及び酪農意見・体験発表大会等において優秀な成績を上げ、各会議から推薦されたものであること。

5. 参加点数

各会議ごとに、経営発表及び意見・体験発表の部それぞれ1点とする。

6. 参加方法

各会議は、上記期限までに酪農発表会等を開催し、別に定める「酪農経営発表審査規定」及び「酪農意見・体験発表審査規定」に基づいて予選審査を行い、発表大会終了後1か月以内に「全国酪農育年女性酪農発表大会予選審査報告書」を作成し、各発表部門ごとに、それぞれおおむね6点以上の発表の内容の詳細を付して主催者に報告し、この大会に参加するものとして推薦する。

7. 発表者

(1) 酪農経営発表

① 東北酪農青年女性会議 菊地 武士 宮城県 ② 北海道酪農青年女性会議 浅野 達彦 釧路市 ③ 関東甲信越酪農青年女性会議 鎌塚 智子 群馬県 ④ 中部酪農青年女性会議 岐阜県 西屋 直樹 ⑤ 西日本酪農青年女性会議 広島県 新舎 和久 ⑥ 九州酪農青年女性会議 馬場 秀治 長崎県

(2) 酪農意見・体験発表

東北酪農青年女性会議
 北海道酪農青年女性会議
 関東甲信越酪農青年女性会議
 中部酪農青年女性会議
 九州酪農青年女性会議
 市場
 市場
 市場
 一次城県
 一郎
 一郎
 茨城県
 一申島
 一申
 一申島
 一申島
 一申島
 一申島
 一申島
 一申島
 一申島
 一申島
 一申
 中島
 中島
 中島
 中島
 中島
 中島
 中島

8. 発表時間等

(1) 酪農経営発表

① 発表時間 1発表につき PC プロジェクター使用による

映写説明を含めて15分以内。

② 審査員の質問時間 1発表につき5分以内。

③ その他 PC プロジェクターは1台のみ使用することとし、

操作アシスタントは1人のみ認める。

(2) 酪農意見・体験発表

① 発表時間 1発表につき PC プロジェクター使用による

映写説明を含めて10分以内。

② 審査員の質問時間 1発表につき3分以内。

③ その他 PC プロジェクターは 1 台のみ使用することとし、

操作アシスタントは1人のみ認める。 オンラインによる発表も可能とする。

9. 表 彰

(1) 表彰日

令和3年7月15日(木)

(2) 酪農経営発表

農林水産大臣賞(賞状)	1点
農林水産省畜産局長賞(賞状)	5点
(公社) 中央畜産会会長賞 (賞状及び副賞)	1点
日本放送協会会長賞 (賞状及び副賞)	1点
全国酪農青年女性会議委員長賞(賞状及び副賞)	6点
全国酪農業協同組合連合会会長賞(賞状及び副賞)	6点
酪農視察派遣(1 発表につき 1 名)	6点
* (一社) 全国酪農協会と全国酪農業協同組合連合会より派遣さ	れる。
檜垣賞	1点

(3) 酪農意見・体験発表

全国酪農青年女性会議委員長賞最優秀賞(賞状及び副賞) 1点 全国酪農業協同組合連合会会長賞最優秀賞(賞状及び副賞) 1点 全国酪農協会会長賞(賞状及び副賞) 1点 全国酪農青年女性会議委員長賞優秀賞(賞状及び副賞) 5点 全国酪農業協同組合連合会会長賞優秀賞(賞状及び副賞) 5点 酪農視察派遣(1発表につき1名) 6点 *(一社)全国酪農協会と全国酪農業協同組合連合会より派遣される。

10. 審査基準及び審査方法

別掲の「酪農経営発表審査規定」及び「酪農意見・体験発表審査規定」のとおり。

11. 審査員

(1) 酪農経営発表

審查委員長 志賀 永一 帯広畜産大学畜産学部 教授

審查委員 今崎 裕一 農林水産省畜産局企画課 課長補佐

武田 航 (公社)中央畜産会経営支援部 部長

遠山 哲也 日本放送協会制作局第3制作ユニットチーフ・プロデューサー

中田 悦男 全酪連札幌支所 技術顧問

東 健太郎 全酪連購買生産指導部 酪農生産指導室長

(2) 酪農意見・体験発表

審査委員長 栗本 まさ子 公益財団法人 日本乳業技術協会 代表理事

審査委員 板本 洋子 全国地域結婚支援センター 代表

寺田繁(一社)中央酪農会議事務局長半澤善幸全国酪農青年女性会議顧問林浩太郎全国酪農青年女性会議元監事

中瀬 明美 東北酪農青年女性会議 元副委員長

- 12 -

12. 感染防止対策

- (1) 会場に参加される方々には、軽度であっても体調がすぐれない場合や、発熱、倦怠感、 息苦しさ、咳、頭痛などの症状がある場合は、参加をお控えいただきますようお願い致 します。
- (2) 会場へ入場時には非接触型体温計で体温測定をさせて頂きます。尚、37.5 度以上の方には参加をお断りさせていただきます。検温にご協力お願い致します。
- (3) 会場では常時マスクの着用をお願い致します。
- (4) 入場時の手指のアルコール消毒にご協力をお願い致します。 (アルコール消毒スプレーを設置いたします)
- (5) 必要な場所にはアクリル板などを設置し、飛沫感染防止対策をいたします。
- (6) リモートで視聴される方々におかれましても、それぞれの場所で感染防止に努めていただけるようお願いします。

13. 映像配信

発表大会の模様はリアルタイムで配信されます。開催場所(仙台)へ来場される方は配信映像に映る可能性があります。後日、発表大会を録画した映像はインターネット配信および全酪連会報等での写真掲載を予定しています。あらかじめご了承ください。

14. 事務局

〒108-0014 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号

全国酪農業協同組合連合会 総務部内

全国酪農青年女性会議

TEL 03-5931-8003

FAX 03-5931-8020

全国酪農青年女性酪農経営発表審査規定

1.参加資格

個人経営、法人経営、協業経営(協業経営と近似する協業組織で管理主体の明確なものを含む)であって次の要件を備えたものとする。

- ① その経営が、酪農の単一経営又は準単一経営*1であること。
- ② 常時10頭以上の経産牛を飼育していること。
- ③3ヶ年以上酪農経営に参加していること。
- ④ 当該年度において未発表の経営であること。

2. 審查対象

当該経営の酪農部門*2を審査の対象とし、経営の期間は原則として大会開催年の前年1月~12月までの1年間とする。法人の経営期間については直近の会計年度とする。

3. 酪農経営発表大会審査基準

(1) 酪農経営の収益性

生産費は適切なレベルにあり、所得率などは高いレベルにあるかどうか。

(2) 経営の安定性・発展性

経営規模の合理性や財務の健全性などはどうか。また新たな取組による経営の発展性は どうか。

(3) 飼養管理技術水準

乳量・乳成分など技術水準はどうか。

(4) 資源循環型酪農の実践

糞尿は適切に利用:処理されているか。また環境に考慮した経営になっているかどうか。

(5) 食品の安全性への配慮

生産管理シートの記載や衛生的乳質・衛生的環境作りなどは実践しているか。

(6)組合・地域活動への貢献

組合活動へ積極的に参加しているか。また地域住民・農家とのつながりなどはどうか。

4. 審査方法

3. の審査基準により、各発表者の経営内容を各項目ごとに下記の配点基準に従ってランク付けし、最優秀のものを選出する。

*配点基準 … Aランク (A、A') Bランク (B、B') Cランク (C、C')

注記

- *1 酪農の単一経営とは、農産物販売金額のうち酪農部門の販売金額が80%以上の経営をいい、準単一経営とは、酪農部門の販売金額が60%以上80%未満の経営をいう。
- *2 酪農部門は、牛乳販売、子牛(F1・ET 和牛含む)や堆肥の副産物販売等とする。

全国酪農青年女性酪農意見・体験発表審査規定

1.参加資格

- ① 酪農経営者
- ② 酪農に従事する者(牧場従業員、ヘルパー、獣医等)
- ③将来酪農への就農を目指す者

2. 審査対象

酪農を営む上での生活全体の改善に係る活動についての、個人又はグループ発表の意見・体験を審査対象とする。

3. 審査基準

審査は、次の点を総合的に判断して行い、その意見・体験が酪農の振興に果たす役割について、特に考慮するものとする。

- (1) 酪農との関わり
 - ① 酪農に対する思い・熱心さ
 - ② 酪農経営やその活動に対する意欲
- (2) 周囲とのつながり
 - ① 家族の理解や協力
 - ② 地域の酪農家及び住民との協調・交流
- (3)活動の広がり
 - ① その活動の継続性
 - ② その活動の影響力
- (4) 目標と夢の実現性
 - ① 今後の明確な目標や夢があるか
 - ② 今後の明確な目標や夢の実現に向けての見通しがあるか

4. 審査方法

審査員は、3. の審査基準により、各発表者が提出した発表文並びに発表当日の発表及び質 疑応答を考慮して、審査員の合議をもって最優秀賞を決定する。

- 16 -

酪農経営発表の部に贈られる「檜垣賞」について

自由民主党参議院議員 故 檜垣徳太郎氏(1916-2006)が、全国酪農青年女性会議に寄贈した旗に由来し、酪農経営発表の部の最優秀受賞者が所属する会議に贈られる。檜垣氏は加工原料乳の不足払い制度の創設に関わるなど、酪農の発展に大きく寄与された。また、第1回大会にあたる全国酪農婦人会議体験発表大会には来賓でもあった。

- 17 -

第49回 酪農経営発表

発表者と発表テーマ

所 属 会 議	発表テーマ	発表者氏名	頁
東北酪農青年女性会議	既存の牛舎で生産倍増計画 〜遺伝子改良で夢の 14,000kg牛群へ〜	菊 地 武 士 (きくち たけし)	21
北海道酪農青年女性会議	小規模経営のチェーン展開を目指して 〜ゆとりと人を呼び込む放牧・繁殖経営〜	浅野 達彦 (あさの たつひこ)	33
関 東 甲 信 越酪 農 青 年 女 性 会 議	これが私の生きる道 ~どうせやるなら好きなことして稼ぐ! 土地も守る!地域貢献もする! 所存でございます~	鎌塚 智子 (かまづか ともこ)	37
中部酪農青年女性会議	この地域に馴染んだ 酪農経営を目指して	西尾 直 樹	47
西日本酪農青年女性会議	第三者継承による酪農経営の 継続・耕畜・関係機関との連携 ~「感謝」の気持ちとともに~	新 舎 和 久	53
九州酪農青年女性会議	常に Step Up ~向上心を忘れない~	馬 場 秀 治 (ばば ひではる)	63





既存の牛舎で生産倍増計画 〜遺伝子改良で夢の 14,000kg牛群へ〜

東北酪農青年女性会議 菊地 武士

1. 地域の概要

私の住む宮城県丸森町は、県庁所在地の仙台市から約60 kmの南端、福島県との県境に位置します。人口は約12,800 人で、町土の7割を山林が占める中山間地域であり、町の 北部には東北第二の大河である阿武隈川が流れ、四季の織 りなす美しい自然や古くからの歴史と伝統に囲まれた「水 とみどりの輝くまち」です。

令和2年12月末現在、丸森町の酪農家戸数は29戸、乳牛飼養頭数は1,650頭と県内でも酪農が盛んな地域となっています。



2. 経営の概要

(1) 牧場の歴史

祖父は終戦により両親の実家である丸森町に戻り、現在の土地に入植しました。昭和35年に 飼養していた和牛を売り、北海道から1頭の乳牛を導入したことで我が家の酪農経営がスタート しました。酪農の傍ら、葉タバコの生産や山林労働者として働き、その当時のことを聞くと、「便 利な生活をしている今の人じゃ想像も出来ないような大変な毎日であり、すべて手作業だった」



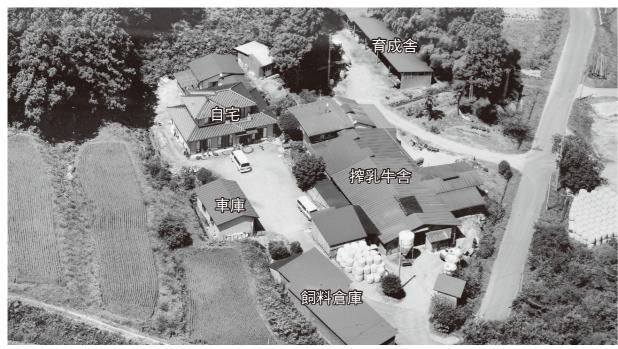
昭和52年に建築した搾乳牛舎

と話してくれました。昭和 63 年に祖父 から父へ経営継承された後は、作業効 率を向上させるバーンクリーナーやパ イプラインミルカーを導入するなど、 現在の菊地牧場の基礎を築きました。

平成18年に私が就農したのと同時に牛群検定に加入して、これまで不明だった血統情報を正確に把握することから改良を始め、長命連産の牛群づくりに取り組みました。

表1 牧場の歴史

年 次	内 容
昭和 35 年	祖父が北海道から乳牛1頭導入
昭和 52 年	対尻式つなぎ牛舎新築(22 床)
昭和 53 年	バルククーラーの設置
昭和 63 年	祖父から父へ経営が継承される
平成 元 年	バーンクリーナーの設置
平成 2 年	パイプラインミルカーの設置
平成 4 年	つなぎ牛舎 19 床増築(計 41 床)
平成 18 年	私の就農と同時に牛群検定に加入する
平成 29 年	つなぎ牛舎 7 床増築(計 48 床)
平成 30 年	飼料給与体系を分離給与から TMR に変更



上空から見た菊地牧場の全景

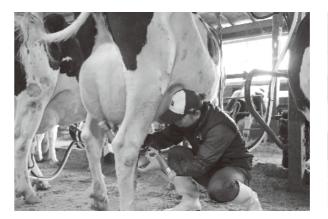
(2) 労働力

我が家は家族経営で、私と妻の唯、父の弘之、母の美也子の4人で作業に従事しています。92歳になる祖父も朝5時になると自ら牛舎に入って飼槽の掃除を開始し、作業が終わると休む間もなくスクレッパーで除糞を手伝うのが日課です。

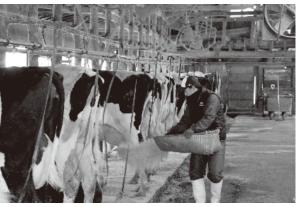
休日の確保は、酪農ヘルパーを利用しています。私には3人の子供がおり、趣味は家族みんなでキャンプに行くことです。大自然の中で子供たちと食事を作ったり、星を眺めたりする時間は 日頃の農作業を忘れさせ、心身ともにリラックスできる時間です。

表2 労働力と作業内容(R2.12.31)

氏 名	年 齢	続 柄	作業内容
菊地 武士	36 歳	本人	搾乳、給餌、育成管理、繁殖管理、草地管理
唯	36 歳	妻	搾乳、哺乳、経理、家事
弘之	62 歳	父	搾乳、堆肥調製、草地管理、作業機整備
美也子	61 歳	母	搾乳、家事
祐一	92 歳	祖父	牛舎清掃、家庭菜園
とよこ	89 歳	祖母	家事、家庭菜園



ユニットは4台で搾乳



敷料はモミ殻を利用し、こまめに除糞

(3) 飼養頭数および牛群成績

現在の飼養頭数は表3のとおりで、乳牛の更新は自家育成を基本としています。4年前の増築 により飼養頭数が増えたので、育成牛は機械倉庫だった場所をパドックとして活用していますが、 それでも収まらない分は丸森町営放牧場へ預託しています。

また、副産物として価値があがっている ET 和牛を効率的に安価で受精卵移植するため、採卵用ドナーを 3 頭飼養しています。 2 ヶ月に 1 回、過剰排卵誘起処置で 8 ~ 10 個を採卵して移植、 ET 和牛は年間 30 頭の出生を目標としています。

(4) 自給飼料生産および堆肥処理

自給飼料生産は、4.3haの圃場に飼料用トウモロコシとライ麦の2毛作、7.3haの圃場にはイタリアンライグラスを作付け、土づくりから播種・収穫までのすべての作業を家族で行っています。 我が家は、栄養価や収量性の高い飼料用トウモロコシの通年給与を飼料設計の根幹としており、そのおかげで生産された堆肥もすべて経営内で処理できています。

毎年、地域の農業改良普及センターで土壌分析を行うことで化学肥料の使用を最小限に留め、 有機肥料を最大限活用した地球環境に優しい資源循環の取り組みを実践しています。

表 3 飼養頭数 (R2.12.31)

区 分	頭 数
搾乳牛	45 頭
乾乳牛	2頭
初妊牛	7頭
育成牛	17 頭
採卵用和牛	3頭
計	74 頭

表 4 令和 2年の牛群検定成績

項目	数 値
個体乳量	10,653kg
乳脂肪率	3.92%
乳蛋白率	3.28%
無脂固形分率	8.69%
体細胞数	15.1 万 /ml
産次数	2.6 産
分娩間隔	415 日
授精回数	2.4 回

表5 令和2年の自給飼料収穫量

草 種	面積	収穫量	備考
飼料用トウモロコシ	4 2h o	215t	5,000kg /10a
(裏作:ライ麦)	4.3ha	107t	2,500kg /10a
イタリアンライグラス	7.3ha	292t	4,000kg /10a(年3回収穫)

表6 飼料給与メニュー(1日1頭あたり)

飼料名	経産牛	乾乳牛
飼料用トウモロコシ	12kg	_
自給ロール	4kg	4kg
配合飼料	10kg	-
乾乳期用配合飼料	_	$2 \sim 4 \text{kg}$
ビートパルプ	2kg	-
オーツヘイ (輸入)	3kg	-
US チモシー(輸入)	_	飽食
アルファルファ (輸入)	4kg	-
大豆粕 (セミフレーク)	500g	-
リンカル	250g	250g
ビタミン	50g	50g



スタックサイロ



TMR ミキサー

3. 牛群改良の取り組み

(1) 就農後の経緯

私は、平成21年7月に名古屋東急ホテルで開催された、第21回全国酪農青年女性酪農意見・体験発表で、就農してからの意気込みを話す機会があり、「花咲く三代目になるために、体型・生産性ともに優れた牛群改良に取り組んでいきます」と今後の目標を述べました。就農と同時に父から牛群管理・改良のすべてを任された私は、これまで父が実践してきた 能力重視の種雄牛選定から、体型にも重きを置き、共進会で通用する牛を作りたいと考えていたので、仲間内で流行っていた精液を中心に、適期を逃さないために自ら人工授精して牛群改良に励みました。

それから6年が過ぎた頃から改良の成果は徐々に表れ始め、宮城県内で開催される共進会で上位 入賞できる牛を育てあげ、岩手県雫石町で開催された東日本ディリーショーにも出品することができ ました。乳量も8,512kgから9,308kgまで少しずつではあるものの増えていきましたが、受胎に要した 種付け回数は2.4回、平均分娩間隔は432日と繁殖成績がなかなか改善されません。体細胞数もずっ と30万/ml前後で推移していたので、衛生管理や飼料設計を再度見直し、効果がありそうなサプリ メント飼料も給与してみました。しかし、さしたる効果はなく、時には父と意見が分かれ衝突するこ ともありました。私が思い描く酪農経営とは大きく乖離し、現実はそんなに甘くないことを知りました。



名古屋大会で意見・体験発表に出場

グンミヒル デイストライ スタンレイ 号

(2) ゲノム解析との出会い

試行錯誤の状況が続く中、平成28年2月に私が所属している宮城県酪農農業協同組合(以下:宮酪)主催の酪農講演会で、アルタジャパン(株の細野社長の話に私はものすごい衝撃を受けました。『乳牛のゲノム解析は、従来の遺伝評価にDNA情報を組み合わせた遺伝評価方法であり最も革新的な先進技術です。北米では牛群改良の新たなツールとして定着していて、乳牛の改良スピードが飛躍的に向上しています』という講演内容でした。

その2か月後、宮酪では全国初となる取り組みとして、「牛群育種改良推進事業」の概要を公表し、ゲノム解析に関わる検体の取りまとめと分析料金の助成を行うことになりました。私は常々、フリーストールの牛舎を新築し、作業の効率化を図って安定した酪農経営をしたいと考えていましたが、地元の先輩から、「規模拡大もいいけど、投資の必要がない既存の施設をフル活用して、低コスト生産で高収益の経営が実現できるかやってみたら?」というアドバイスを受け、私は悩みに悩んで、まずは「就農した平成18年の生産額を倍増させる」という目標を立て、ゲノム解析による牛群改良の一歩を踏み出しました。

表7 これまでゲノム解析した頭数

H28	H29	H30	R1	R2	計
20 頭	41 頭	21 頭	13 頭	13 頭	108 頭

(3) 宮酪を中心とした地域ぐるみの改良

分析機関である NEOGEN 社(米国)から報告されるデータは 75 項目にも及ぶ数値の羅列が 基本で、それを正確に把握して優れた雌牛を選抜するのは難しい作業です。そこで頼りになった のは、ゲノム解析の理解度を深めるための勉強会、「**宮酪ゲノム塾**」です。講師を務めてくれる エリートジェネティクス㈱の山岸さんが海外出張から帰国したタイミングで年に2回開催され、 北米の最新情報とゲノム情報活用術を学びます。その場で個々の累積されたデータをスクリーン に映して改善点などを話し合いますが、同じ目的をもって改良している地域の仲間30人とのディ スカッションはとても参考になります。



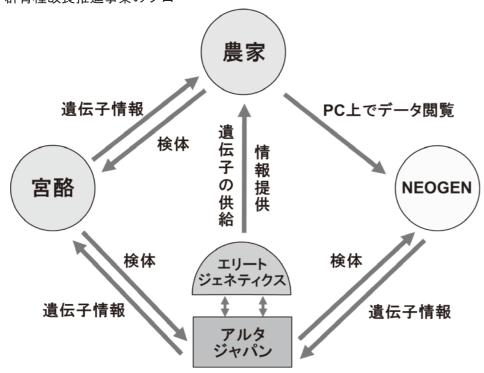


実際のデータを用いて改善点を話し合う

参加者はゲノム事業に取り組んでいる仲間のみ

私の地域では、図1のように宮酪で推進している牛群育種改良推進事業のフローが確立されて います。申込用紙に遺伝子解析に必要な血統情報を記入するだけで、誰でも容易に取り組める仕 組みになっており、地域全体でゲノム解析を利用して酪農の永続発展を目指しています。

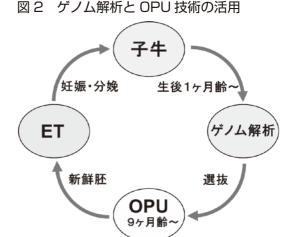
図1 牛群育種改良推進事業のフロー



(4) OPU 受精卵の活用

世代間隔を短縮し、優れた能力を持つ次世代の牛を迅速に作出する手法として、ゲノム解析に 取り組み始めた頃から丸森町のエリートジェネティクス㈱では、若いハイゲノムのホルスタイン 種から OPU-IVF (経腟採卵による体外受精) の技術を用いて性判別受精卵を生産しています。 この手法によって生産された性判別受精卵は、獣医師の協力もあって地域の仲間が安価で供給を 受けられるようになっており、遺伝的能力の高い後継牛がたくさん生まれています。

私の牧場では、ハイゲノムの未経産牛には交配 プログラムでメイティングされた性判別精液を授 図2 ゲノム解析と OPU 技術の活用 精します。未経産牛・経産牛に限らず、遺伝的に 受胎性の高い牛には2週間ごとの繁殖巡回に合わ せて受卵牛の同期化を行い、エリートジェネティ クス㈱が OPU で生産した性判別受精卵を移植し ています。これらの計画交配により、年間20頭を 目標に後継牛の確保に努めています。それ以外の 牛には和牛の受精卵を移植しているため、私の牧 場では人工授精が1割、受精卵移植は9割の状況 です。



(5) 遺伝子改良を進めていく中で思ったこと

私が考える理想の牛は、乳量はもとより受胎率が高いこと、乳房炎にならないこと、周産期病 にならないことの3つです。酪農において生産性の決定要因は栄養・飼養管理が7割、遺伝は3 割といわれていますが、今のところ、遺伝的に受胎性の高い牛はほぼ一発で受胎します。適切な 管理をしていればゲノム情報どおりという訳なのです。令和になってから生まれた子牛は1回目 の初乳で一気に4リットルも飲み、その後もこれまでの牛と比較して食欲がとても旺盛なので ビックリしています。

また、知見を広げるため数名の仲間と米国に行ってゲノム解析の実情と改良された牛群を見て きたこともあります。私が訪れた若い月齢の乳用牛を管理しているメイプルリー牧場では、北米 でもトップクラスの遺伝能力を持つ牛たちが集められ、衛生管理が行き届いたキレイな牛舎の中 で、与えられた牧草をモリモリ食べていたのがとても印象的でした。



煌びやかなエントランス



充実のカウコンフォートと素晴らしい牛

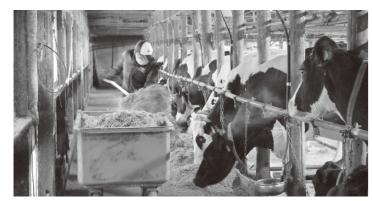
(6) 牛群検定成績を用いた検証作業

生産された牛の改良の成果を見るために必要なのが「牛群検定」であり、表8は年間の牛群検 定成績の推移です。ゲノム解析を始めてからの4年間で、年齢や産歴よりも受胎率の低い牛、体 細胞数の高い牛から淘汰・更新しました。

牛群成績が向上することで検定成績を見るのが楽しくなり、飼料給与体系を分離給与から TMR に変更、削蹄は6か月間隔から4か月間隔で実施、暑熱対策としてミスト装置を導入しました。遺伝子での改良だけではなくカウコンフォートにも気を配るようになったことで、平成27年と比較して個体乳量は1,345kg増加、ずっと悩んでいた体細胞数も16.6万/ml下がりました。しかし、令和元年10月に発生した「令和元年東日本台風」により、飼料の不足や牧草地の浸水が発生し、それらを起因とした繁殖成績の低下がみられましたが、現在はその影響も改善されて順調に推移しております。

表8 牛群検定成績の推移

項目	H27	H28	H29	H30	R1	R2
個体乳量(kg)	9,308	9,381	9,822	9,981	10,607	10,653
乳脂肪率(%)	3.77	3.79	3.71	3.80	3.67	3.92
乳蛋白率(%)	3.31	3.28	3.27	3.25	3.22	3.28
無脂固形分率(%)	8.73	8.77	8.78	8.77	8.75	8.69
体細胞数(万/ml)	31.7	34.1	25.6	24.6	18.5	15.1
産次数 (産)	2.6	2.7	2.5	2.5	2.7	2.6
分娩間隔 (日)	432	424	409	432	409	415
授精回数 (回)	2.4	2.3	2.2	1.8	2.2	2.4







削蹄風景

(7) 生産額倍増計画の達成

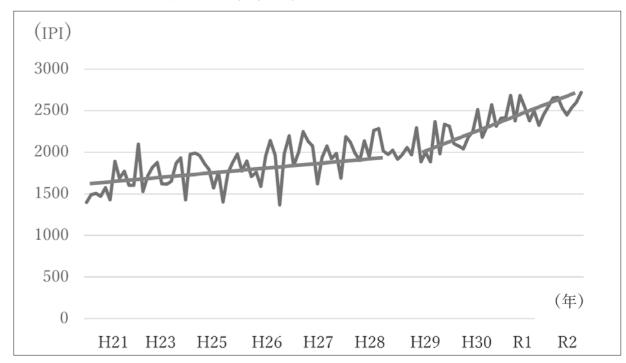
図3は、牛の生まれた年で区分けした遺伝的総合指数 (IPI) の推移です。分析した中で最年長の平成21年に生まれた牛の指数は『1427』でしたが、平成28年から前述した方法で改良を加えていき、改良スピードが飛躍的に向上したことで、これまで分析した牛の最高値は『2699』になりました。

このように、ゲノム解析に基づいて選抜した優秀な牛たちがこれから経産牛になります。今は牛群のレベルが上がってくることにとてもワクワクしています。



父: MR マツカツト ダンテ 1407 ET

図3 個体ごとの遺伝的総合指数 (IPI) の推移



そして、ゲノム解析を始める時に決めた、「就農した平成18年の生産額を倍増させる」計画ですが、 近年の乳価値上げや個体販売価格高騰など恵まれた状況も相まって、平成18年と昨年の生乳販売 額と個体販売額を足した生産額の合計を比較した結果、2.3倍となり目標は達成されました。

表9 平成18年と令和2年の生産額の比較

年 次	生乳販売額	個体販売額	計
平成 18 年	30,503,982 円 (336 トン)	1,556,000 円(30 頭)	32,059,982 円
令和 2 年	60,106,067 円 (489 トン)	14,734,804 円(39 頭)	74,840,871 円



4. 今後の経営について

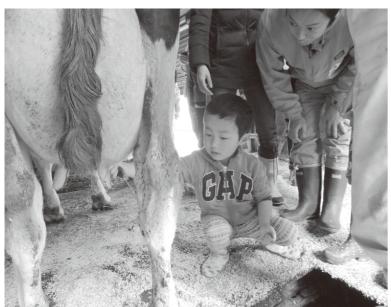
今後の経営については、引き続きゲノム解析を優秀な後継牛生産のツールとして、近親交配のコントロールや不良劣性遺伝子の排除なども含め、長きにわたり継続していけば、日本では到達が難しいとされている"14,000kgの牛群を作る"ことは不可能なことではないと遺伝子での改良を行ってみて確信しました。このまま経営を順調に推移させていき、より牛に快適な牛舎で増頭できるチャンスを掴みたいと考えています。

また、ゲノム解析によって得られる情報のひとつで、牛乳中の β -カゼインの遺伝子「A2」のみを保有する乳牛から搾った牛乳は、「**A2 ミルク**」と呼ばれています。まだ国内では確固たる市場はありませんが、A2 ミルクの方がお腹に優しく慢性炎症などを和らげるかもしれないと言われていますので、将来に向けて生産・出荷ができるように準備していきます。

5. 地域との関わり

子供会の行事で小学生と親御さん約 40 人を受け入れています。普段から飲んでいる牛乳がどうやって生産されているのか、どうしたら牛は乳を出してくれるのか、子牛への哺乳と搾乳の体験を通じて、実感的な理解を得てもらうのがねらいです。初めて牛に触れる子供たちがほとんどで、実際に乳搾りをしてみると、「牛乳ってあったかいんだね」という感想が多く聞かれ、命ある恵みをより深く考えるきっかけとなっているようです。

今後も消費者に対する取り組みを継続して、「**酪農のファン**」をたくさん作っていこうと思います。祖父の代から生乳の衛生管理と畜舎周辺の整理整頓は家族全員に徹底されてきましたので、いつだれが訪問してきても生産現場を見せられるようにしていきます。







子供会の行事で地元小学生の牧場体験を受け入れ、酪農のファンをたくさん作りたい

6. おわりに

祖父から始まった牧場も今年で61年目となり、私が三代目となります。3人の子供たちも私の幼少期と同じく牛が大好きなので、菊地牧場のバトンを次世代へ継承できるよう、ゆっくり時間を掛けて酪農の魅力を伝えていきたいです。

また、全国の酪農家や関係者が宮城県に来る理由として、「丸森の菊地牧場を視察したい!」と言ってもらえるよう、地域の仲間と切磋琢磨しながら、牛にも働く人にも優しい経営を維持・発展させ、遺伝子改良で夢の14,000kg牛群へ向け邁進していきます。

最後になりましたが、今回の経営発表を行うにあたり、牛群検定やゲノム解析の数字を詳しくまとめて みたところ、ゲノム解析に取り組んでからの牛群改良のスピードを改めて知ることができました。これま でご指導いただきました関係者の皆さま、地域の仲間、そして私のいちばんの理解者である妻と両親に この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。



- 30 -



小規模経営のチェーン展開を目指して ~ゆとりと人を呼び込む放牧繁殖経営~

1. 牧場の概要

浅野牧場は、北海道東部の釧路市に位置し、冷涼な気候と豊富な草地基盤を活かした、放牧酪 農を営んでいます。

経産牛60頭、つなぎ牛舎で全量ラップサイレージに配合飼料の分離給与と、北海道では平均 以下の規模と昔ながらの体制で酪農を営む牧場です。特徴としては、放牧を取り入れつつ、配合 飼料も給与するハイブリット型の経営で、牛の健康と一定の乳量確保を目指している点です。

乳量は一頭当たり 9000kg となっており、牛の管理では特に繁殖管理に力を入れています。足元の分娩間隔の予定平均は 371 日、妊娠率は 31%となっています。

労働力は経営者である叔父、自分と従業員2名の4人体制です。3人でも十分回りますが、4 人目を採用することで労働時間を短縮し、ゆとりを確保することができています。



重視している経営指標

所得率	25.3%
平均分娩間隔	12.5ヵ月
労働効率 (労働付加価値時間単価)	2,885 円

2. 自給飼料と適正規模について

浅野牧場では、約55haの草地を持ち、この草地を活かした生産を行うことを重視しています。 根釧地域の土壌は、泥炭であり、デントコーンの栽培はあまり適さず、リードカナリーグラスが どうしても繁茂してしまう特徴があります。

浅野牧場では、このリードを有効活用するため、早刈り、3回刈り、そしてペレニアルライグラスやオーチャードグラスなどを積極的に追播しています。

その結果として、全量がグラスでラップサイレージでありながら、CP は $14 \sim 16\%$ という数値であり、牛が食べる粗飼料を生産できています。

次に取り組んでいるのが、放牧です。 5月から 11 月頃まで、日中放牧し、草地面積は約 13haです。

放牧に期待している効果は、牛のストレス軽減とスタンディング発情の発見、更には草の伸び が加速するスプリングフラッシュに分娩時期を合わせ、効率的な乳生産を目指しています。

また、エサやりや掃除など、人の手間を大きく減らすことができるのも大きな魅力です。年々、 放牧をする農家が減っていきますが、牛の健康や労力削減、輸入穀物削減による環境対策のため にも、続けていきたいと思います。

たい肥の処理については、全量をセンターに委託しています。 牧場として大事にしているのは、 草地面積に対して適正な頭数規模を維持することです。 そのため、現状の 60 頭規模のまま、規 模拡大せずにどこまで収益性を高められるのか? という点が課題になります。

3. 繁殖管理による収益向上の取り組みについて

収益向上の柱になっているのが、繁殖成績の向上です。最も重視しているのが周産期病の予防 で、産後の管理を徹底し後産停滞や乳熱を減らしています。

10 年間の周産期病発生状況	頭数	割合
分娩頭数	584	
難産	6	1.03% (<10%)
乳熱	42	7.19% (<5%)
子宮炎	21	3.60% (<10%)
四変	7	1.20% (<3%)
ケトーシス	12	2.05% (<8%)
死廃(60 日以内)	11	1.88%

結果として、産後の子宮回復を促し、繁殖成績の向上につながります。

その上で、発情を見逃さないための観察と記録を徹底。昨年からはファームノートカラーを導入し、更には開業獣医によるフレッシュチェックと早期妊娠鑑定も取り入れ、繁殖管理を底上げしています。

また、2011年ころから未経産・初産牛を中心に雌雄判別精液を活用し、毎年30頭以上の雌子

牛を確保しています。同時に ABS の種雄牛推薦サービスを利用し、血統の改良に取り組んで来ました。昨年からは子牛のゲノム分析を開始し、選別を早めることで更に改良を加速させていきます。

改良の成果として顕著なのは、搾乳性の改善です。 4本そろって搾乳が終わる牛がほとんどで、 過搾乳による乳房炎も少なくなりました。そのうえで、治療については菌の同定を行ってから、 結果に合わせて対処する体制にしたところ、抗生物質の使用が従来より 85%程度減らすことが できました。現在は乾乳軟膏の削減に取り組み、更なる食品としての生産品質の向上を目指して います。

更に、4産、5産牛には和牛精液を活用し、F1 生産にも力を入れています。高齢牛は子出しが大きく、初産のF1 子牛に比べ販売価格が3~5万円ほど高くなる傾向があります。

基礎的な繁殖成績を高めた上で、若く、血統の良い牛から後継牛を生産し、高齢牛には高い販売価格を見込めるF1生産を行うことで、60頭規模のまま、収益性向上を実現できています。

4. 人材確保戦略と、将来的な展開について



将来的な人材確保に向けた取り組みとして、「交流人口の最大化」に努めています。

私が部長を務める JA 阿寒青年部では、平成 29 年より大学生を対象とした 2 泊 3 日の酪農体験合宿を開催しております。酪農を学ぶ学生は多く、これまでにのべ 100 人を受け入れ、そのうち 1 名が、将来的に地域への就農を予定しております。

こうした学生との交流は、個人としても力を入れており、Youtube チャンネルによる情報発信や、コロナ禍の現在はリモートでの勉強会を行っております。

Youtube チャンネルでは、「酪農を学びたい方へ」というコンセプトで、「放牧地の管理」や「発情発見のポイント」といった現場の技術情報を毎日配信しています。

農業系の学生や牧場従業員、業界関係者の方々にご覧いただき、日々質問や新しい技術についてのコメント、中には新規就農を目指す方からの悩み相談などが寄せられるようになりました。

リモート勉強会でも、学生からの熱心な質問や、実習受け入れの問い合わせなどがあり、コロナ禍が落ち着いてからの現場での交流や、将来的な人材確保につながっていく手ごたえを感じています。

このような交流を経て、現在の学生の就農ニーズが、必ずしも経営者を目指しておらず、「小規模・放牧・ゆとり」を重視していることがわかりました。そのため、浅野牧場は今後も小規模 放牧経営のまま更なる改善を続け、ゆとりを最大化していきます。将来的には、第二牧場、第三 牧場を建てることで、「サラリーマン就農」ができる小規模牧場をチェーン展開していくことを 目指していきます。

今後も、適正規模を維持し、繁殖に力をいれた放牧経営により、地域に人を呼び込む酪農を目指して、日々営農していきたいと思います。



これが私の生きる道 ~どうせやるなら好きなことして稼ぐ!土地も守る! 地域貢献もする!所存でございます~

関東甲信越酪農青年女性会議 **鎌塚 智子**

1. 地域の概要

群馬県前橋市は、関東平野の北西端で赤城山南麓に位置し、市内には利根川、広瀬川などが流れ、人口約34万3千人、面積311.59km、映画やドラマのロケ地としても盛んな県庁所在地です。 冬は新潟県・長野県から北西の季節風が吹き、県境にまたがる山岳部に甚大な積雪をもたらし、 前橋市に到達する風は「上州のからっ風」と呼ばれています。

私が住む粕川町月田地区は、前橋市の東部にあり、赤城山の南麓、粕川中流域に位置しています。イノシシやクマといった野生動物が多い自然豊かな土地ですが、農業者の高齢化と後継者不足で農地が荒廃し、最近では太陽光発電畑に変わる農地も増えてきました。



群馬県



2. 経営概況

昭和38年、義父の忠夫が1頭の乳牛を導入したのがきっかけです。これまでの養豚経営から 酪農経営に転換し、その後乳牛を20頭に増やし、夫が派米研修から帰国する平成2年には40頭 張り牛舎に増築しました。

平成6年に見合い結婚した私たちは、平成10年に102床のフリーストール牛舎に移行し、10 頭シングルのパラレル式ミルキングパーラーを導入しました。

平成 18 年に売上高が 1 億円を超えたのを機に会計事務所を入れ、平成 22 年に法人化しました。 社名は大好きなアーティストの QUEEN から名前を拝借し、「株式会社 QUEEN HOLSTEINS」 としました。

(1) 牧場概要(令和2年8月現在)

飼養頭数	経産牛:135 頭 育成牛:91 頭
作付面積	とうもろこし:30ha イタリアンライグラス:15ha エンバク:5ha

株式会社 QUEEN HOLSTEINS 農場施設



①搾乳牛舎:フリーストール

②分娩・乾乳牛舎:フリーバーン

③哺育牛舎:哺乳ロボット施設

④育成牛舎:集団ペン、フリーバーン

⑤パーラー: 10 頭シングルパラレルパーラー



①搾乳牛舎(フリーストール) ~築 22 年そんなに経ったのね~



②乾乳牛舎 ~乾乳期間も TMR 給与~



③哺育牛舎(哺乳ロボット管理) ~群を2つに分けてます~



④育成牛用の運動場 ~なんちゃって北海道~

(2) 労働力と作業内容

現在運営は、私たち夫婦、義父、勤続20年の従業員、4人の外国人技能実習生の合計8人で行っています。私たちは子牛の管理と環境整備、従業員は畑作業と給餌、実習生は搾乳や除糞等の一般管理を主に担当していますが、基本的に誰でも出来る作業体系としています。月7日の休暇であるため、毎日誰かが休みとなり、欠員を補充する形を採っています。

担当者	作業内容
夫	全般
義 父	育成牛管理
従業員	全 般
外国人技能実習生(4名)	全 般
本 人	子牛管理、経理、環境整備

(3) 会計事務所による総合的なアドバイス

当牧場では、テシマ会計と毎月経営状況の分析と把握を行っています。決算報告や節税対策だけでなく、乳量と餌のバランス、融資のコツなど、様々な内容を相談して経営指導を受けています。特に、大型機械や牛の導入など多額のお金が動く時には必ず相談し、時期や限度額、返済計画等のアドバイスを受けています。売上額を維持するためには適切な投資が不可欠であり、会計事務所等の経営アドバイザーを利用することは、収益を落とさず安定的な経営を維持していく上で重要な要素だと実感しています。

(4) 労務管理事務所による雇用及び労働環境についてのアドバイス

当牧場では、雇用管理に於いても、板垣労務管理事務所にお願いして、経営者として従業員や技能実習生への対応の指導を受けています。36協定や健康診断、社会保険の取扱い、労災等々、様々な規定があり心が折れます。しかし、人を雇う以上避けて通れません。経営に於いて主に現場での技術部門を担う私たちにとって、労働環境部門を担う労務管理事務所の指導は、私たちが安心して経営を継続するためには必要なことだと思っています。

3. 私の概要

私は、埼玉県で公務員の両親の元に生まれ、大学で畜産を学んだ後、動物実験の会社から埼玉県庁に入り、農業改良普及員の畜産担当として働いていました。担当地域で出会った酪農家、現埼北酪農の青木雄治組合長に今の主人を紹介され、なぜか群馬県の家族経営の酪農家に嫁ぎ、出産を機に県職員を退職しました。

4. 経営の特徴

(1) 自給飼料管理

私たちの経営や飼養管理にとって、とうもろこしサイレージやイタリアンサイレージといった 自給飼料の管理はとても重要です。これらは搾乳牛1頭/1日当たりの飼料給与量の約4割を占 めているため、牛への影響も大きく、特に注意しています。近隣の農地を借りて作付けを行なっ ていますが、作付当初は面積も小さく、年間を通して給与することが出来ませんでした。

①スタックサイロの問題点

スタックサイロは初期投資がなく取り出しもタワーサイロに比べ楽でしたが、品質と廃棄量が大きな問題でした。スタックサイロは取り出す度に取り出し口から腐敗が進むため、腐敗部分の廃棄量が多く、使用量が限られていました。また冬の間は品質の低下の心配はないものの、気温が上がる初夏からは二次発酵が顕著になって成牛に給与できませんでした。従ってサイレージの給与は10月~4月の半年間のみとなり、5月から一気に給与メニューを換えるため、牛に負担がかかり、乳房炎などの疾病が多発していました。輸入サイレージで夏場半年分を補ってみたものの、トランスバッグは圧縮が甘く、良質な品質を維持することができませんでした。

②スタックサイロからコンビラップへの変更

平成27年から新型ハーベスター「チャンピオン」を導入したところ、切断長が短く発酵品質も良くなりました。しかし従来のスタックサイロでの梱包は効率が悪いため、一部を以前から興味のあった細断型コンビラップでの梱包を委託し検証した後、導入を決定しました。その結果、チャンピオン導入により刈取時間は大幅に短縮され、コンビラップではしっかりと圧縮梱包することができ、廃棄量が大幅に減少できました。そして個包保存出来るためコーンサイレージを通年で給与できるようになり、安定した給与メニューにすることができました。また、コンビラップの場合多少の雨でも調製できるので、スタックサイロに比べてある程度作業の予測ができることもわかり、この点でも作業効率が上がりました。ラップ等の資材費用がかかるものの、課題であった通年給与、安定品質、廃棄量を解決することができました。

私達が感じるハーベスター比較表

	条数	実働8時間とした場合の収穫面積	切断長	メリット	デメリット
チャンピオン	3条	2.5ha	1 cm均一	高耐久性 詰まらない	高額
以前のハーベスター	4条	1.5ha	$3\sim 5\mathrm{cm}$	安価	壊れやすい 詰まりやすい

☆チャンピオンの方が作業時間が短く、自給飼料の品質も良い。

※あくまでも個人の感想です



ハーベスター「チャンピオン」 〜実は細断長も4段階に調整できる〜

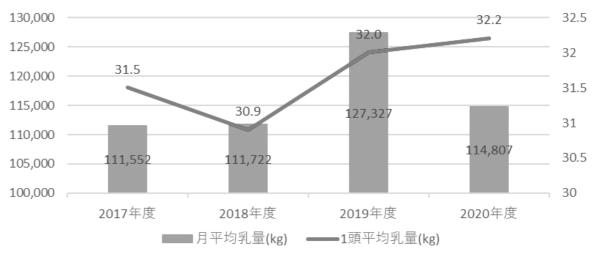


細断型コンビラップ ~これはホントに優れモノ!~

(2) 月平均出荷乳量と1頭あたりの平均乳量

※株式会社 QUEEN HOLSTEINS の会計年度 (9月~8月) に合わせた実績

月平均出荷乳量と1頭あたりの平均乳量



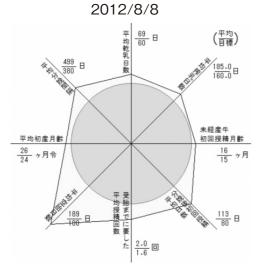
~意図しない牛群更新による搾乳頭数の減少~

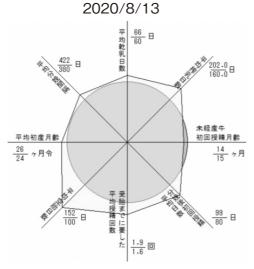
2020年の6月頃から原因不明の流早産、急性乳房炎による廃用が相次ぎました。かかりつけ 獣医、家保、全酪連を巻き込んで、飼料計算、ワクチンの有無、感染症など様々な角度から原因 究明したところサルモネラ菌が検出され、直ちに罹患牛の治療、ワクチン接種、牛舎の消毒等、 可能な限りの対策を行いました、現在は落ち着いて回復してきました。

(3) 発情発見器による省力化

平成25年より導入した発情発見器は、乳量や歩数によって牛の発情を発見するのですが、導入前と比べ発情発見率が格段に上がり、分娩間隔も短くなりました。モニターでチェックすることができ、出産・疾病等の必要なデータを入力する習慣がつくので、個体管理が濃密になりました。また、1日中牛舎で観察する必要がなくなり、群飼でありながら省力化にも役立っています。更に、耳標が両方取れてしまっても個体番号が分かるのは良い副産物でした。

発情発見器導入前後の繁殖成績比較





~平均分娩間隔が 499 日から 422 日に改善!~

(4) 哺乳ロボットによる管理

当牧場では年間約130頭の子牛が生まれますが、分娩ピークとなると哺乳だけで時間に追われ、子牛をしっかり管理する時間が作れませんでした。そこで平成29年に哺乳ロボットを導入しました。哺乳ロボットは最大約30頭を1台で管理してくれるので、分娩ピーク時でも子牛の哺乳に対する時間と労力が格段に抑えられました。その分観察や交流に時間をかけることが出来ます。人懐っこい子に育つので、診療時に逃げ回ることなく楽に捕獲することができます。しかし群飼いによる病気の蔓延というリスクもあり、現在は多少疾病もあるため、牛床清掃の時に主に石灰消毒、場合によってバーナーで床を焼き払い滅菌しています。



バーナーによる滅菌作業 〜戦いは続くよ、どこまでも〜



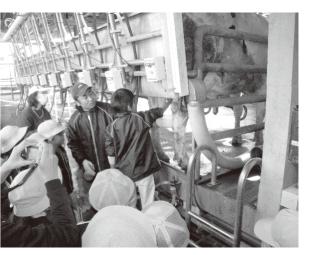
哺乳ロボット ~これは省力化に直結しますよ~

5. 地域との関わり

私たちは3人の子供のおかげで、地域の子供たちとも関わることが出来ました。幼稚園では出前搾乳体験とバター作り、小学校では牧場見学を実施しました。また、田植え体験や地域の夏祭りでは牛乳やヨーグルトを配布して普及活動を行っています。中学校では市の就労事業で、酪農の素晴らしさ、楽しさ、やりがいを、講師として弁護士や銀行員、公務員の皆さんと肩を並べて語ってきました。時代が農業に追いついてきたなと感じます。そして、高校では群馬県の農村生活アドバイザーとして、毎年勢多農林高校に赴き郷土料理であるすいとんの伝承を行っています。近隣に大型機械を所有している企業がないので、大雪の時には通学路や老人ホームの除雪を行なっています。



~市の就労事業で酪農を伝える~



~小学生向けに牧場体験を実施~

6. 今後の私たちの進む道

(1) 自給飼料生産を軸とした循環型農業と耕作放棄地の解消

牛が排泄する→畑に還元する→自給飼料を播種する→収穫調整する→牛が食べる→乳を出す・排泄する→畑に還元。この循環型農業が大切なのだと実感しています。堆肥のみで化学肥料は使わなくても済むことからも、放置すれば公害である糞尿も、畑にまいて耕耘すれば財産であるということを改めて確信しています。私たちは15年ほど前から、農業委員に問い合わせたり隣接する農家さんに地主を聞いて依頼に行ったりと、自ら耕作放棄地を見つけ面積拡大を図ってきました。最近は依頼が増え、畑だけでなく田んぽの管理依頼も多くなりました。地主の数が100人を越え、一軒一軒地代の支払いに時間がかかるため、口座振込に出来ないかと思ったこともありましたが、情報収集に行くと思えばいいのだと考え方を変えました。また、最近は面積が多くなったため自家堆肥だけでは足りず、近隣の畜産農家から譲り受けています。譲る農家も処理に困っているのが現状なのでwin×winの関係を築けていると思っています。

トウモロコシ作付面積と地主数等の推移

	とうもろこし	筆 数	地主	飼養	頭数	虎钉审话
	作付面積(ha)	事 剱	地土	経産牛	育成牛	突記事項
平成 22 年	19.9	77	58	119	88	法人化
平成 23 年	19.9	77	58	111	96	
平成 24 年	21.3	89	64	111	85	
平成 25 年	20.2	94	68	117	80	発情発見器導入
平成 26 年	24.7	115	78	123	100	
平成 27 年	26.9	121	84	127	110	チャンピオン導入
平成 28 年	29.7	121	91	127	108	哺乳ロボット導入
平成 29 年	29.6	133	91	130	93	1/3ラップサイレージ
平成 30 年	30.6	142	95	138	87	コンビラップ導入
令和 元 年	33.0	150	103	151	94	
令和 2 年	30.0	172	111	135	91	天候不良一部未播種

~地主 100 人突破しました!~

(2) 外国人技能実習牛で広がる可能性

10年ほど前から外国人研修生(現在は技能実習生)を受入れており、その人数を増やすことで畑作業に必要な人数を確保出来るようになりました。人員を増やして耕作面積を増やせば何より耕作放棄地の解消に貢献できます。循環サイクルも大きくなるかも知れません。また、実習生を受入れることで国際交流もでき、地域との外交にも貢献出来ると確信しています。日本は人が良くて働きやすい、だからまた日本に来たい、と思ってもらいたいですし、彼らも自分たちの国を背負い、一生懸命学び、働きます。当然、全力で技術を教え、対価も支払います。36協定も結んでいます。また、お祭り等の地域の行事にも参加させ交流を図っています。



外国人実習生母国との交流 ~インドネシア農業省による視察~



群馬名物八木節音頭 ~なぜか日本人より上手い!~

(3) コロナ過による影響

先述の通り、地域との関わりや外国人技能実習生の受け入れを実施しておりますが、コロナ禍による影響で様々な問題に直面しています。特に外国人技能実習生に関しては、新しい実習生の来日の目途が立たず、今後も安定的に人員を確保できるのか不透明な状況です。私たちは優秀な実習生のお陰で日々の作業が成り立っているため、このような状態が続き従来通り研修生が確保出来なければ、自給飼料生産の規模縮小は免れません。このままでは私たちが目指す自給飼料生産を軸とした循環型農業と耕作放棄地の解消を継続できるのか不安でなりません。

また、お祭りや講演会などの地域の行事の中止となり、実習生が地域交流できず、私たちも地域貢献ができません。早期の終息を願うばかりです。

(4) 最後に

このようにワクワク楽々な経営をしているつもりですが、まだ事業継承者が決まっていないことが悩みです。現在二人の息子をバイトと称して除角や搾乳、収穫作業をさせ、目下洗脳中です。一方、機械導入による技術改革等新しいことを行なうのも大事ですが、良い状態を維持する事が一番大変だと痛感しています。牛の健康状態、繁殖状態の維持は当然ですが、限られた労働力の中で省力化を目指しながら誰でも出来る作業体系を維持し、社会や地域と共に発展するために循環型農業を続けていくことは容易ではありません。しかし、今後も私たちは面倒なことを楽しみに換えて、このワクワク楽々スタイルを維持していきたいと思います。

最後になりましたが、発表にあたりご助力いただいた関係機関の方々、そして何より、上州の 風土に則り私をかかぁ殿下でいさせてくれる旦那に感謝の意を伝えたいと思います。



耕作放棄地の開墾 ~ダンナの一番やりたいこと~



②裾野は長し赤城山 ~by 上毛かるた~



この地域に馴染んだ 酪農経営を目指して

中部酪農青年女性会議
西尾 直樹

1. 地域の概要

私の住む中津川市蛭川は岐阜県東南部に位置し、名古屋市から中央自動車道で1時間の距離にあります。地域の東、西、北の三方を山に囲まれた亜盆地を形成し、地域の中央に和田川が流れ木曽川に注いでいます。気候は内陸性で、平均気温は14.4℃で夏暑く、冬は、雪はあまり降りませんが、朝晩は零下の日が続く気候で、気温の較差が大きいです。地域の約80%が山林に囲まれた自然豊かな農村です。

毎年4月16日の直近の日曜日に行われる「杵振り踊り」は約600年の歴史を持っている伝統の祭りであり、県の重要無形民俗文化財にも指定され、五穀豊穣を願い神社に奉納されます。

2. 経営の概要

我が家の経営は、昭和30年に祖父が乳牛1頭から飼育したのが始まりです。

私は3人兄弟の長男に生まれ、幼い頃から家業を手伝い、植物や動物が好きになりました。高校は近くの農業高校へ進学しましたが、畜産専攻がない学校であったため、果樹や野菜、花の勉強をしていました。家業を継ぐことを決意し高校卒業後は北海道にある酪農学園大学へ進学し酪農学科で酪農について本格的に学び、大学卒業と同時に22歳で実家に戻り就農をしました。西尾牧場は私で3代目となります。令和元年10月に父から経営移譲し、合同会社「にしお牧場」を設立しました。

3. 家族および労働力の構成(令和3年3月現在)

区分	経営主に 対する続柄	年齢	従事日数	作業分担	酪農経験年数		
	本人	35	350	酪農、和牛全般飼養管理	13		
	妻	33	100	事務、会計	2		
家族	父	66	350	飼育、自給飼料	43		
	母	59	320	飼育	35		
	計		4 人				
常雇	計	0人(月2回程度ヘルパー利用)					

- 47 -

4. 飼養頭数(令和2年2月1日現在)

(単位:頭)

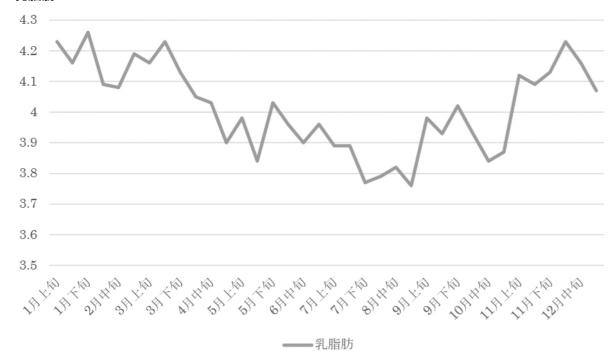
総頭数		乳用種	肉月	月牛	
	経産牛	未経産牛	育成牛	育成牛	繁殖牛
78	33	0	0	22	24

[※]育成牛は県営の牧場へ預託

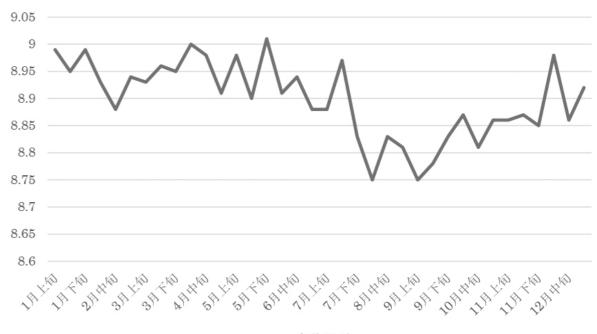
5. 乳量と乳成分の推移(令和元年)

	年間総乳量 (kg) 306,263				
	経産牛1頭当たり年間産乳量(kg) 9,142				
		搾乳牛1頭当たり年間産乳量 (kg)	10,560		
生乳		(平均脂肪率) (%)	4.16		
生乳生産	乳	(平均蛋白質)(%)	3.38		
		(平均無脂固形分)(%)	8.95		
	質	(細菌数) (万)	3		
		(平均細胞数) (万)	31		

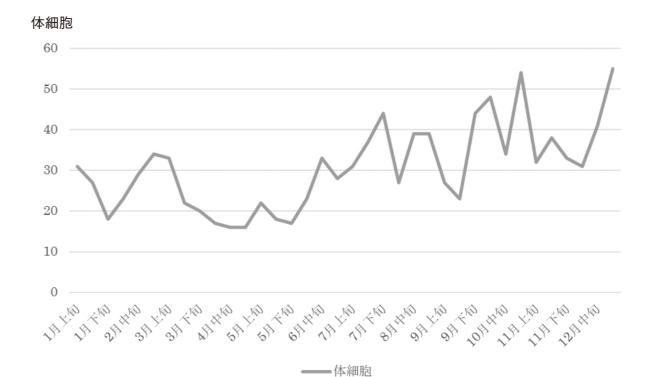
乳脂肪



無脂固形



---無脂固形



乳質については、良質なオガ粉を牛床に敷き詰め、常に牛床の乾燥と清潔な環境を保つように しております。また、組合の乳質改善事業でバルクスクリーニング検査を実施し乳質の向上と搾 乳衛生管理の徹底を心がけていますが体細胞数が高い事が今後の大きな課題です。

6. 飼養管理

餌の給餌は朝、昼、夕の3回で、牛の食欲をチェックしながら行っています。岐阜県には飛騨 牛のブランドがあるためETを利用した乳肉複合経営を行い自家和牛から採卵し乳牛へ移植して 和牛の子牛生産を行って所得の向上に努めております。自給飼料のイタリアンライグラスの1番 刈りは栄養価が高いため乳牛に給与し、2番刈りは主に和牛へ給与しています。乳牛の残滓はす べて和牛に給与し餌のロスがありません。特に繁殖管理や健康管理には気を使っています。授精 はF1が50%、乳牛(判別精液)25%、ET和牛25%となっております。近年、猛暑で換気扇 や牛舎回りに遮光ネットを張るなど暑熱対策にも気をつけています。

(令和2年)

	搾乳牛率(搾乳牛頭数÷経産牛頭数×100)	86.6
繁	受胎に要した平均種付回数	1.7
繁殖成績	3回以上種付を行った頭数割合	16.7
績	平均産次数	3.0
	平均分娩間隔	13.7

7. 源循環型酪農の実践

我が家は、自己所有地 153a(転換田 43a、飼料畑 110a)、借地 310a で、イタリアンライグラスとデントコーンの栽培に積極的に取り組んでいます。中山間地で畑地が少ないため牛舎周辺の畑で2毛作を行い収量を増やしています。イタリアンを2番草刈り取り後、遅まき品種のデントコーンを播種します。この事で堆肥はほとんど圃場へ還元処理するこが出来ています。機械は近隣の酪農家との共有で、収穫も共同作業で実施しています。最近で特に、イノシシによる獣害対策についても頭を悩ませているところです。

自給飼料作付け体系

△:施肥 ◎:播種 ☆:収穫

		作 業 月										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
イタリアンライグラス					☆	☆				\triangle	0	
デントコーン							$\triangle \bigcirc$			☆		
デントコーン				\triangle	0			☆				







8. 安心・安全をモットーに

私の所属する組合は、平成12年より牛に給与する配合飼料の「トウモロコシ」「脱脂大豆」は遺伝子組み換えをしていない原料や県内で生産された飼料用米を給与しています。生産された管内の生乳は組合の工場で加工処理され、主に生活協同組合へ牛乳を供給しております。消費者と「顔の見えるお付き合い」を実践するため酪農家視察や組合の工場見学の受け入れ等、積極的に取り組みを行っております。

9. 組合・地域活動への貢献

私は組合で青年部の会長を務め、先進地視察研修や乳質改善、飼養管理に関する勉強会を開催 しています。そして、私は家畜人工授精師として地域の和牛繁殖農家へ出向き授精を行っていま す。また、消防団員としても活動しており、現在11年目となりました。

蛭川地区には「あびろみ営農組合」と言う営農組織があり、耕畜連携を実践しています。地域の畜産農家からでる堆肥を地域の水田で利用してもらい、営農組合は飼料稲を作付して、出来たWCSを地域の畜産農家に販売し、お互いがウインウインの関係を築いています。

10. 今後の目標

親が続けてきた酪農経営を受け継ぎながら、さらに発展させて行くためにも牛群検定に加入し 検定成績を活用した飼養管理や課題となっている体細胞数の改善を行って行きたいと思います。 また、現状の作業体系を見直し作業効率の向上も図って、ゆとりの持てる経営にして行きたいで す。そして安定した経営を目指したいと思います。



第三者継承による酪農経営の 継続・耕畜・関係機関との連携 ~「感謝」の気持ちとともに~

西日本酪農青年女性会議 新舎 和久

1. 地域概要

私の牧場は、広島県三原市久井町にあります。

久井町は国による「平成の合併」推進を受けて、それ以前の御調郡久井町が平成17年3月に、三原市、本郷町、大和町と合併し、三原市久井町となりました。当地は広島県の中央東部に位置し、当地方の各地域を結ぶ松江尾道道(やまなみ街道)によって、南は福山、北は島根への移動がスムーズとなり、交通の便は、恵まれています。



2. 牧場の概要

構成員

続柄	作業内容・その他
本人	酪農作業全般・人工授精
妻	搾乳・経理
娘	搾乳・掃除・育成管理

繋養牛頭数

経産牛	48 頭
未経産牛	5 頭
育成牛	25 頭

3. 第三者継承から法人設立、経営開始まで

年 次	内 容			
2007年10月	旧経営者主の逝去から、牧場売却方針決定			
〃 年10月	搾乳・経理			
~ 2008年 8月	買収・継承に向けた協議会立ち上げ			
	経営継承の方法を検討			
2008年 8月	法人形態決定、定款の作成			
	資本金額の決定、出資の履行			
〃 年 9月	合同会社設立登記、農業経営改善計画の作成			
	青色申告開始届等を関係各機関に届出			
〃 年10月	農業経営改善計画認定			
〃 年11月	買取資産の評価額確定、融資機関と融資額協議			
2009年 3月	融資機関による融資の決定			
	牧場買収			
〃 年 5月	経営開始			

- 53 -

(1)第三者継承の経緯

2007年10月、当牧場の前身牧場の経営主が亡くなられた際に営んでおられた会社の運送部門と酪農部門の二つのうち酪農部門を廃止し、第三者に売却する方針を決定されていました。

私は、酪農部門傘下の牧場従業員として長年従事しながら自立の意欲を持っていたこと、また、 同牧場は地域の中でも中心的な存在として存続が望まれていたことなどから、関係機関等も交え て協議を重ねた中で、第三者として経営を買収、継承することを決断致しました。

昨今の酪農経営では第三者継承、合同会社など当たり前に聞く時代となっていますが、当時は珍しく、当牧場は2008年に第三者継承として経営の買収、これに併せて合同会社を設立しました。この継承に関しては、現在の酪農経営におけるモデルケースとして扱っていただいていると聞いています。

期間が余りない中で、法人設立においては様々な手続きがあり、非常にタイトで大変なスケジュールだったと記憶しています。

(2)協議会立ち上げ

第三者継承を行うにあたっては、法的な問題を含めて、様々な課題を解決する必要があったことから、関係する三原市農林水産課、広島県地域事務所農林局、広島県酪農業協同組合、広島県 畜産協会で第三者継承のための協議会を立ち上げ、幹事機関は三原市農林水産課に依頼しました。

早期の対応が求められる状況下にあった事から 2007 年 11 月には第1回の協議会を開催し、牧場の資産や飼料等取引会社の確認、買収に対する経営主等関係者の意向、関連機関の意見などの現状確認を行いました。

具体的な課題の洗い出しを行い、まずは経営形態をどのようにすることが適切か、買収にあたっての資金対応策、買収時期を含めたスケジュールを検討しました。

各課題は関係する機関が持ち帰り、対応策など内容を深めました。

(3)合同会社として継承

2008年2月に第2回協議会において

- ・経営形態は社員1人の合同会社とすること。
- ・資金は農林漁業金融公庫(当時)のスーパーL資金の活用を検討すること。
- ・買収時期は同年10月を目標とし、農業経営改善計画を作成すること。

などが決められました。

合同会社に決定した理由は、2006年の会社法の改正により有限会社として設立できなくなった代わりに新たに設けられた会社形態で、合名会社や合資会社と異なり有限責任である会社形態であり、以下のメリットが上げられるためです。

合同会社のメリット

- ①設立にかかるコストが安い
- ②出資者全員の合意のうえで、利益の配分を自由に決められる
- ③決算の公表義務がない

など

(4)経営の開始

2009年3月に融資決定を受け、牧場買取を行い、最初の協議会から約1年半後の5月に経営を開始しました。

経営を開始するにあたっては、これまでの経験を踏まえ、経営者として数字に基づいた経営管理を行うこと。飼料配合設計や自家配合による給与メニューの作成、人工授精師の資格取得や、新規技術である雌雄判別精液の活用等にも積極的行うこととしました。

また、本地域は集落営農法人を中心に古くから農地の集積が進んでいる地域であることから、 飼料用稲 WCS を核とした耕畜連携に取り組むこととしました。

4. 耕畜連携と飼料用稲 WCS の最大限の活用

(1)飼料用稲を利用することになったきっかけ

前牧場時代には、転作田を借り、自給粗 飼料の作付を行っていましたが、イノシシ やシカによる獣害被害の発生が、年々ひど くなり、その対策をするものの労力面より 管理が難しく、牧草の質、量の安定的な確 保が困難な状況でした。

そうした中、地域の集落営農法人に転作として、飼料用稲の栽培を取り組んでいただけることとなり、これを好機と思い、牧草サイレージ給与体系から飼料用稲 WCS 給与体系へと変更しました。

(2)試行錯誤

始めたばかりの飼料用稲は、今でこそ、広 島県内では飼料用稲の専用品種「たちすずか」 が普及していますが、当牧場では、畜産技術 センターの指導を受けながら 2001 年には飼料 用稲「くさのほし」の給与を行っていました。

2012年からは、品種を「たちすずか」変更し、給与を開始したところ乳量が増加しました。





ただし、通年給与をするまでの収量確保はできなかった事から、乳量の変動もどうしても避けられない結果でありました。

耕畜連携として、地域の酪農家も飼料用稲 WCS を利用する事、堆肥を還元する事等を行っていく中で、生産者と利用者で構成する「水田飼料作物生産協議会」を立ち上げ、話し合いをしっかり行うよう努めました。

この結果として、年々作付面積は増加し、また、以前はカビの発生が多発していましたが、刈り取り

速度の調整、ラップの巻数を変更、乳酸菌の添加等、オペレータとも協議を重ねた結果、カビによるロスが減少し、品質向上・安定した収穫により通年給与が可能となり、併せて、さらに乳量も増加しました。

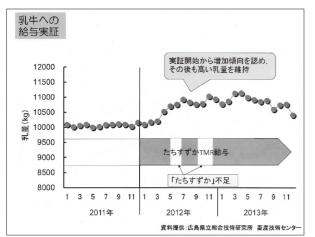
(3)飼料給与

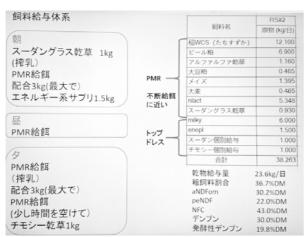
広島県畜産技術センターの指導により、1頭あたり飼料用稲 WCS の給与量を現物で15kgと 設定し、乳量、乳質、繁殖についても好成績で推移しました。

現在ミキサーでの混合では半日分の PMR の製造しています。

この事から、飼料用稲の投入量は1個、もしくは2個などの区切りで混合しており、飼養頭数により、給与量が変化してしまう事が課題となります。

現状は1頭あたり $12 \sim 13$ kgの給与となっています。



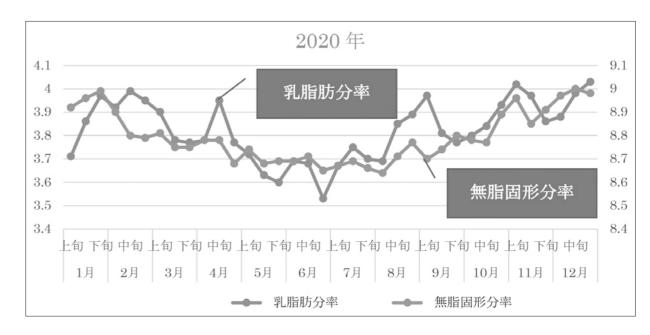


5. 乳質(1月~12月平均)

区 分		2019年	2020年
①経産牛1頭当年間成績	(kg)	11,285	11,472
②乳脂率	(%)	3.80	3.82
③無脂固形分率	(%)	8.82	8.79
④体細胞数	(万/ml)	24.0	19.4
⑤細菌数	(万/ml)	1.1	1.0

年間を通じて、乳脂肪率 3.50%、無脂固形分率 8.50% を下回る事は無く安定した乳質を維持してきました。

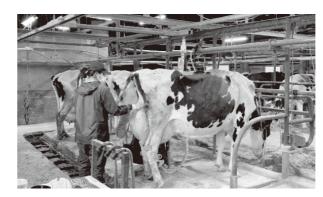
以下の表は、1月から12月までの月3回の乳質検査結果から乳脂肪分率と無脂固形分率を表すグラフです。



8月においても乳脂肪分率は3.6%以下となることはなく、安定して、出荷することが出来ました。

この要因としては、地域の集落営農法人の取り組みにより、飼料用稲WCSの品質が一定化し、 年間給与が出来るようになったことが大きいと考えています。

また、経産牛1頭当たり年間成績では、乳量においても11,000 kg を達成することが出来、 経営の安定に結びついています。



搾乳の風景



また、この安定的な乳量・乳質の維持を的確に行うためにも生産管理シートの記載等についても確実に実施しております。





2013年にはミルカーを新たに導入しました。パソコンと連動する機種であることから、構成員全員の「見える化」が可能となりました。

ミーティングでは、牛1頭ずつの状況など話し合って作業に移ることにしています。

5. 繁殖管理(性選別精液、受精卵移植を活用)に力を傾注

繁殖管理においては、当牧場では、大きな問題が2点ありました。1点目は後継牛を安定的に 確保出来ない。2点目は経営の安定化です。

まず、1点目対策として、後継牛の年間確保目標頭数を15頭程度とし、そのすべてについて 雌雄判別精液を活用し確保することとしました。

未経産牛だけではなく、経産牛へも積極的に授精する様努めました。

しかし、経産牛では、未経産牛に比べ、雌雄判別精液の受胎率が2割程度と低いため、当牧場では、2017年からの対策として、子宮角深部注入による受胎率向上に努めました。

次に2点目の経営の安定化・所得向上の対策として、和牛受精卵移植に積極的に取り組むとと もに乳用雌後継牛の年間確保目標頭数分を早い時期に確保する方向性をもって、経営にあたりま した。

この結果、和牛受精卵の産子が増えたことで、副産物収入の増加が所得向上を後押しし、経営の安定化に結びつきました。

以前は、凍結卵を使用した時期もありましたが、現在は、広島県東部畜産事務所の指導を受けて、新鮮卵とビトランを積極的に使用し、更なる受胎率向上に努めています。

この手法を採り入れる以前、分娩間隔は約440日前後であったのに対して、現在の分娩間隔は概ね440日で推移していますが、この内には肉転用牛も牛群検定の成績に加味される約10頭の牛がいる事がありますが、この肉転用牛を除外すれば420日程度に改善されます。

それでもやはり、繁殖管理については課題があると認識しており、目標として平均分娩間隔 380日を目指して取り組んでいます。

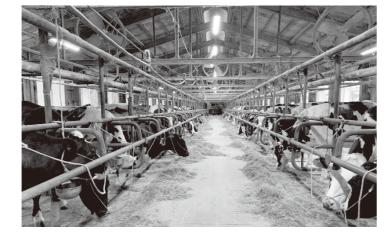
乳牛雄子牛の出生が減少し、計画的な雌子牛・和子牛生産に支えられて、所得率を高めることできたのは言うまでもありません。

また、特に和牛仔牛を分娩後の事故で失わないためにも、2019 年度の ICT 事業を活用し、「牛温恵」を導入しました。この機械は分娩日の前日に知らせがスマートフォンに通知される仕組みをもつ優れも

ので、なおかつ、分娩時にも通知される事から、分娩後の事故低減に結びつきました。

子宮角深部注入の手法に関する講師 の要請があり、地域酪農家への技術貢献を考えて、これを引き受けました。

2017年12月には、(一社)広島県 畜産協会主催の酪農経営支援研修会 が開かれ、県内酪農家向けにこの手 法についての講演に携わりました。



6. 堆肥管理

堆肥管理について、糞尿分離を行っています。

昨年度、「広島県堆肥共励会」において、優秀賞を戴くことが出来ました。堆肥づくりにも力を入れています。その時の成分については、以下のとおりです。

■堆肥の成分値(2020年7月時点)

検査項目	検査結果		
水分	56.5	% (現物)	
粗灰分	29.6	% (乾物)	
pН	9.5		
EC	5.9	mS/cm	
窒素全量	1.7	% (乾物)	
燐酸全量	1.8	% (乾物)	
加里全量	3.4	% (乾物)	
石灰全量	6.8	% (乾物)	
苦土全量	1.2	% (乾物)	
炭素率	19.9	(C/N 比)	



糞は、堆肥化をした後、耕畜連携として、飼料用稲を作付けしている水田への供給が大半を占めておりますが、一部、他の耕種農家への配達や、直引取販売への希望にも応じています。

尿は、自給粗飼料(オーチャードグラス・イタリアンライグラス)を作付けするほ場(約4ha)搬入散布による土地還元をしています。

この自給粗飼料の収穫数量は、30,000kg(100 ロール分)程度であり、これは、主に育成牛へ給与しています。

この収量が少ない原因は、前述のイノシシやシカの獣害被害が甚大であることによります。

7. 地域教育の PR・地域とのつながり

広島市内の小学校からの牧場見学を毎年受入れています。バター作りなども体験してもらいつ つ、酪農とはどのようなものか、牛乳はどのように搾られるのか、子供たちへの説明とともに、

初心に振り返る良いきっかけをいただいています。

また、地域に根付いた酪農を目指す考えもあり、地域行事には積極的に参加しています。次のページの写真は「はだか祭」「祇園祭」の写真です。はだか祭は、大正8年より行われており、2018年には100周年を迎えた伝統的な祭りです。







8. その他の取り組みについて

その他さまざまに取り組みを行っています。

(1)乳用牛ストレス解消に向けて

飼養牛のストレス解消のため、暑熱対策として細霧装置の設置や暑熱対策をしつつも副産物収入も得られるソーラーパネル設置しております。

また、防虫ネットを設置し、害虫によるストレス軽減に努めています。

乾乳牛舎は、広くスペースを確保し、分 娩時の事故と疾病対策に努めています。

削蹄を年2回実施し、蹄の疾病予防へ 努めています。



(2)リスク管理について

リスク管理にも取り組みました。豪雨災害などの災害対策として補助金を活用して非常用発電 機を購入しました。

乳房炎や異常産のリスク低減のため、乳房炎対策ワクチンや異常産ワクチンについても全頭接種しています。

9. 最後に

最後になりますが、現在、畜産業界は高齢化や後継者不足の問題が深刻化しており、酪農の仲間が減少して行くさみしさを実感しています。

家族経営に対する補助金が手厚くされつつ有りますが、今後も減少への歯止めはきかないのではないかと不安に思っています。

消費者に牛乳をしっかりと飲んでいただくためには生乳生産基盤が弱体化していては、牛乳の 消費向上はかなわないと想像できます。 一経営体だけではなく生産者全員が協同の精神で良質な生乳を増産し消費者の期待に応える事 は社会的責任であると考えます。

しかし、新規就農希望者があったとしても、金銭的なハードルが高く就農しづらい業種である ことも事実です。

これらを踏まえ、私のできることは、自分がそうであったように、意欲ある従業員には、経営を譲る気持ちをもって経営継続を行っていき、また、当牧場としては、2020年に研修生の受け入れや後輩育成などを目的に、今日まで、父母の住まいだったものを研修棟としてリフォームを行い、受け入れできるよう整え、後継者が育てられる環境整備にあたっています。

これにより、私の様な第三者継承がモデルケースとなり、新規就農の道が開けたり、各地でも 継承される事例が増える事は、とても嬉しいことです。

合同会社としてスタートして 10 年以上が経過した今があるのは、先輩方や、地域・関係機関・ 広酪の方々が自分の支えになってくれたためであり、今も様々に支えになってもらう中で、それ ぞれに感謝し、自らも次世代を担う若者が酪農に興味を持ち、就農に向けて繋ぎ役、橋渡し役と しての存在でありたいと考えます。



- 60 -



常にStep Up ~向上心を忘れない~

九州酪農青年女性会議 馬場 秀治

1. 地域の概況

私の住んでいる南島原市(南有馬町)は、長崎県の南部、島原半島の南東部に位置し、北部は島原市、西部は雲仙市と接しており、有明海(島原湾)をはさんで熊本県天草地域に面しています。南島原市は雲仙山麓から南に広がる肥沃で豊かな地下水を含む大地を有し、温暖で、恵まれた気候・土壌条件を生かして、野菜、畜産、ばれいしょ等を生産する県下一の農業地帯となっています。酪農においては、飼養戸数31戸、約1,400頭で、戸数・頭数共に県内の約4分の1 (26%)を占めています。

また、歴史的にはキリスト教がこの地に伝来し、歴史遺産が数多く存在しており、その中でも 『島原・天草一揆』の終焉の地として有名な『原城跡』は平成28年に世界文化遺産に登録されま した。





- 63 -

2. 経営の推移

我が家の酪農は祖父が昭和39年に千葉県より乳牛1頭を導入したことから始まります。

父の跡を継ぐために、地元の島原農業高等学校に入学、乳牛のことをもっとよく知るために畜 産部に入部し、そこでは色々なことを学びました。今でも経営の基礎になっています。

平成13年に卒業後、就農しました。研修には行きませんでしたが父から厳しく酪農のいろは を教え込まれました。

平成18年、就農より5年ほど経ち、結婚を機に父から牛舎全般を任され、私で3代目となりました。

私は、2人兄弟の長男で、弟も6年前に県内で新規就農し、お互い長崎の酪農を盛り上げよう と競い合って頑張っています。

表1 経営の推移

年 次	項目	飼養頭数
S39	酪農開始:祖父が千葉県より導入	1頭
H13.3	長崎県立島原農業高等学校 卒業	
4	就農	40 頭
18.12	結婚 (牛舎管理等全般を任される)	36 頭
25.7	経営コンサルタントの利用開始	
28.9	牛舎新築	60 頭

3. 経営の概要

(1)家族構成・役割分担

家族構成ですが、父、母、妻、娘 5 人、息子 1 人の 10 人家族で、毎日ワイワイと楽しくやっています。

現在、作業は私と妻、父の3名のほか従業員1名で、経産牛64頭の繋ぎ牛舎での酪農経営をしております。

役割分担は、私が搾乳、飼料調製、給餌、糞尿処理、妻が搾乳、哺育、育児、父が搾乳、母は 家事全般を受け持っていましたが、先日、父が搾乳から引退したので、父には糞尿処理を受け持っ てもらっています。

また、父は露地野菜の栽培も行っていますので、農繁期には従業員の方に頑張ってもらっています。

図1 家族構成・役割分担

氏 名	年 齢	続 柄	役割分担
馬場 秀治	39	本人	搾乳、給餌
秀実	67	父	糞尿処理
弘子	66	母	家事
康代	40	妻	搾乳、哺育、育児
明美	14	長女	部活は吹奏楽部
理沙	11	次女	好きな教科は体育
恵実	5	三女	好きな食べ物は肉
華奈	3	四女	好きな食べ物はごはん
咲希	2	五女	好きな食べ物はアイス
秀	5ヶ月	長男	寝ること、泣くこと
大崎 勝也	41	従業員	搾乳 (週3夕、日曜朝夕)

(2)酪農経営コンサルタントの利用

牛舎全般を任されるようになってから7年ほど経った平成25年、新規就農する弟と同時期に、 熊本県の経営コンサルタント(H式)に依頼することとしました。

当時、自給飼料を中心に、濃厚飼料を給与し、自家育成牛による後継牛作りをしてきました。

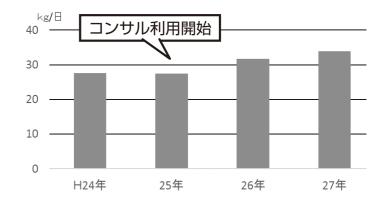
しかし、経営がうまくいっておらず、廃業も考えていたほどでしたので、藁にもすがる思いで お願いしました。

コンサルタントの内容は、自給飼料は作らず、単味飼料による自家配合の給与、自家育成はせず、後継牛は外部導入するといったものでした。

それまでの方向性と全く異なっていたので、うまく行くか不安でしたが、図2にあるとおり、1頭当たりの乳量は格段に伸び、現在の経営内容を考えると頼んで良かったと思います。

作業効率を向上させ、生乳生産に特化しており、自給飼料の圃場は、野菜等に置き換わりました。堆肥の処理についても、全量、畑に利用し、環境にも考慮したものとなっています。

たので、うまく行くか不安でしたが、 図2 コンサル前後の個体乳量の推移



(3)牛舎環境

①新牛舎の建設

我が家の牛舎は増築を重ねていたため、コンサルにより作業効率は向上したものの、決して 良いものとは言えませんでした。

そのため、搾乳ラインが煩雑で過重労働となっている搾乳作業の効率化、また、育児も併せ て頑張っている妻への負担を減らしたいという想いから、省力化を図るための搾乳ロボット等 の導入を計画しました。視察にも行きましたが搾乳ロボットは我が家の牛舎環境に合わないと 思っていたところ、中古のキャリロボ4台並びにパイプラインを導入できるようになったこと

から、自己資金で64頭規模の新牛舎を建設することとしました。(詳細は表2のとおり)

平成28年9月、1年を掛け、全工程の40%を親子で行ない、低コストの新牛舎が完成しました。

これにより、増頭並びに作業の効率 化が図られました。

キャリロボのおかげで搾乳時間は約 1時間半と変わらず、頭数は40頭から 64頭になりました。



表2 新旧牛舎の仕様

項目	旧牛舎	新牛舎
飼養頭数	40 頭	64 頭
飼養形態	つなぎ(ストール長 150×幅 120)	つなぎ(〃 180 ×幅 130)
飼料給与	分離給与	TMR 給与(自家配合)
搾乳方式	パイプライン	キャリロボ・パイプライン
暑熱対策	送風機	トンネル換気(換気扇、送風機)、 インバーターファン、細霧装置、 牛体への散水
糞尿処理方法	流下式	バーンクリーナー・堆肥舎

②カウコンフォート

暑熱対策として、トンネル換気の牛舎にしたのですが、当初は、**図3**のとおり牛体に平行して風を通していたのですが、空気の入口と出口で温度差があったことから、試行錯誤の上、牛体の横から風を通すことにしました。

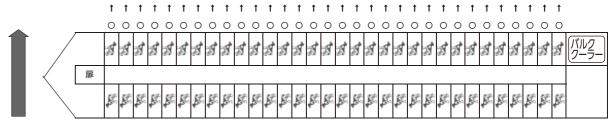
また細霧装置を設置し、さらに牛体の首元への散水を行なうことにより夏場の暑熱ストレス を減少させ、残暑のロスを軽減できていると思います。

実はトンネル換気の一番の効果は、作業をする私達が暑くないことかもしれません。これに より飼養管理の向上が図られた上に、作業効率が格段に上がりました。

また牛の快適性を求めて、牛床を広くしました。幅を120cmから130cm、長さを150cmから180cmにしました。寝起きが楽になり、飛節の腫れが少なくなりました。さらに疾病対策並びにストレス解消のために削蹄を年3回、実施しております。

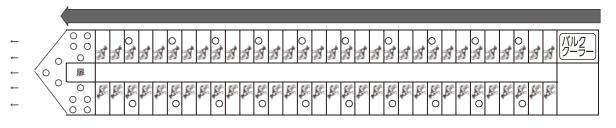
図3 牛舎構造

新牛舎当初



60n

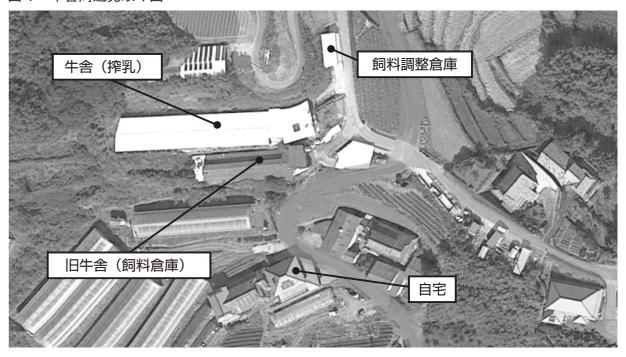
改善後



(4)牛舎の概要

牛舎周辺については、図4のとおりです。 周りは緑に囲まれ、美しい日本を象徴する棚田、『谷水棚田』 (日本の棚田百選)もあります。

図4 牛舎周辺見取り図



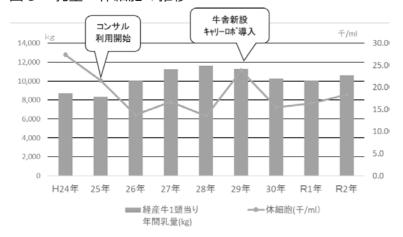
4. 経営の推移

(1)乳量

乳量については、図5のとおり、平成 25 年の経営コンサルタントを利用してから、翌年には1頭当たり8,331kgから10,079kgと増加しました。

平成28年の新牛舎建設後、翌年の自分の怪我による飼養管理不足もあり乳量は落ち込みましたが、現在は家族と共に改善に取り組み、回復傾向にありますので更なる努力をしたいと思います。

図5 乳量・体細胞の推移



(2)体細胞

体細胞については、コンサル開始後、飼養管理に重点を置き、図5のとおり、平均15万/ml 前後で推移していました。

しかし、先ほどの怪我の影響もあり 29 年は上がってしまいましたが、飼養管理の徹底並びに暑熱対策の見直しにより、平均 18 万/ml と落ち着いていますが、更に高品質な生乳を生産できるよう努力したいと思います。

(3)分娩間隔

分娩間隔については、新牛舎に移行して、 22.6ヶ月から15.3ヶ月へ改善されてますが、まだ 改善の余地があるので、関係機関と連携を密にし て分娩間隔の短縮に取り組みたいと思います。

(4)収益性

収益性についてですが、新牛舎建設に当たり、ミキサーも導入し給餌していましたが、残さが 多いという課題がありました。そこで、クラスター事業を活用し、高能力なミキサーを導入した ところ残さがほとんどなくなりました。

飼養管理の改善により1頭当りの所得は表3のとおり約25万円となり、所得率もUPしました。

表3 収益性の推移

	R 1	R 2	年次差
経産牛1頭あたりの年間収入(円)	1,438,457	1,523,579	85,122
経産牛1頭あたりの年間所得	148,612	251,082	102,470
所得率	10.3%	16.5%	6.2%

[※]長崎県畜産コンサルタント成績書より

5. 今後の目標

(1)乳量

平成28年9月に新牛舎へ移行し、経産牛1頭当りの乳量も順調に増加していましたが、自身の 怪我により家族に迷惑をかけ、飼養管理が行き届かないこともあり、乳量が低下していきました。

現在は回復してきていますが、旧牛舎時代から新牛舎へ移行した平成28年の個体乳量(11,611kg)を越せるように努力していきたいと思います。

※令和2年は10,616kg

(2)乳質

生乳生産者として、今まで以上に、『安全・安心で良質な生乳』を生産していきたいと思います。 乳牛を健康に飼養するためのカウコンフォートにも気を配っていきたいと思います。

(3)ゆとり

念願であったヘルパー組合にも加入し、月に2、3回利用し、学校行事等へも参加出来るよう になりすごく助かっています。

しかし、ゆっくり家族旅行には行ったことがないので、長女が成人するまでには行けたらいいなー と思います。

最後に、現状に満足することなく、常に向上心を持って酪農経営をやっていきたいです。



技術および経済総括表

項	目		発 表 者	(東北) 菊地 武士
	兴働品	家族・構成員	(時間)	5,280
	労働時間(畜産) 雇用・従業員		(時間)	168
		(従事人数(構成員))	(人)	4
		日数/1人(構成員)〉	(日)	352
経	1	か 家族・構成員	(人)	2.6
営		・2000hr 換算) 雇用・従業員	(人)	0.1
概	_	中平均飼養頭数 	(頭)	48.0
		生産 実面積	(a)	1,160
要		総販売乳量 (21)	(kg)	489,862
	-	切生子牛販売頭数	(頭)	33
		育成牛販売頭数 8000000000000000000000000000000000000	(頭)	1 0
		怪産牛販売頭数 肥育牛販売頭数	(頭)	5
	_	的一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	(円)	18,099,579
		お1年自総別符 牛1頭当たり年間所得	(円)	377,075
	_	事 率	(%)	24.1
収	経	部門収入	(円)	1,564,393
益	産	うち牛乳販売収入	(円)	1,252,210
	牛 1	生産費用	(円)	1,247,105
性	頭	うち購入飼料費	(円)	577,659
	頭当たり	うち労働費	(円)	144,023
		うち減価償却費	(円)	201,429
		経産牛1頭当たり年間産乳量	(kg)	10,205
		平均分娩間隔	(カ月)	13.8
		受胎に要した種付回数	(回)	2.4
	牛	平均産次数(期首)	(産)	2.7
	乳	平均産次数(期末)	, , ,	
生			(産)	2.6
	生	牛乳1kg当たり平均価格	(円)	122.7
産	産	牛乳1kg当たり生産費	(円)	84.1
性		乳 脂 率	(%)	3.92
		無脂乳固形分率	(%)	8.69
		体 細 胞 数	(万個 /ml)	15.1
		地依存率	(%)	85.6
	飼料′	TDN自給率	(%)	73.2
	乳飼」	化(育成・その他含む)	(%)	46.1
安	総借	入金残高(期末時)	(円)	3,926,000
安全性	経産牛1頭当たり借入金残高 (期末時)		(円)	81,792
性	+	牛1頭当たり年間借入金償還負担額	(円)	39,417
労	売上高経常利益率		(%)	15.5
労働	_	井1頭当たり投下労働時間	(時間)	114
生産		(構成員) 1人当たり経常所得	(円)	6,855,901
		付加価値(経常利益+労賃)	(円)	18,581,325
収益		カ1人当たり労働付加価値 (株式号) 1人火なり労働仕加価値	(円)	6,821,338
益性	_	(構成員) 1人当たり労働付加価値	(円)	7,038,381
	カ脚ク	効率 (労働付加価値時間単価)	(円)	3,411

(北海道)	(関甲信)	(中部)	(西日本)	(九州)
浅野 達彦	鎌塚智子	西尾 直樹	新舎 和久	馬場 秀治
5,500	4,200	6,160	10,470	6,023
1,500	13,200	2,640		208
4	2	3.1	3	4
305	300	248	349	365
2.8	2.1	3.1	5.2	3.0
0.8	6.6	1.3	0.0	0.1
60.0	142.5	33.5	47.0	61.4
5,500	3,000	480	700	0
519,000	1,377,677	306,263	491,389	632,288
30	62	4	30	40
15	2	29		0
0	42	8	13	14
0	3	0	1=040,000	0
17,572,299	32,539,546	14,279,262	17,940,623	17,949,582
292,872	228,348	426,247	381,715	292,338
25.3	19.7	22.0	23.4	19.2
1,155,658	1,156,219	1,937,777	1,632,539	1,523,579
817,314	1,026,494	1,144,162	1,310,453	1,295,651
1,108,244	1,220,630	1,648,269	1,335,897	1,262,075
272,800	513,267	663,793	717,095	520,508
201,183	161,346	306,057	123,826	156,062
189,527	188,391	269,375	191,565	197,183
8,650	9,668	9,142	10,455	10,298
12.5	13.6	13.7	14.8	15.3
1.5	2.2	1.7	2.6	1.8
2.5	2.1	3.0	2.3	2.1
2.3	2.1	3.8	2.2	2.1
103.0	112.4	115.8	125.3	109.7
88.2	102.5	90.9	92.3	108.2
3.85	4.07	4.16	3.81	3.84
8.75	8.80	8.95	8.82	8.98
15.0	29.8	31.0	24.0	18.9
30.0	97.0	66.6	0.0	0.0
40.0	22.5	20.3	48.0	0.0
33.4	50.0	58.0	54.7	40.2
27,194,700	88,404,254	22,015,243	35,380,000	38,936,000
453,245	620,381	657,171	752,766	634,137
61,450	47,088	140,569	121,148	138,567
11.7	8.4	9.3	11.9	12.2
117	122	263	223	101
6,389,927	15,495,022	4,636,124	3,427,053	5,960,346
20,192,299	51,288,668	16,292,157	17,940,623	21,014,882
5,769,228	5,895,249	3,702,763	3,427,053	6,745,268
7,342,654	24,423,175	5,289,661	3,427,053	6,978,211
2,885	2,948	1,851	1,714	3,373

- 70 -

第31回 酪農意見·体験発表

発表者と発表テーマ

所 属 会	議	発 表	テー	マ	発 表 者	氏名	頁
東北酪農青年女	文性会議		。の牧場作り への翼〜		清 水 (しみず た	大 翼	75
北海道酪農青年	女性会議	自分の ただひたすら	選んだ道を に、がむしゃ	らに	引 頭 (いんとう	<u> </u>	85
関東甲信越青 年 女 性	这 酪 農 会 議		は叶う 就農5年目~		矢 澤 (やざわ V	一 郎	89
中部酪農青年女	て性会議	酪農家 - 伊自良の酪	献できる を目指して S農家の後継 ました -	迷者に	角 守 (すみもり	仁 ひとし)	99
九州酪農青年女	文性会議	らくのう	で嬉しいを	!	中島なかしま		103
西日本酪農青年	女性会議	こんにちは	もーちゃ	・ん	吉 田 (よしだ	裕美ゆみ)	113

ゼロからの牧場作り 〜明日への翼〜

東北酪農青年女性会議 清水 大翼

1. 地域の概況

私の住む鮫川村は、福島県を縦断する阿武隈山系の南部に位置し、標高約400mから700mの山間部に農地や居住地が点々と構え、昔ながらの「里山の原風景」がそのまま残る「のどかな美しい農山村」です。冬の降雪量は少なく、比較的過ごしやすい地域です。人口3,500人、村の76%が森林や原野という自然環境に恵まれたところですが、周辺には、東北自動車道や常磐自動車道、新幹線、空港がありアクセス良好なエリアです。



豊かな自然に囲まれ、清らかな水と

澄みわたる空のもと生産される大豆やエゴマは村の特産となっております。

星空へと続く天文台と称される「鹿角平天文台」や紅葉の時期に多くの人を魅了する強滝が有名で、多くの人が訪れる観光スポットとなっています。







強滝

2. ファームつばさのこれまでの歩み

H14年	父が NPO 法人明日飛子ども自立の里を設立			
H15年	NPO 法人でポニー、ジャージー牛導入			
H18年~ H22年	麻布大学入学・卒業			
H24年	NPO 法人明日飛子ども自立の里の牧場部門設立、 酪農を本格的に開始			
H25年	ジャージー牛 15 頭導入			
	結婚 Example State Transfer Tra			
H29年	NPO 法人より独立。ファームつばさ立ち上げ			
	ソフトクリームミックスを委託加工にて製造、販売開始 Since 2012			
H30年	加工場新設、クリームチーズ、モッツアレラチーズ製造開始			
H304-	クリームチーズ販売開始			
H31年 ミルクバー、瓶牛乳、発酵バター委託製造、販売開始				
R 2 年	JGAP 取得			

3. ジャージー牛との出会い

私は非農家の両親のもと6人兄弟の3番目として生まれ育ちました。酪農との関わりは全くなく、両親は個人事業者として山村留学を行っていました。私が中学校卒業の日、人生を大きく変える出来事が起こったのです。

家畜商「馬を買いませんか?」(ポニーと共 に現れる)

父親「ちょっと見てくる」(家を出る)

父親「…♡」(ポニーと目が合い、運命的な 出会い)見るだけと言って出て行った父親が 「目があっちゃった」という理由で、即購入。



パーシモンちゃん

これが家畜商との付き合いの始まりとなり、のちに私が酪農の道へと進むきっかけとなっていくのです。ポニーを家畜車から下ろしている最中のこと。父親「本当はジャージー牛が欲しかったな。」と独り言。独り言でつぶやいた父親の言葉を家畜商は聞き逃さず。 3 週間後…本当にジャージー牛を連れてきました。

さすがに今回は牛を飼うのは無理だろうと思っていた私の思いとは裏腹に、父は即購入。理由 を聞くとやはり「目が合っちゃった♡」と笑顔でした。これが、私がジャージー牛と出会った運 命の日となりました。

4. 酪農の道へ

我が家にジャージー牛が来てから、私の生活は一変しました。全く牛飼いの知識がないまま、 まるで愛玩動物を世話するかのように接する日々が始まったのです。餌やりや搾乳が日課となり、 高校へ通いながらも牛の世話をしていました。

高校3年生の進路選択。「地元で働きたいが一度は県外に出てみたい」と強く思い、県外の大学進学を考えました。常に動物が一緒にいる生活をしており、動物が大好きであった為麻布大学の動物応用科学科へ入学を決めました。

大学には酪農の実習があり、2年生の時に1か月間北海道の標茶町にある星牧場で実習をしました。 我が家にいたジャージー牛1頭の世話とは大違い。これが酪農なのか!と衝撃を受けました。

実習も中盤になると作業も覚えられ、段々と楽しくなり、やりがいも感じられるようになりました。この頃、就職を考えていた私は、酪農は立派な「職業」だと身をもって実感し、「そうだ、 鮫川村で酪農をやろう」と決意したのです。

ちょうどその頃、北海道にある花畑牧場が注目を浴びており、「自分で搾った牛乳を加工し、 直接消費者が喜ぶ顔が見れるなんてすごい!! 俺もやってみたい!!」と思うようになり、実習で訪 れた星牧場の様な家族経営、更には6次化をすることが夢となっていました。

実習期間を終え、父親に「酪農をやりたいんだ!」と相談をすると、否定等一切せず「それはいいね」と背中を押してくれました。

~酪農を始める為にはもっと酪農について勉強したい。

2年間という期限を決め、酪農の実習をしてから地元に帰ろう。~

大学4年生の夏休み、北海道をバイクで回りながら、様々な牧場を見学。その中で、北海道遠軽町で6次化している岡田牧場に出会い、ここで勉強してみたいと思い、即電話をし、「卒業後雇って欲しい」とその場で直談判。なんとか了承をもらい、卒業後の実習先が決定しました。

大学卒業後、北海道での実習へ夢と希望を持って出発。実習先の親方も新規就農で酪農を始めており、1から10まで親切に教えてくれました。



実習先を求めてバイクで北海道 1 周



実習先の岡田牧場

5. 念願だった牧場設立へ

2年間の実習期間で酪農の基礎を学んだ私は、「地元で酪農を始める!」と意気込んでいました。 しかし、地元に戻った時はちょうど東日本大震災の1年後であり、世間がまだ騒然としていると ころでした。幸い鮫川村はそこまで被害はなかったのですが、今の状況で牧場を始めるのは厳し いのではないかという意見が殆どで、「酪農が出来ない、このまま夢で終わってしまう」。どうす ることも出来ない私は、父へ相談をしました。

当時、父は社会問題でもあった引きこもりの方を支援する為「NPO 法人明日飛子ども自立の里 | を設立しており、利用者の方をカウンセリングして自立支援を行っていました。

父は、私の話を聞くなり、「感情表現や人とのコミュニケーションが苦手な人たちにとって アニマルセラピーとして動物と触れ合うのは良いことだ。NPO の仕事とコラボしてやっていこ う! と提案してくれました。私は父の提案にのり、NPO法人の牧場部門として牧場を新規に 設立することになり、資金についてもすべて負担してくれることになりました。

幸い、近くに廃業した和牛農家さんの空牛舎があり、借り受けすることが出来た為、当時 NPO 法 人へ来ていた方たちと一緒に開墾を開始。1年間かけて牛舎や周辺の整備が完了。

平成25年、ついにジャージー牛を15頭導入し、夢であった牧場を始めることができたのです。 そして、NPO 法人の利用者の方達と一緒に、牛の世話をすることが(アニマルセラピー)始まり、 今までに20人の方を受け入れ、一緒に作業をしてきました。







牛舎整備風景

導入したジャージー牛達

6. 地域と共に歩む~かけがえのない仲間たち~

牧場を始めてからというもの、牧場部門の責任者としてとても忙しい毎日を過ごしていました。 忙しい中でも、地元の商工会や消防団に所属し、仲間と活動することで、ささやかな息抜きが出 来ていたような気がします。又、地元を歩いていると、若者が新たに仕事を始めたということで、 激励の言葉をもらうこともありました。

年齢など関係なく仲間と語り合うことで、新たなアイディアを思い付いたこともあります。地 域の仲間は、かけがえのない財産だということを改めて感じました。

平成29年には、大学時代の同級生である彼女と結婚しました。彼女は、山口県出身でしたが、福島 県の山奥であるポツンと一軒家に近いこの家に嫁いできてくれました。結婚してすぐ、妻も牧場作業を手 伝ってくれ、慣れない仕事ながらも一生懸命に取り組んでくれました。今まで一人で背負ってきた責任を、 妻と共有し、相談できる存在ができたことは、私にとってとても励みとなりました。

「こんな素敵な妻を迎えて、酪農を頑張っていること」を、今まで出会った地域の仲間全員に、 報告しなければ!こんな思いを抱いていた時、こうなったら村を挙げた結婚パーティーを開き、 地域の方全員に報告できないかと考え始めました。

すぐに、商工会青年部に所属している先輩へ相談すると、私が考えた案を実現させるべく、青年部や 同級生のメンバー総動員で結婚パーティーを開催してくれました。鮫川村長を始め、地元の方合わせて 170人が参加し、自分が搾ったジャージー牛乳での乾杯、酪農家スタイルになるお色直し等、酪農を身

近に感じてもらえる私が思い描いていた結婚パーティーをする ことができました。結婚パーティーでは、鮫川村で酪農家とし て頑張る事を決意表明しましたが、パーティー後間もなくして、 NPO 法人では出来ることに限りがあり、自分の思い描く家族経 営や6次化が出来ないと考え、妻と共にNPO法人からの独立 を決意し、自分の名前にちなんで「ファームつばさ」と牧場名を つけ、活動を始めました。



7.6次化への挑戦~加工、販売~

6次化の夢に挑戦する為、復興庁で開催している「福島ファーマーズキャンプ | へ参加してい ます。福島ファーマーズキャンプとは、新しい福島の農業を作る志とプライドを共にする福島県 内の農家が集まり、ブランディングやマーケティング等のビジネススキル習得に向けた勉強会の ことです。外部講師を呼んでの講習会の他、参加農家の体験発表等、様々な取組みについて知る ことが出来きます。商品開発や販路開拓に関して、多くのことを学んでいます。

この勉強会には、他業種の方も参加しており、私はそこで福島県内で地場産品を販売する社長 と仲良くなりました。6次化商品への熱い思いを伝えると、加工商品ができたら取り扱いをして もよいと快諾を得ることができました。しかし、現状では加工する場所も技術もありません。

そんな時、知り合いだった栃木県那須にある森林ノ牧場(ジャージー牛を飼養して加工商品を 手掛けている観光牧場)の社長に相談してみると、自分で加工できるようになるまで委託製造を 引き受けてもよいという話になりました。まずは、搾りたての牛乳を持っていき、ソフトクリー ムミックスを製造してもらい、販売するところまで漕ぎつけました。その他にも、現在は発酵バ ターやミルクバー等を委託製造してもらっています。

6次化への第一歩を踏み出しましたが、やはり自家製造で商品を作りたいという思いが強くあ り、妻も興味を持っていたチーズの製造ができないか検討を始めました。たくさんのアドバイス をもらい、最終的には福島県の補助事業を利用して、使用をしていなかった敷地内にある建屋に チーズの製造器具を導入しました。クリームチーズとモッツアレラチーズの試作を開始し、研究 を重ねた結果、商品として販売出来るまでに1年の歳月がかかりました。今では、飲食店へ卸す ことが出来、美味しい料理へ使われています。モッツアレラチーズは未だ開発中ですが、知り合 いのシェフから製品となった際には買うと声をかけてもらっています。



福島ファーマーズキャンプの仲間



加工風景

8. 販路拡大へ向けて~JGAP取得~

少しずつですが、様々な場所で自分の商品が売られているのを目にすると、とても嬉しく、鮫川村の活性化の一助になれているのではないかと思っています。何より、消費者の顔を直接見ることが出来ることに非常にやりがいを感じています。

多くの消費者と関わる機会が増える中、自分の生産した牛乳が安全、安心であることを明確に証明できないかと考え始めました。何か特色を持つことができれば、自分だけの強味になる。そんな時、福島ファーマーズキャンプでJGAPの存在を知りました。JGAPとは、食の安全や環境保全に取り組む農場に対して、第三者機関によって審査され、与えられる認証のことです。取得にはどうすればよいか、すぐに福島県の担当者へ相談しました。担当者から取得方法や概要を教えてもらい、書類整理や資料作成に取り掛かりました。福島県の担当者や家畜保健所、酪農組合の協力を得ながら、補助事業を使ってコンサルタン



福島県内の酪農家初! JGAP 認証書

トを雇い、1年以上の期間を得て、福島県の酪農家では初となる JGAP を取得することができました。

JGAPの取得により、今まで以上に製品の安全、安心という付加価値をつけて販売が出来るようになりました。私の作った製品を、県内外多くの消費者が手に取ってくれることにより、福島県全体の生乳生産のPRにつながると確信しており、販売については更に熱が入ります。

ファームつばさ加工商品と販売先一覧

種 類	製造方法	販売店舗
クリームチーズ	自 家	飲食店2店舗
牛 乳	委 託	道の駅4店舗
ソフトミックス	委 託	道の駅2店舗
ミルクバー	委 託	道の駅2店舗
発酵バター	委 託	飲食店 3 店舗







9. 経営の安定に向けて~収益確保~

学生時代に目指していた夢は叶えることができました。しかし、乳製品加工については全体の 出荷乳量の1割程度で大半を委託製造に頼っており、6次化したと胸を張って言えない状況です。 その為、加工作業の効率化を図る為、補助事業を利用しチーズカッターを導入しました。販売 先についても地域のレストランへ話をし、買取量を増やして頂ける約束を頂いている為、3年以 内には出荷乳量の5割を自己加工したいと考えています。

又、乳製品の販売については安定した経営の上に成り立つと考えており、収益確保の為、5つのことに取り組んでいます。

①和牛受精卵移植

高能力の後継牛を残す為、ゲノミック検査を全頭実施しました。能力が低いと評価された牛には、積極的に和牛受精卵を移植し、副産物収入を確保するようにしています。

②個体乳量のアップ

ジャージー種は、ホルスタイン種に比べて乳量が少ないですが、個体乳量をアップさせるため、 ゲノミック検査のデータも活用しながら交配種雄牛を選定しています。

③飼養管理の改善

酪農組合で実施している繁殖検診や AMTS ソフトを利用した飼料設計等を利用し、トータル的にサポートを受けています。自分一人では管理しきれない部分を、獣医師・指導員等の協力のもと、多くの目を増やして管理しています。

④ジャージーの雄子牛の相対取引き

ジャージー牛の雄子牛をセリ市場に出しても、買い手が付かず、ただ同然で取引きされてしまいます。そのため、少しでも収入を確保する為、加工業者に委託し、子牛肉として知り合いのフレンチ料理店と直接取引きをしています。

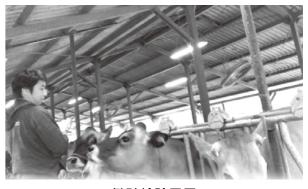
⑤ ICT 技術の導入

農繋期には、手が足りないこともあり、繁殖面が疎かになったり、分娩後の事故が重なったり しました。そこで昨年補助事業を利用して、分娩監視カメラ、牛恩恵を導入したことで、いつで も牛舎の様子や分娩状況を確認することができ、非常に有効に活用しています。

独立後には、農業次世代人材投資資金等の新規就農者の向けの資金を活用しましたが、新規就農者の支援があることは非常にありがたいと感じました。



ET 和牛産子



繁殖検診風景

10. 次の夢へ

私の次の夢、それは「どんな人にも美味しく飲んでもらえる牛乳を生産すること」です。様々な普及活動に参加することで多くの消費者と関わる機会が増えました。消費者の中には、牛乳が体に合わずお腹が緩くなるから飲まないと言った方がいることを知りました。そんな時、A2ミルクの存在を知ったのです。A2ミルクは普通の牛乳と違い、お腹がゆるくなりにくいと言われています。又、ジャージー牛の方がホルスタインに比べ A2ミルクを出す個体が多いと聞き、より多くの消費者へ飲んで貰えると共に自分の牛乳に更に特色をもたせることができると思い、今は A2ミルク生産牧場になることが次の夢となっています。

遺伝子の確認を行ったところ、現在牧場で飼養している 28 頭のジャージー牛の内 8 頭が A2 ミルクを出す遺伝子を持っていることがわかりました。今後はその牛から後継牛を取れるよう、交配種雄牛を選定していく予定です。

A2 ミルクについては、流通や販売経路等確立されていない部分が多く、現在の一元集荷多元 販売の体制では難しい部分が多いですが、持ち前の行動力や多くの仲間の協力を活かして着実に 歩みを進めていきたいと思っています。

11. ファームつばさの活動~さらに飛躍する為に~

酪農家として未熟ではありますが、牛乳の魅力をもっと多くの方へ伝えたい、酪農を知って欲しい、鮫川村を活性化させたいという思いは強く、様々な勉強や普及活動を行っています。又、販売に関してはメディアの影響力は非常に大きいと思っています。

「自分達の活動を見える化」することにより地域の活性化、自分の商品のPRにもつながる為、時間がなくても真摯に対応、情報を発信するようにしています。

○酪農青年部での活動

地元酪農青年部で開催するも~も~スクール等、消費者交流や食育教育に対する事業に は積極的に参加しています。

○地域での活動

鮫川村では、村おこしイベントでうまいもの祭りが開催されています。青空の下でバーベキューをメインに様々な催しや鮫川村内の特産品の販売等が行われており私も毎年参加。 牛のふれあいをしてもらい、命の大切さを伝えています。

地元中学生とその親御さんを牧場へ招き、牛 舎見学やチーズ作り体験も実施しています。











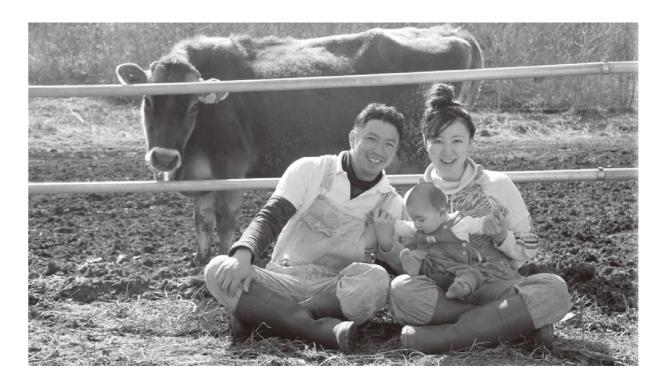
メディアを通した情報発信

12. 最後に

大学生時代に描いた夢。牧場の設立運営、6次化等、夢を実現させる為にこれまで頑張ってきました。昨年の9月には長女も生まれ、日々忙しく過ごしていますが、一家の主として、さらに精を出し、夢と希望を忘れずに楽しく過ごしていきたいと思っています。

「自分が頑張ることによって、地域の活力になる。」又、これから新しいことに挑戦する若者の 刺激になれるように日々邁進していきます。

その中で、私達夫婦を見て、「酪農家になりたい」、「酪農ってすごく面白い」と言ってくれる 若者達が現れることを夢みながら頑張っていきます。



- 82 -



自分の選んだ道を ただひたすらに、がむしゃらに

北海道酪農青年女性会議 引頭 玉枝

1. 地域の概要

私が暮らす岩見沢市は、北海道庁を有する札幌市より約40km離れた人口8.4万人の町で、北海道の中西部、空知地方の広大な石狩平野の中央に位置しています。

北海道有数の稲作地帯で面積 19,800 ヘクタールの広大で肥沃な土地と、石狩川水系の豊富な水を生かし、稲作を中心として、畑作、野菜、果樹、花卉などの幅広い農産物が生産されています。その中で13 戸が酪農経営に取り組んでいます。

気候は、夏の気温が $32 \sim 33$ 度前後くらいで、冬はマイナス 18 度前後です。降雪が多く、日本有数の豪雪地帯であり、国から特別豪雪地帯の指定を受けているほどで、1 シーズンで累計 8 m 近い降雪量があるといわれています。札幌の 1 シーズン累計の降雪量が 3 m ですから、いかに多いか実感していただけるかと思います。

12月上旬になると雪は根雪になり、積雪量も一気に増えます。温暖化による気候の変化の影響もあってか、近年は局地的な大雪が見られるようになりました。今年は、観測史上最も多い209cmの雪が積もり、わが牧場も屋根まで雪に埋まることが3回ありました。とりあえず、夫に牛舎の窓部分に積もった雪をユンボで払ってもらいましたが、集乳車の出入り口を始めスペース確保のための雪はね(内地では雪かき)作業は、骨が折れました。





2. 未経験で酪農に ~ただひたすらに、がむしゃらな日々~

私は、酪農家の出身ではありません。実家は稲作農家で、現在の牧場から車で10分の距離に 実家があります。私自身、自分が酪農家に嫁ぐことになるとは夢にも思わず、高校卒業後は6年 間 OL をしていました。

地元の地域サークルで、牧場の4代目である夫と知り合い結婚したのは昭和60年の事です。 昭和61年と63年に出産し、本格的に酪農の手伝いを始めたのはその後でした。

私は、糞出しなどのエサやりを中心に担当しました。当時は現在のようなロール牧草ではなくコンパクト牧草です。 $30 \log$ 梱包が基本ですが、乾燥の進んでいない重いものは $50 \log$ ほどあったのでは?という印象です。当時はいていた Gパンに穴が開いたのですが、 $2 \sim 3$ 日作業をしただけで穴が開きました。

育成舎を建てる前は運動場があり、牛を放牧していたのですが、牛群を牛舎にいれるのも一苦 労でした。手伝い始めたころは牛の顔が皆同じに見えるため、どこに入れてよいのかわからず、 よく怒られました。

5頭単位で牛を牛舎に入れようとボッコ (北海道弁で木の棒の事) で仕切っていたときには、 牛の体当たりで体ごと飛ばされる、足を踏まれたことも1度や2度ではありませんでした。

搾乳を始めた頃には、搾乳中に腰を蹴られ、しばらく痛みを感じ続けた時期もありました。後年、別の検査で腰椎を検査した時に、主治医の先生から「腰椎にヒビが入って治った形跡があります」と指摘されびっくりしました。体と気持ちにダメージを受けつつも、必死でがむしゃらに作業していた気がします。

思い返せば、冬も大変でした。私が担当した飼料調整の作業場は外でしたから悠長に作業していられません。雪が降るのは夜ばかりではなく、朝に雪から掘り出した車を午後遅くにまた雪から掘り出すほどじっと降り続けている雪には苦労させられました。

その後、育成舎を新築しました。これらによって私の牛舎滞在時間はさらに長くなりした。当時の私の一日は6:00に作業を開始。12:00の朝昼兼用食事まで作業。その後、13:00から 22:00まで作業が続きます。

経営概況

飼養頭数	52 頭		
うち搾乳頭数	27 頭		
牛舎構成等	対尻式繋ぎ牛舎 32 頭 育成舎 堆肥舎		
飼料基盤	採草地 40ha		
畑作地	小麦 50ha 大豆 20ha		
労働力	3人(私、長男、従業員)		

家族構成

	年齢	担当作業
私	59	飼養管理全般
夫	59	畑作管理
息子	35	飼養管理、畑作管理
義母	82	なし
義父	87	なし

引頭牧場の歩み

年	内 容
1982 年	対尻式繋ぎ牛舎(32 頭)新築
1998 年	育成舎新築 (フリーバーン)、8年後繋ぎに改築
2005 年	堆肥舎新築
2017 年	農機具倉庫新築
2019年	ビニール倉庫新築

3. ささくれかけた心を穏やかにしたもの

私は、酪農家を志していたわけではないし、あまり牛も好きではありませんが、とにかく、家業と家を回すことだけ考えていました。自分で結婚を決めて酪農を家業とする家の一員となったのだから後戻りはしない。と心に決めていたのです。だだ、こういった日々が私から余裕を奪っていたことに気付かされます。

引頭牧場では、20年前に従業員が1人働いていました。主に力仕事を担当していただいていたのですが、その方は前職で農機取扱の経験があったらしく「農機を扱ったり、そちらの業務もやりたのですが・・」と申し入れがありました。私は「話にならないね」と返してしまいました。「私の負担を助けてほしい」「力仕事もまだまだあるのに。機械作業とはどういうこと?」という感情が入り混じっていたのだと記憶しています。翌日には、従業員はやめてしまいました。結局、労働力が足りない元の木阿弥です。義母にも「あんたは人が使えないねえ」と指摘されました。

当時の私は、牛舎周辺のみの(狭い)世界で生きていたように思いますし、私の心は棘が生えたようにささくれ立っていたと今では思います。物事の捉え方や価値観も家業の先達である家族の見方だけだったのではないでしょうか?。

私は平成15年から酪農青年女性会議の活動に拘らせてもらっています。地区の前任者が役を引かれて、その後釜に声をかけていただきました。先に述べたように全く余裕を持てなかった私は、一度辞退させてもらいました。ところが夫から「こういうことは声をかけてもらえる縁が大切なんだ。仕事ならヘルパーを利用すればいいから、やってみればいい」と思わぬ声がけ、私はやってみることに決めました。

この夫ですが、若いころから組織活動に熱心で今では地元農協の組合長を務めています。私は 夫の不在に腹を立てがちで、ケンカも多かったですが、私の背中を押したのは夫でした。ただ、 令和3年の現在まで私が酪農青年女性会議の活動に拘ることは計算違いだったことでしょう。

牛舎・家庭から一旦離れることがこんなに大切とは思っていませんでした。心理的な気晴らし・気分転換はもちろん、些細な事柄でもお互いに語り合い、聴きあうことこんなに気持ちが楽になることはありません。さらに、物事をとらえる視野が広がりました。以前の私の物の見方は、父母を通じて価値判断していたような気がします。この活動を通じて自己肯定の思いが強くなったと感じています。

4. 新たな課題の克服を目指して歩みを進める

父母は、10年ほど前に牧場経営を引退しました。現在は経営に長男が加わり、私、長男、従業員の3人で5時から作業しています。従業員は8年程前から雇用していますが、体調を崩し入院したことがきっかけで「私が、頑張らなければ」と思い、朝4時からの作業に変更しました。

牧場経営の課題は牛群が白血病に感染していることです。これに気付くことができたのは、悪性リンパ腫を発症した個体の血液検査を行ったところ、白血球が通常の5倍ほどの値を示したのです。

2017年には年間で(搾乳牛32頭中)22頭が起立不能になり処分せざるを得ませんでした。

白血病は血液に触れて感染するとの獣医さんの診断です。アブなどの吸血性昆虫が媒介となって牛群に広がっていると判断できます。

牧場はメインの繋ぎ牛舎と育成牛舎に分かれており、幸いにして育成牛舎には白血病の牛はいないことが判明しました。現在はメイン牛舎と育成牛舎の牛を混在させない様にして白血病が健康な牛に伝染してしまうことをとにかく避ける。そして、白血病の可能性のある牛群をいなくなった後に、育成牛舎からメイン牛舎に移し後継の牛群を育成する事が、直近の課題と経営の方向性です。



夢は叶う 〜新規就農5年目〜

関東甲信越酪農青年女性会議

矢澤 一郎

1. 地域概要





茨城県「水戸市」は、首都東京から約 100kmの距離にある茨城県の県庁所在地であり、北側には栃木県を水源とする那珂川が流れています。

水戸と言えば、「納豆」や「水戸黄門」、梅の名所である日本三大名園「偕楽園」のイメージが強いかと思いますが、「柔甘ねぎ(やわらかねぎ)」といったブランド野菜を有しており、また私を含めて市内に15戸の酪農家がいるなど、実は農業も盛んな地域です。

私の牧場は、そんな「水戸市」の西側の旧内原町地区にあり、車で5分の距離に大型ショッピングモールがありますが、周囲には水田や畑などの農用地が多数存在し、緑に囲まれた酪農をするのにとても恵まれた環境です。また近隣には、将来の農業従事者を育てる「日本農業実践学園」や「鯉淵学園農業栄養専門学校」などの農業関連施設も立地しております。

2. 牧場の概要





牧場外観

牛舎内



放牧場の様子

牧場概要

	*令和3年3月時点
飼養頭数	経産牛 70 頭 育成牛 45 頭
牛舎形態	フリーストール牛舎
牧場施設	・放牧場(2ヶ所)
・機械	・3頭ダブルオートタンデムパーラー
	・ホイルローダー ・フォークリフト ・ミニユンボ
	・ダンプ(2 t 、4 t) ・ラウンダー

家族構成・作業分担

氏 名 (年齢)	続 柄	作業内容
矢 澤 一 郎 (49)	本 人	搾乳、給餌、繁殖管理ほか作業全般
祐三子 (52)	妻	経理、搾乳・哺育
くるみ (24)	長 女	
あゆみ (22)	次 女	
佐太郎 (81)	父	
アキ子 (78)	母	

研修生

外国人研修生名 (年齢)	出身地	作業内容
ヤエット・ペエン (31)	カンボジア	搾乳、給餌ほか作業全般(3月に契約終了)
ラン・コサル (33)	カンボジア	搾乳、給餌ほか作業全般(3月に契約終了)

従業員

従業員名 (年齢)	出身地	作業内容
佐藤 拓馬 (22)	東京都	搾乳、給餌ほか作業全般(4月に雇用)
大崎 紫音 (20)	茨城県	搾乳、給餌ほか作業全般(4月に雇用)

3. 『夢』のはじまり

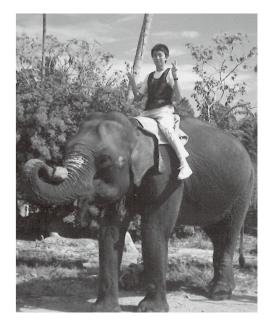
非農家出身の私が、なぜ『牛』に興味を持ち、酪農 を始めることになったのか・・・。

そのきっかけは、最初の『夢』でした。

私は水戸市の生まれですが、父親が JICA (国際協力事業団) の職員として働いており、4歳までネパール、中学校から高校1年生まではスリランカの日本人学校やインターナショナルスクールに通っていました。

幼少期の多くを海外で過ごした経験や、父親の仕事 の影響もあり、その頃から「将来は青年海外協力隊で 農作物栽培の指導をしたい」とひとつの『夢』を胸に 抱くようになりました。

私はまず、最初の『夢』を叶えるため、地元の高校 を卒業した後に東京農業大学農学部の国際農業開発学 科へ進学をしました。大学では熱帯作物に関する勉強



スリランカ時代

や実習を行い、専門的な知識を勉強することができたため、その後は農作物栽培技術を身につけるため、より実践的な実習を行える長野県の八ヶ岳中央農業実践大学校へ進学することに決めました。

そして、その学校で私の『夢』が別の形へと変わるきっかけに出会うことになります。

4. 『牛』との出会い

八ヶ岳中央農業実践大学校に入学し、最初の1ヶ月間は園芸作物や果樹・畜産など幅広くオールラウンドに実習を行いました。この実習を経て自分が学びたいものを選び、専攻することとなりますが、ついにそこで私は『酪農』に出会いました。

酪農の実習で初めて『牛』に出会った時は、「こんなにでかいんだ・・・」と思うと同時に、「こんなに雄大な動物がいるのか」とすっかり心を奪われていました。そして『牛』に心が向いてしまった私は、農作物栽培技術を身につけるという当初の目的は二の次になり、『酪農』を専攻することを選んでいました。

『牛』に関しては初心者の私は、いざ実習を行うと牛の雄大さが怖さに変わり、なかなか触ることができませんでした。搾乳作業もなかなか慣れずに腱鞘炎になってしまうほど大変で苦労しました。

しかし、苦労しながらも酪農について学んでいくと、「土(土壌)→草(栽培)→牛(育種)」と自然の循環をこなす形にどんどん魅了されていく自分がいました。そして、「青年海外協力隊で農作物の栽培指導をしたい」という最初の夢はすっかりと形を変え、「**将来は酪農家になる!!**」に変化。私は、ついに『酪農家』という夢に向かって歩み始めることとなります。



大学時代の妻と私

この学校で1年間しっかりと酪農を学んだ後は、職員として勤務することとなりました。酪農家になる『夢』に向かい酪農の技術を磨きながら2年間勤務しました。初めから酪農を地元でやりたいと考えていたので、地元に基盤作りをするために平成9年12月に職員を辞め、生まれ故郷の水戸市に戻ることにしました。

ちなみに・・・・妻とは同校の現場職員となった平成8年4月に結婚し、その1年後には、長女が誕生しました。妻も非農家出身であり当時は看護師として働いていましたが、まさか自分がゆくゆくは酪農に携わることになるとは思ってはいなかったと思います。

5. 『酪農家』になるまでの道

夢を追いかけて ~就農準備期間①~

地元水戸市に戻ってからは、就農することを見据え、まず現在の所属組合でもある茨城北酪農業協同組合に酪農ヘルパーとして就職しました。酪農ヘルパーとしての仕事は、牛の様々な飼育方法を酪農家さんから学ばせてもらう貴重な時間となり、自分が就農するイメージをしっかりと持ちながら仕事に勤しむことができました。

そして、酪農ヘルパー時代に地元の酪農家さんから生後1ヶ月の子牛を4頭購入。自宅の近所 に離農した肥育農家の牛舎があり、スペースの一部を借りて子牛を置かせてもらいました。ヘル パーの仕事の前後に子牛の世話をしながら、「この4頭を搾る時は就農だ!」と心に決めて、こ つこつと就農への準備をしていました。

しかし…。県内で就農が可能な空き牛舎や借りられそうな牛舎がないか探していましたが、「つなぎでも外に出せる放牧場があり、牛を自然に近い環境で飼うことができる」という自分の希望に見合う牛舎がなく、牛を飼える環境を作ることができませんでした。

また、平成12年の頃は現在の様な新規就農者への資金の補助がない時代で資金を工面することが厳しく、知識や技術も未熟でしたので、就農という『夢』を一度断念するしかありませんでした。

再挑戦へのチャンス到来 ~就農準備期間②~

就農を断念してからは、より実践的に酪農を牛と関わることができるという思いもあり、2年間勤めた酪農ヘルパーを辞めて、タイミング良く欠員が出ていた水戸市内の日本農業実践学園に 平成12年に就職しました。もちろん、就農の『夢』とともにいた4頭の子牛たちも一緒に実践 学園へ就職させてもらいました。

実践学園には酪農技師として就職をしました。酪農家への夢は諦めていませんでしたので、仕事の時間は自分が就農するイメージを強く持ち、実践することが出来る貴重な時間となっていました。

また、八ヶ岳の時代にも経験はしていましたが、『共進会』が楽しみの一つとなったのもこの時期でした。実践学園は今まで共進会には出品をしていませんでしたが、牛への評価によってレベルがわかることと、生徒達が負けた悔しさを知ることで、より改良面や飼育に熱心になってもらえるのではと思い、学園として出品をすることを提案しました。この提案も通り、元々学園にいた牛に県酪連独自の「後継者対策受精卵推進事業」を利用して県内酪農家より購入した受精卵を利用し改良を行い、県酪連主催の共進会などに出品を行うようになりました。牛の改良についてのヒントを貰え、出品までの過程も楽しく、県内の様々な酪農家さんと交流を持てるので、酪農家となった現在でも共進会へ参加をするようにしています。

共進会への参加の他にも、削蹄師を目指して休日に勉強をしたり、貪欲に酪農・牛への知識を 取り入れるようにしていました。

そして、日本農業実践学園に就職してから 15 年。就農に再度挑戦するきっかけとなる出来事が起こりました。

勤務していた実践学園が、酪農から和牛繁殖へと業務を切り替えてホルスタインを手放す話が 浮上したのです。また同時期に、近隣で酪農家さんが1戸離農。そして、当時私は44歳でしたが、 国の新規就農者への融資である『青年等就農資金』が45歳までしか受けられないことを知り、「最 後のチャンスだ。今度こそ酪農家の夢を実現しよう!!」と決意を固めました。

6. ついに私も『酪農家』

就農を決意してから行動は早く、他県で新規就農をした先輩にアドバイスを貰いながら約半年 で準備を進めていきました。

まず始めにしたことは妻と家族の説得ももちろんですが、牛舎の契約でした。近隣で離農した 酪農家さんは、酪農ヘルパー時代に出役していたところで、80 頭規模のフリーストール、ミル キングパーラーがある機能的な牧場で、憧れていた牛舎でした。意を決して就農の件について相 談をしたところ、快く牛舎を貸していただけることになりました。

牛舎の賃貸契約のあとは、牛舎の改修を行いました。この際には、近隣の地域の方々や実践学園の卒業生、県内の酪農家さん、今でもお世話になっている営業マンの方々など、多くの方に手伝ってもらいながら自分の手で進めていきました。

酪農経営を始めるための運転資金に関しては、国の融資の『青年等就農資金』を利用することにしていました。融資を受けるには、まず最低要件に市町村から「青年等就農資金(就農5年計画)の認定を受けて、「認定新規就農者」になることが必要となります。「青年等就農計画」につ

いては、どのような部門で・どのような経営面積で・どのような生産量で・・・と、細かく計画を 立てる必要がありますので、茨城県の農業改良普及センターと相談しながら作成しました。

酪農経営をする上で大切な『牛』に関しては、ヘルパー時代に購入した牛の孫牛も含め、日本 農業実践学園から経産牛12頭、育成牛12頭を購入。また、共進会仲間でもある県内の酪友から 15 頭譲っていただきました。

就農への準備が整い、**平成28年7月1日に生乳を出荷し、晴れて『酪農家』としてスタート**。 学生時代から約20年間ずっと思い続けた夢が叶った瞬間で、この時の嬉しさは今でも忘れられません。



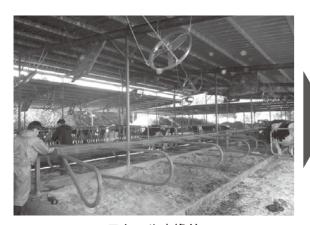


育成牛舎

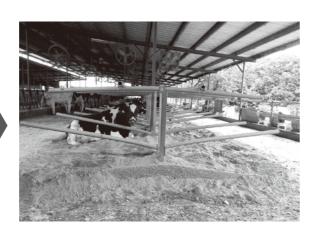
7. 『酪農家』として歩み出して

『酪農家』として歩み出した当初は、いままでの学校勤務とは違い「経営者」となることに対する不安はありました。しかし、融資のために作成した「酪農5年計画」に沿っていければ問題はないと自分を励まし、計画の目標に向かって進むことにしました。

就農準備期間に申請していた国の融資も無事に通り、まずは牛舎改築の資金として利用しました。就農前から考えていたカウ・コンフォートを実現するために、牛のストレス軽減としてストールの仕切りを金属製パイプから、しなやかで丈夫なプラスチック製パイプ (グリーンストール) に交換をしました。この時に交換したストールは牛舎の一部でしたので、現在は補助事業を利用してスタンチョンと共にストールの交換作業を行っています。



ストール交換前



ストール交換後

この他にも、もともと8台設置されていた送風機を24台に増設し、夏場の暑さに備えた環境 改善を行いました。敷料に関しては、細菌の繁殖がしにくく乳房炎のリスク軽減を図れる砂を利 用しています。砂は毎日切り返しを行い、石灰を入れることでさらなる乳房炎予防に努め、牛に 優しい環境作りを心がけています。

就農5年計画の中で、経産牛の頭数目標は50頭としていました。その目標に向かい、牛の導入を行いましたが、その際には県内生産者から雌子牛や妊娠牛を導入する際に助成金を受けることができる補助事業(茨城県優良雌牛地域内流通対策確立推進事業)を活用して経営の負担を減らすように心がけました。この補助事業で就農した平成28年から昨年度にかけて育成牛・妊娠牛合わせて30頭の牛を導入し、就農3年目に経産牛50頭の目標を達成し、現在では搾乳牛が70頭となり総飼養頭数が約120頭となっています。

牧場で利用する機械に関しては、畜産クラスター事業を利用して平成29年9月に堆肥調整用としてホイルローダーを導入しました。また、増頭して既存のものでは容量が足らなくなっていたのと、今後の乳量を増やす計画を考えて、令和2年1月にバルククーラーも畜産クラスター事業で導入しました。自分の経営方針に合わせた機械の導入と、補助事業を利活用して経営の安定を図れるように考えています。

地域の交流としては、私の牧場がある内原地区の農業従事者による勉強会に参加して他業種の方々と情報交換を行い、また、鉾田市にあるひので酪農業協同組合の生産者向け勉強会「酪経塾」に所属させていただき酪農にプラスになる情報を勉強するのと同時に酪友の和を広げる様に心がけています。

もちろん、共進会への参加も続けて おり、会場で日本実践学園の卒業生に 会ったり、共進会仲間と情報交換をし たりと交流を大切にしています。



酪経塾

8. 生まれた課題と働き方改革

目標の飼養頭数を達成した安堵は束の間で、すぐに新たな課題が生まれました。労働力不足の問題です。

就農当初は、設備も整っているため搾乳牛50頭を私とアルバイトで飼養できると考えていましたが、実際に目標頭数となると妻や家族の協力を得ても深夜まで作業が続いている状況でした。私自身は好きで酪農を始めたのと、作業が大変なことは仕方のないと思っていたため、苦痛とは感じていませんでしたが、休みなく働く私を家族が心配する日々が続きました。どうにかしなければと考えているところに、たまたま研修生に関する営業の方が牧場を訪ねてきました。話を聞いていくなかで、私自身が幼少期を海外で過ごしていた経験もあるので、抵抗なく受け入れることができるのではと思い、平成29年に外国人研修生を受け入れることにしました。

私の父親が研修生に向けて定期的に 日本文化と日本語教室をしてくれるな ど家族の協力もあり、研修生とのコ ミュニケーションも上手く取れていま した。研修生の2人には、搾乳や給餌 等の私と同様の作業をお願いし、しっ かりと仕事を覚えてくれました。

私が留守の時でも問題がないくらい 一通りの仕事ができるようになってい ます。

現在は、2人とも契約が終了しておりますが、研修生を受け入れる前は酪農が好きだからと忙しいのは苦ではないと思っていましたが、実際に労働力を確保できると、自分自身の身体が楽になり、目がゆき届き手にもゆとりが持てた感じがしました。

研修生の受け入れの他に、楽酪事業 (現畜産 ICT 事業)を活用して、哺乳 ロボットを導入しました。

哺乳に関する作業時間を削ることができ、かなり楽になったのと同時に自分の時間を持てるようになってきました。好きだからといって働き詰めになるのではなく、やはり何事もゆとりを持つことが大切なのだと感じた出来事でした。

新規就農5年目の私には、雇用費や

飼料費の経費など、改善していかなくてはならない課題はまだあります。経費の問題はなかなか難しい課題で、雇用費の確保のために乳量を増やす必要があるのが現状です。そのために計画的に増頭を行ったり、飼料設計を見直したりしていますが、まずは安定した経営となるように軌道にのせることを目標として、補助事業の利活用を始め、牛舎や施設などの修繕・修築を自分の手で行うなど、小さなところから経費の削減をしつつ、地道に努力していければと思っています。

9. 酪農家としてのこれからの『夢』

『牛好き』から『酪農家』へ。

そんな夢を叶えた私の現在の『夢』は、「搾乳牛90頭規模、日量3,000kgの生乳生産」です。 牛舎環境や飼料など、まだまだ試行錯誤をしている段階ではありますが、雇用を維持しつつ、こ の『夢』を叶えて経営を軌道に乗せていきたいと考えています。



父と研修生・勉強会の様子



また、就農してからはほとんど休みが 取れていませんでしたが、今後は従業員 2人に仕事を任せることが可能なので、 将来的には自分自身も定期的に休みを取 れる体制を整えていき、ゆとりある『楽 農経営』を実現していきたいです。

新規就農を夢見ていた時は、ずっと「牛が自由に歩き回り、自然と調和した酪農経営」を考えていました。私の牧場は周囲を木々に囲まれ自然が溢れ、その景色



幼少期に眺めたエベレスト

の中に牛が自由に歩き回れる放牧場を設けてあります。将来は、耕作放棄地などを上手く利用し、 景観維持をしつつ、牛をゆったりと眺めてくつろげる牧場として提供できるのが一番の理想の形 です。また、ゆくゆくは酪農教育ファーム活動に参加をし、子供たちの教育の場としても提供でき たらと思っています。そして、私の牧場を見た"誰か"が酪農に魅力を感じ、酪農に携わる道を 歩み始めるきっかけになって貰えたらと思います。私の牧場の冠名は、ネパール語で"エベレスト" を表す『サガルマータ』ですが、幼い頃に見たエベレストの景色に感じた自然の雄大さと近い感 覚を、今後提供できるような牧場にできたらと思います。そのためには、エベレストを登る様な険 しい道のりもあるかもしれませんが、経営の安定を第一に自分なりの酪農をしていきたいです。

最後に・・・。

紆余曲折ありましたが、「酪農家になる」という長年の夢を叶えることができたのは、家族、組合・ 実践学園の卒業生の方々の支えがあったからでした。また、地元に基盤のなかった私に、牛舎を 快く貸してくれた大家さん、牛の確保の大変さを理解して牛を譲ってくださった酪友の皆様には とても感謝しています。

これから新規就農を考えている皆さん、酪農に希望を抱いている若者の皆さん、就農に向けて準備をするなかで大切にしてほしいことがあります。それは、酪農ヘルパーや大規模農場に勤務をするな

ど、たくさんの経験を積むことです。 自分が意図しないことも学ぶことが でき、就農後に必ず役に立ちます。 また、同時に地域との交流を大切 にしてください。酪農は1人ではで きません。地域の方々の理解、協 力があってこそ成り立つものです。

44歳からでも、「酪農家になる」 という夢に挑戦し叶えることがで きます。

夢は叶う!夢を叶えるのに、遅いなんてことはありません。





地域貢献できる酪農家を目指して -伊自良の酪農家の後継者になりました-

中部酪農青年女性会議

1. 牧場の概要

私の働いている有限会社 千洋牧場は約50年前に私の 祖父が横浜から家族と数頭の乳牛を連れて山県市伊自良 地区に畜舎を設けました。

当時は小規模の農場も合わせると十数件の酪農家がいたらしいのですが、現在は4件、山県市全体でも5件の酪農家となりました。

千洋牧場は父、叔父、叔母、いとこ、私の5人で作業しています。飼育頭数は搾乳牛30頭、繋殖和牛50頭、受精卵移植用の交雑牛、和牛子牛等合わせると頭数約120頭の乳肉複合経営をしています。



牛舎外観

2. 就農の経緯

就農前は飲食店の店長経験を経て、6店舗のマネジメント業務をしていました。通常業務の他 に商品開発、メニュー構成、社員教育、仕入れ、営業のオペレーションからクレーム処理、ほぼ すべてのことを行っていました。

また特に重要なことは販売促進と FL 管理です。FL 管理とは、FoodsLeaver の略で原価と人件費のことです。売り上げを上げて原価と人件費をコントロールして純利益を作っていくのが私の仕事でした。

私は今年で就農5年目になりましたが、就農の半年前くらいまでは自分が就農するということを考えたことは全くありませんでした。なぜかというと昔から両親には「牛はやらなくていい」と言われてきたからです。詳しくは聞きませんでしたが、小さいころから休みなしで働く両親たちの姿を見てきたので、なんとなく言いたいことは理解していました。

名 前	続 柄	年 齢	役割
千尋	父	75	乳牛担当
洋二	叔父	73	和牛担当
りえ	叔母	68	子牛担当・哺乳
仁	本人	37	乳牛担当・草地管理・作業全般
良彦	いとこ	35	和牛担当・草地管理・作業全般

千洋牧場 経営の歩み

昭和 23 年	祖父が神奈川県戸塚区で酪農を始める	
昭和 43 年 山県市(現在の土地)に移転し、畜舎を建てる 父 千尋、叔父 洋二の名前を取り、千洋牧場を設立		
平成 2 年	和牛繋殖を始める	
平成 11 年	堆肥舎の完成	
平成 27 年	仁(本人) 良彦(いとこ)就農	
平成 31 年	クラスター事業 ロールベーラー、ラッピングマシーン、ディスクモア導入	

後を継ごうと考え始めた最初のきっかけは母の病が悪化し始めてからです。

母がいなくなってからの父の生活が心配でした。父自身も70歳を迎え、いつ何が起こるかわからない年齢だと思うと、近くで働いたほうがいいのではと考えました。

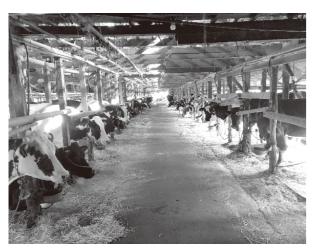
それと同時にふと思い浮かんだのが、私が飲食業で仕入を始めてからの5年間での食材の値上がりでした。特に牛肉に関しては国産の値上がりが始まり、次に輸入に頼ると今度は輸入の需要が増え、USビーフやオーストラリア産も1.5倍ほど仕入原価が上がりました。それでも食品を輸入に頼ってしまう風潮には危機感を感じていました。ただでさえ競合店の多い外食産業が尻つばみしていく中で、このまま飲食業に不安を抱えて仕事を続けていくよりも、生産者として供給していく側に立ったほうが将来性があるだろう。

私は就農を決心すると、すぐにその気持ちを父に伝えました。すると父は

「今の仕事で稼ぎも休みもあるのに、わざわざこの仕事をやることねぇだろ」

と取り合ってくれませんでした。何を言っても父は納得しないと感じたので、

とりあえず働いて、その姿勢で認めてもらうしかない。収入がないのなら他でバイトでもすればどうにでもできるだろうと思い、父に反対されたまま会社に退職届を提出し「来月から無職なのでよろしくお願いします」と半ば強引に就農することとなりました。



牛舎内部

働く父の姿

3. 就農して気づいたこと

何も知らない私はまず、自分の農場の仕事を覚えること、1年間の仕事の流れを掴むことを目標としました。父は小さい頃から酪農に携わっていたためか、仕事や牛についても感覚や経験的なものが多く、マニュアルは全くないため最初はとても戸惑ったのを覚えています。

それでも、毎日のように牛を観察していると同じように見えても顔の表情、目、動作、食べ方など細かい部分から牛の状態や気持ちが少しずつわかるようになってきました。

そのうち、仕事にも慣れてくると自分たちの濃厚飼料や乾燥の量や配分、乾乳期・分娩後の給 餌方法に疑問を持ち始めました。今までは気にしてなかったことが気になってきました。搾乳量 の少なさ、繋殖成績の悪さ、発情が分からない、体が細い、分娩後の事故が多い。これらを改善 していきたいと思うようになりました。といっても正直何をしていいのか分かりませんでした。

獣医師の先生、全酪連、美濃酪連、餌屋さん、知っている農家さん等、あらゆる方面から情報 を集めて、できる部分とできない部分で取り捨てをしました。

ハード面は多くの資金を必要とするため後回しにし、できる部分でうちの牛群に合うやり方を 探していきました。

情報を集めれば集めるほどに自分たちのずさんな飼養管理が浮き彫りになりました。そして、こう思い始めました。餌代を抑えることを考えすぎて牛の能力を発揮できずにいる。能力を発揮できないから売り上げに繋がらない。売り上げに繋がらないから餌代を抑える。この負の循環を意識して断ち切ろうと給餌方法や給餌回数・給餌量を変えていきました。元々の搾乳量が少なかったこともありますが、今は繋殖成績も上がり、当時に比べ1頭当たり日量6kg~8kgほど乳量を増やすことができました。このようにやったことがすぐに数字として結果が出ることも酪農家として面白いと感じました。

今は乳量が増えてきたからこその問題や課題の解決を色々と模索しながら楽しんでいます。少し前までは「餌代が上がりすぎや」とぼやいていた父も、餌代以上に乳代が増えたことで納得したようです。

4. 地域とのつながり

昨年、父が75歳を迎えたこともあり、千洋牧場の経営を私が引き継ぐこととなりました。世 代交代に伴い、私は畜産・酪農における地域の役割をより強くしていこうと考えています。

山県市では牛・豚・鶏の3畜種による若い世代でクラスター協議会を設け、耕畜連携を目指しています。牛においての役割は廃耕田、休耕田の活用です。耕作放棄地や荒地を減らすことで、地域の景観や土地の管理を担っています。元々、休耕田が多いこともありますが、山県市では酪農家の後継者が私だけということもあり、市役所や農地改良組合へ草地を増やしたいと伝えると、この3年間であっという間に15haの草地が25haまで拡大しました。

山県市の中間管理機構を利用することで市に間に入ってもらい、地主さんとの水田フル活用の契約の見直しをしました。これにより、補助金による収入も確保することができました。また、農業法人と連携をとることで堆肥の有効利用も話し合い、地域で活用してもらうことも実施しています。

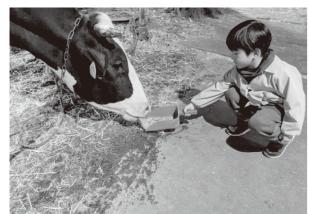
今後の目標は搾乳頭数を今の倍の60頭にすることです。それに伴い、畜舎の改築や搾乳機器の更新も検討しています。

5. 酪農のために

私は現在3児の父です。息子はまだ6歳ですが、パパと一緒に牛を育てるといっています。私 は就農してからの6年間で酪農の消費者や地域への役割や可能性を感じるようになり、息子にも 継いでほしいと思っています。だから、うれしい気持ちもありますが正直複雑な気持ちです。

私は、小さいころ両親と旅行に行ったり、土日で遊んだりした記憶があまりありません。両親の仕事は理解していたので私は納得できました。それどころか休みなしで働く姿は本当に尊敬しています。ただ、息子に同じようになってほしいとは思いません。きっと自分の父もそう思って私の酪農への道を反対したんだと思います。

今、私は息子が成長してからでも同じように酪農をやりたいと考えるような会社作りをしよう と思っています。また、酪農に興味がある人や今後、就農する人たちにとっての就農への窓口を 広くしたいです。それが私を支えてくれた方々や私を成長させてくれた酪農への自分の役割にな ればと思います。



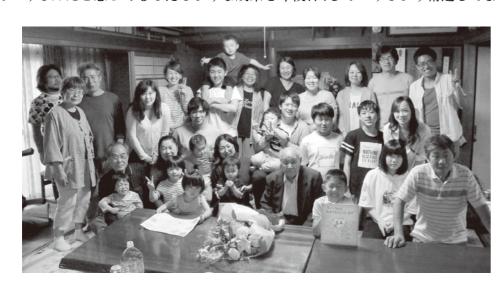


6歳の息子

地域の消防団での活動

6. 最後に

最後になりますが、まだまだ何も知らない私ですが、周りの環境や色々と教えてくれる方々の おかげで、この仕事を続けていけると多くの人に感謝しています。それと同時に、そんな素人で もやっていけるんだと思ってもらえるような成果を今後、出していけるよう精進してまいります。





らくのうで嬉しいを!

九州酪農青年女性会議中島 千明

1. 思い

私はゼロから何かを生み出す生産者の家族を心の底から尊敬しています。 なので、就農してから一貫して「頑張る生産者の魅力を伝えたい」と思い仕事をしてきました。

2. 経歴

(1)ナカシマファームの経歴





ナカシマファームの経歴

- ・先祖代々米農家
- ・祖父の代で牛を1頭飼い始める
- ・父の代で 100 頭に増やす
- ·1994年8月法人化
- ・2012 年チーズ工房スタート
- ・農業、酪農、チーズの製造販売
- ・従業員 11 人 アルバイト 2 人

- 102 -

ナカシマファームは佐賀県嬉野市内の、田園風景の中にあります。

先祖代々、米農家でしたが、祖父の代で牛を1頭飼い始めました。

祖父が酪農を始めたころは水田酪農が流行っていて、半径 500m 以内で 30 戸ほど牛を飼っていました。父の代のころには後継者不足やエサ代の高騰で廃業するところが増え、嬉野市で酪農業を営んでいるのは現在ではナカシマファーム 1 戸のみです。

そのことに危機を感じた兄が「もっと酪農を身近に感じて欲しい」との思いでチーズ作りを始めました。

チーズ作りを始めて9年目の現在は、スタッフが社員11名アルバイト2名となりました。





ナカシマファームはチーズを作っていますが、酪農の仕事が基本なので、新規就農者には必ず最初に酪農の仕事を覚えてもらいます。新規の就農者にも分かりやすいように、ファームノートというシステムを導入して、牛の繁殖期や体調、乳量などの情報を見える化して全員で共有しています。また、佐賀県では前例の少ない稲や麦のWCSに取り組んでいます。堆肥についてはバイオベッドによる循環を実現しています。その他にもナカシマファームの水田に散布したり、近くの農家さんが買いに来てくださったりしています。近くの酒蔵で出る酒粕の受け入れもしており、堆肥に混ぜています。

これまでお金を払って廃棄していた酒粕を無料で堆肥化できて、とても喜んでいただいてます。 堆肥作りを地域のリサイクルの場として活用していただけたらと思っています。

それぞれのスタッフは、自分の好きなことを仕事に活かしたり子育て中心のシフトに調整したりして、それぞれ生き生きと働いています。

	酪農	農業	チーズ製造	チーズ販売	好きなこと
祖父	引退	0	×	×	土木建築
祖母	引退	引退	×	×	野菜、保存食作り
父	週 5	0	×	×	土木建築・メカニック
母	引退	引退	0	0	花壇、お菓子づくり
兄	週 6	0	0	0	経営・デザイン・情報発信
兄妻	時々	0	0	0	経理・お菓子作り
私(千明)	週 1	×	0	0	情報発信・販売戦略
社員①男性	週 5	0	×	×	ハンター
社員②女性	週3	0	×	0	お菓子作り
社員③女性	時々	×	0	0	チーズ研究、開発
社員④男性	週 5	0	×	0	
社員⑤女性	時々	×	0	0	
社員⑥女性	週 5	×	×	0	

(2)私の経歴

酪農をやりたいと思ったきっかけは大学4年の就職活動です。その時に「搾りたての牛乳が飲めないと生きていけない!」と思いました。

新卒でナカシマファームに就農しても役に立たないので、まずは自分の専門を作ろうと思いま した。そのために東京で営業のプロになると決めました。

東京の飲食店専門の HP 制作会社に就職し、営業と HP 制作部門で3年間働きました。全く人脈のないところから飲食店や築地仲卸(現在の豊洲仲卸)を相手に新規開拓営業をしていきました。

顔を覚えてもらうために自分を「築地の女」というキャラで演出し、飛び込み営業やテレアポ など何でもやりました。

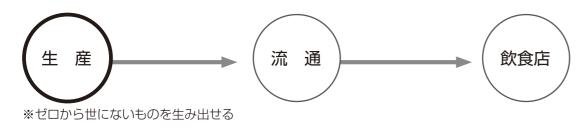
その当時流行っていた Facebook を始め、私個人の HP を立ち上げました。



そして、HP制作会社はIT系ということで警戒心を抱かれてしまうので、飲食店と築地仲卸をマッチングするサービスを無料で始めて、信頼関係を作っていきました。続けていくうちに、飲食店からは「質のいい魚を安く仕入れることができた」と、築地仲卸からは「長く続くいい取引先が増えた」とお互いに喜んでいただきました。

その経験から「自分の思いを発信すれば、同じ思いを持った人と繋がることができる」と学びました。そして、先進的な取り組みをしている飲食店や築地仲卸は、質が良く珍しい商品を欲していて、美味しい食材を生み出す生産者を大切にしていることに気がつきました。

そして、世の中にないものをゼロから生み出す生産者に魅力を感じるようになりました。



3. 就農

	私の出来事
1989 年	平成元年に生まれる
2008年	嬉野高校卒業
2012 年	福岡大学卒業
2012 年	東京の飲食店専門 HP 制作会社 入社
2015年12月	ナカシマファーム 就農
2016 年	ナカシマファームの HP 作成
2017 年	嬉野茶時(地域のプロジェクト)の HP 作成
2018年	チーズ工房、チーズショップ増築、イベント出店 ブラウンチーズ開発(その年 Japan Cheese Awards 金賞部門最高賞)
2019 年	ブラウンチーズが World Cheese Awards 銅賞受賞 MILK BREW 開発販売スタート
2021 年	佐賀県女性活躍推進部門受賞 Instagram でフォロワーが 7100 人に

私は就農6年目です。最初は酪農の仕事を中心に行い、隙間時間でチーズ作りやホームページ作り、SNSを使った日常の発信などをしていました。

仕事のかたわら、地域のプロジェクトにも参加しました。嬉野の三大産業である嬉野茶、肥前吉田焼、嬉野温泉を組み合わせた「嬉野茶時(うれしのちゃどき)」というプロジェクトの HP を作りました。NHK のあさイチでも紹介され、「ティーツーリズム」として、密にならない新しい旅行の形として話題を呼んでいます。



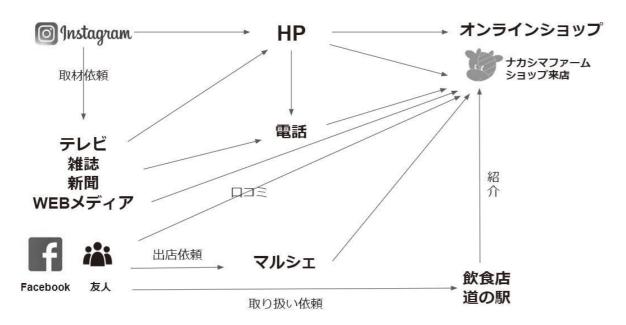
2018年は新しいチーズ開発をしました。ブラウンチーズといい、チーズなのに甘く、キャラメルのような甘さと香ばしさ、ピーナッツバターのようなコク、黒糖のようなミネラルを感じる複雑で滋味がある味わいです。日本で初めて製品化に成功し、日本のチーズコンテスト(Japan Cheese Awards 2018)にて金賞・部門最優秀賞を受賞し、イタリアで開催された世界のチーズコンテスト(World Cheese Awards2019)で銅賞を受賞しています。チーズの製造過程で出るホエイと呼ばれる水分を原料としています。(原料のミルクからチーズになるのは1割、それ以外の9割がホエイ)ホエイは、一般的には廃棄されてしまうものです。しかし、栄養が豊富で、廃棄するのはもったいないという想いから製品化しました。このチーズがフードロス問題の解決に繋がると注目されています。それをきっかけに私たちが取り組んでいるサスティナブルな酪農経営についても知っていただくことができ、酪農についても興味を持ってくださる方が増えています。

チーズの美味しさと情報発信の相乗効果で次第にお客様が増え、取引先が60件となりました。 その中にはミシュラン三つ星レストランやJR九州が展開する観光列車もふくまれています。





その他にも、ブラウンチーズの本場のノルウェー大使館でのパーティーにも提供いただいたり、 テレビや雑誌に取り上げていただいたり、イベントへの出店依頼もたくさんいただけるようにな りました。 このように仕事内容が多様化していますが、週1回は必ず休みがありますし、一方で私の大好きな酪農の仕事にも週1回は入れています。チーズの製造や販売を少しずつスタッフに任せられるようになってきているからです。私が一番やりたいのは、頑張るみんなの姿を発信し、ナカシマファームの活動を知ってもらう営業活動をすることで、今はそれに専念する働き方ができていて、とても充実した日々を過ごしています。



5. 同じ思いをもつ人たちとのつながり

このようにインターネットを使い発信を続けているうちに、ナカシマファームと同じ思いを持つ仲間と出会うことができました。

とくにこの2年は2つの大きな出会いがありました。

1つは福岡平尾にあるコーヒーショップのマンリーコーヒーさんとの出会いです。





マンリーコーヒーさんと共同で日本で初めてのミルクブリューというコーヒーの飲み方を生み 出しました。その飲み方とは、今までありそうでなかった、冷たい牛乳にコーヒーパックを漬け 込むだけという簡単な抽出方法です。

コーヒー業界において衝撃的な飲み方だったようで、全国各地のコーヒーショップの方から興味を持っていただいてます。

お客様より「牛乳はどれがおすすめですか?」という会話が生まれるのが面白いところです。 牛乳そのものの価値を高めて販売できるだろうと期待しています。

コーヒー1パックに対して牛乳 IL を使います。とても美味しくてあっという間に飲めてしまうので、牛乳の大きな消費拡大につながると確信しています。

今年の夏、佐賀嬉野に日本初のミルクブリュー専門のカフェをオープンします。牛乳を軸に会 話が弾むのを想像するととても楽しみです。

2つ目は5名もの女性酪農仲間が増えたことです。

規模拡大に伴い Instagram で求人をおこない、全く酪農経験のない 5 名もの女性と一緒に働けるようになりました。

	就農前の課題	就農後の変化
A さん (30 代女性)	自分に自信がない。 アルバイトしか経験が なく自分に自信がない	・10種類全てのチーズを作れるまでに・チーズ業界の研究者と繋がり新しいチーズの 開発も手がける・搾乳もして生産現場からチーズを知れて勉強 になる
B さん (30 代女性)	子育ての時間がなく激務	・子供との時間がいっぱい取れ家族が喜んでくれている・お菓子作りが好きで生産現場に携われて楽しい
C さん (20 代女性)	子育ての時間が欲しい一人での仕事が中心	・仕事の多様さ(接客、チーズ製造)とみんなとの会話が楽しい・好きな時間で働け、家事や育児の時間がしっかり取れる
D さん (20 代女性)	• 管理栄養士をめざして いて生産現場から販売 まで勉強したい	・生産から製造と一貫して仕事ができて勉強になる・牛がますます好きになった
E さん (40 代女性)	• 気分転換にのんびり 働きたい	自分のペースで仕事を作ってくれるから働き やすい

例えば、30代Aさんは、一念発起して未経験からチーズ職人になりたいと応募してくださりました。入社して丸2年で新しく白カビチーズを開発し、日本のチーズコンテストにて銀賞を受賞しました。それをきっかけに新聞・ラジオ・テレビの取材も受けました。



- 110 -



また、Dさんは牛と食が好きで、管理栄養士を目指している大学4年生のときにアルバイトに入ってきてくれました。「生産から製造まで一貫して学べて将来につながる」と言ってくれました。そんな彼女は管理栄養士に合格し、今年の4月からは岩手県の2,000頭以上牛がいる牧場に就職しています。

こうした女性スタッフの活躍を評価していただき、今年の3月に佐賀県から女性活躍推進部門にて表彰していただきました。

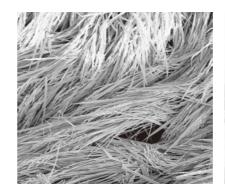
6. 今後の目標

私の目標は酪農の魅力を世界中の方に知ってほしいことです。

酪農の仕事や牛の魅力や牛乳の美味しさを伝えていきながら、酪農の価値を高め、人と牛がと もに暮らしやすい世の中を作っていきたいです。

最後に大きな夢があります。

今の私たちができる水田酪農を中心とした持続可能なものづくりの技術で、世界の水田がある 発展途上国の役に立つことです。











今の私たちができることと言えば、お米作りから飼料稲づくり、堆肥作り、酪農、チーズ作り にまで至る一切無駄を出さない持続可能な経営です。

それを活かして現地の景観を守りながらその国に適した牛を飼い、その土地で働く場所を作りだし、その場所でしかできない美味しい乳製品づくりを実現させていき、世界中の人が生き生きとした社会を作りたいです。



- 111 -



こんにちは もーちゃん

西日本酪農青年女性会議 吉田 裕美

1. 地域の概要

私が住む鳥取県大山町は、県の西部に位置し、北は日本海、南には秀峰大山を望む自然環境にめぐまれ、畜産、梨を中心に農林水産業が非常に盛んな地域です。なかでも酪農は、県内全域を網羅する県唯一の酪農専門農協である大山乳業農業協同組合があります。

吉田牧場は、大山町の小高い丘の上にあって、海も山も見渡せるとても景色の良いところにあります。大変な時もありますが、家族みんなで楽しく酪農をやっています。



- 113 -

2. 家族構成と作業分担

吉田牧場は、夫・夫の両親、息子と私の5人で、経 営をしています。私のメインの仕事は、朝と夕方の一 日2回の搾乳です。その他餌やり、糞かき、掃除、簿 記等、家族みんなで協力して作業を行っています。牛 の体調は、毎日変化します。乳房炎になったりするこ ともあるので、日々の観察は気を付けて行っています。 注意深く観察することで、良い乳質を保てています。



3. 経営概要

吉田牧場では、搾乳牛を約50頭、和牛を約50頭飼育しています。他からの導入をせず、育成 の段階からすべて自家産にこだわっています。

牛舎構造 タイストール

年間出荷乳量 (R2)

247.833.4kg

作付面積

牧 草 20ha その他





また牛舎から自宅は5km ほど離れたところにあり、常に牛舎を見ることができないので、カ メラや牛温恵を使って分娩事故の予防をしています。

4. 就職・結婚と酪農生活の始まり

4ha

次に、私のことを簡単にご紹介します。実家は農家ではなかったのですが、動物や自然が好き

な父の影響もあって、動物が好きでした。



鳥取県内の農業高校を卒業したあとは、三朝温泉の旅館 へ就職しました。就職をして、礼儀や色々な作法を学ばせ て頂き、自分で着物が着れるようにもなりました。入学式、 卒業式、お祭りなどは着物で参加しました。

そして、1998年に主人と出会い結婚し、吉田牧場へ嫁い できました。主人と出逢った時、牛を飼っているとは感じ ないくらい、身だしなみをきちんとしている人でした。私 も見習って、今でもメリハリをつけて、自分らしさを楽し んでいます。

その後3人の男の子に恵まれ、家事や習い事の送り迎えなど、あわただしい日々を過ごしてい ました。息子3人はスイミングスクールに通っていました。嬉しいこともありましたが、悔しい こと・厳しいことの方が多かったと思います。「継続は力なり」。長い期間続けてくれた息子達を 誇らしく感じます。今、それぞれが自分のやりたいことを見つけて自分の道を進んでいます。こ れから素敵な大人になってくれると思います。

そんな息子たちですが、一昨年から長男が就農し、一緒に酪農をはじめました。鳥取県の親元 就農支援促進交付金も活用して、県の応援も受けながら酪農を勉強しています。

息子が主人の元で研修し、一緒に色々話しあったり、仕事を進めていく姿をみて、頼もしく感 じています。後継者としてたくさんの事を学び、自分らしく、進化し変化していってくれるのを 楽しみに見守っていきたいです。

さて私はといえば、嫁いだ頃は大きな牛が苦手で、酪農の仕事なんて絶対やらない!と思って いました。

しかし、結婚してすぐに餌やりや簿記を手伝うことに…。特に簿記は、最初から全てを任 されたので、すぐに普及所の研修会に参加しました。そして家族や周りの酪農家の方々が頑張る 姿、出荷した生乳を加工する大山乳業の職員さんたちを見て、美味しい牛乳をつくるためにたく さんの人が関わっている事、たくさんの思いが込められていることを知り、徐々に「酪農に携わっ てみたいしという気持ちが芽生え始めました。

そして、三男が小学校に入学したのをきっかけに、自分の中のスイッチを入れるために家畜人 工授精師の資格を取る勉強を始めました。資格を取るために、酪農の知識や最新の技術を学ぶこ とはとても新鮮で、酪農に携わるための心構えができました。





5. 女性部と食育活動

牛舎仕事や子育てと並行して、女性部の活動にも参加し始めました。最初はお母さんと一緒で したが、60歳を機にお母さんは引退し、そのときから本格的に参加し始めました。

地域の中山地区酪農女性部では、参加してすぐに部長を任されました。地域の仲間とは、女性 部の活動を通して、また普段の子どもとの関わりを通して、酪農家の嫁という同じ立場だけだっ たのが、それ以上の仲間になっていきました。そもそも気が合うというのもありますが、私は本 当にいい仲間に恵まれているなと感じます。いつもみんなからいい刺激をもらっています。

そのころから、保育園や公民館を訪問して、牛乳を使った料理作りなどの食育活動に関わる「もーもーカウィークラブ」に参加するようになりました。初めはサポート的な立場で参加していましたが、だんだんと自分に合った食育活動の形を模索するようになりました。料理作りは、アレルギーの子供に配慮が必要だったり、小さい子どもたちには難しかったりとハードルが高いと感じていて、もっと気軽に、誰にでも酪農のことや食のことを伝える手段がないかと考えていました。

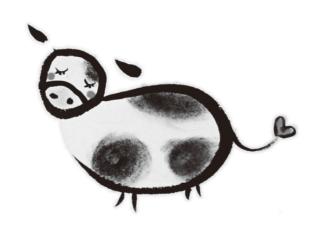
6. 自分なりの食育活動〜絵本を通じて〜

そこで思いついたのが、筆を使って牛の絵を描くことでした。その絵で紙芝居にして読み聞かせができれば、小さい子どもでも楽しみながら酪農のことを知ってもらえるんじゃないかと考えました。

そこでできたのが「こんにちは もーちゃん」というお話です。紙芝居のために考えましたが、相談した大山乳業の職員さんがぜひ絵本にしたいと話を持ちかけてくれて、トントン拍子に絵本の出版まで進んでいきまし



た。趣味で描いていた絵が絵本になるとは全く想像していなかったので、人と人の縁が重なって、 絵本という形で出版することができ、とても感謝しています。





も一ちゃんは「うし」という字を組み合わせてできています。も一ちゃんは、親子で一緒に牛の絵を書いて楽しんでもらえるように工夫しました。この絵本は、子供たちをひざにだっこして、ニコニコ読み聞かせをしているときをイメージしながら描きました。小さなお子さんから大人のみなさんにも牛のことを知ってもらいたい。牛を飼う人もまたモノづくりに携わるすべての方の素敵な思いが、みなさんに届き、伝わってほしいと思っています。

7. 活動の広がり

完成した絵本は、大山乳業さんが鳥取県のすべての小学校と図書館に寄付をされました。

そして絵本をきっかけに、鳥取県知事さんを訪問したり、テレビ局の取材を受けたりと初めての経験が増え、新しいつながりもどんどんできるようになりました。あるイベントでは、子育て世代のママが託児をされて300名も集まってくださり、子育て世代のお母さんの食と絵本への興味を実感した体験になりました。

また、絵本好きの大人のための縁会を開催しています。「特に牛には興味なかったんだけどね。 絵本が好きで~。来てよかったわー。もーちゃんや酪農のこと知らないことがいっぱい知れたぁ ~。クイズもおもしろかったわ。」と笑顔で声をかけてもらえました。

興味がなかった方にも、何かとコラボをすることで、広がりや繋がりは大きくなりました。特

に酪農というジャンル以外の人たちとのつ ながりが一気に増え、絵本という道具を 使って酪農のこと、生産者の想いを伝える ことができるようになりました。

他にも地元のこども園に絵本の読み聞かせに行かせてもらったり、イベントに呼んで頂いて読み聞かせを披露したりと、楽しく活動させてもらっています。



8. 新型コロナウィルスの影響

しかし…思いもよらない新型コロナウィルスの感染拡大。私たちの生活が激変し、読み聞かせ活動もできない状況が続いています。幸い生乳の出荷先や母校等から声をかけて頂きイラストの提供をしたり、本屋関連の冊子にとりあげていただいたり、自身のSNSを活用したり、これまでとは異なる形ですが、絵本のご縁で活動を続けることができています。

先が見えない新型コロナウィルスの収束…、増えるおうち時間…、家族との時間が増える今だからこそできること…、色々と悩んで考えました。そして、仲間の応援と、絵本でつながったご縁のおかげで、もーちゃんの次の話「ありがとう もーちゃん」が誕生しました。

牛が私たちに与えてくれるもの、1本の牛乳に携わる人たちの思い、そういったことをこの絵本を通してみなさんに伝えることができればと考えています。

そして、コロナウィルスが落ち着いたら、色々な所でまた読み聞かせ会を開催できればと思っています。せっかく縁あって広がったこの輪を大切にしていきたいです。

9. これからのこと

読み聞かせボランティアの方々も、もっちゃんの読み聞かせをしてくださっています。読み聞かせに参加した子供たちからの感想文をボランティアの方々と一緒に読ませて頂いています。一冊の絵本を読み聞かせるという小さな活動ですが、これからもひとつひとつ丁寧に、取り組んでいきたいです。

そして、コロナ禍が収束したらまた、色々な所で読み聞かせ会を開催し、この輪がどんどん広

がっていって欲しいと思います。

絵本を出版してから、「絵本作家になったの?」と聞かれることがありますが、私は「『牛を飼う人』です。絵は趣味で描いているだけです。」と答えます。これからもそのスタンスは変わりませんが、創作活動を続けて、また縁があれば絵本だけでなく、それ以外のことにもチャレンジしていきたいと思っています。今年、牛飼いの嫁として23年がたちました。



絵本を通じて、これからの日本を担う若い世代、子ども達、沢山の方々に、日本の酪農、農業 を知ってもらい、興味を持ってもらうきっかけになれたら、最高だと思っています。

大変なこと苦手なことでも、コツコツと自分なりに受け止め、前向きに少しずつでも進んでいけば、何事も大きな財産になっていくんだと感じています。

「継続は力なり」私は今、本当に実感しています。私たちが搾った牛乳を、祖父母も、両親も飲んで、そして私たちの子供も孫も…。これからも、100年先も飲まれ続けるように、自分のやり方で、吉田牧場を、地域の酪農を残していけるよう伝えていけたら素敵だなと思います。これからも、鳥取県のふるさとの味を守り続けたいです。



第 47 回

らくのうこどもギャラリー

審査結果および講評

- 118 -

荒 勇翔相馬市立八幡幼稚園〈作品制作当時〉 4歳 (東北)



しての魅力に溢れた独創性のある作品だと思います。せます。真正面から見た牛さんのお顔や大きな体やお腹に張り付いたピンクのお乳など、絵と描けましたね。空中に浮かんでいるかのような牛さんの姿は、子供らしい自由な発想を感じさ(選評)幼稚園に通う4歳の勇鞠くんの作品が見事に特選となりました。画面いっぱいに丸い牛さんが

入選3

「まえからみたうし」

室場小学校 (中部)

石川 陽菜



す。大きくて迫力のある牛さんの存在感とは裏腹に、見開いた瞳(選評)力強いタッチでクレヨンを使い牛さんを正面から堂々と描いていま 牛さんの足の動きがコミカルで楽しい感じに仕上がっています。 や出したベロがキュートですね。まるで踊っているようにも見える

入選4

山陽小野田市立厚狭小学校 2 年 (西日本)

美有



などのリズミカルな筆跡、絵の具のドロッピングの配置など、バラ上がっています。耳や尻尾に見られる激しい筆使いや、牧草や花(選評)迷いなく一気に筆を走らせたかのような躍動感のある作品に仕 ンス感覚に優れています。元気いっぱいで小気味好い作品です。

入選1

上長飯小学校〈作品制作当時〉 6 年 (九州)

野﨑 和



(選評)丁寧に彫られた木版画の作品です。画中、作者の後ろから2頭の牛 が良いですね。輪郭線の外側をもう|度彫って白い線で形を浮き出 さんが甘えるように顔を近づけています。照れ臭そうに笑う表情 木版画独特の流れるような彫刻刀の彫り跡が美しい傑作です。 すという高度な技法をとても自然にセンス良く取り入れています。

入選2

豊富小学校 4 年 (中部)





(選評) クレヨンと水彩絵の具で描かれた作品です。スピード感のある線 構図にもセンスを感じます。足を何度も書き直していて観察す 作品です。牛さんを左に寄せて画面右側の空間を大きく開けた ること、描くことに集中して真剣に向き合っている事が伝わって と水彩の荒々しいタッチが躍動する生命力を感じさせる見事な

「みるくをのんでいるこうし」秀作3

室場小学校 (中部)

都築 大和

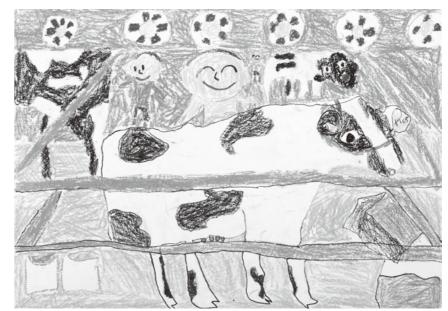


(選評)牛舎の中でミルクを飲んでいる子牛をクレヨンで描いた作品です。身を 牛の小ささ、幼さがより強調されています。 臨場感があります。赤で太く大胆に描いた牛舎の柵がいいですね、子 まるでゴクゴクと喉を鳴らしてミルクを飲む音が聞こえてきそうな 乗り出して一心不乱にミルクを頬張る仕草が可愛く描かれています。

「牛さん 大好き」ファミリー賞1

那須塩原市青木小学校 3 年 (関甲信)

髙久 颯星



(選評) 牛舎の中で大人しくしている3頭の牛さんを笑顔で世話する3 並んで描いた扇風機がお花のようで可愛いです。 な牛さんが大好きだという事が伝わってきます。画面上の方に 人を描いた作品です。微笑ましい表情と爽やかな色使いでみん

秀作1

塙町立笹原小学校〈作品制作当時〉 5 年 (東北) 悠真

松本



(選評)前足を曲げて地面に佇む牛さんの姿が、とても優雅です。牛さん じんでいて、質感も伝わってくる巧みな作品に仕上がっています。 のお顔や体の白い部分に陰影をつけて丁寧に描かれ、立体感をよ く表しています。鼻の部分は水分をたっぷりと含んだピンク色がに

秀作 2

那須塩原市青木小学校 4 年 (関甲信)

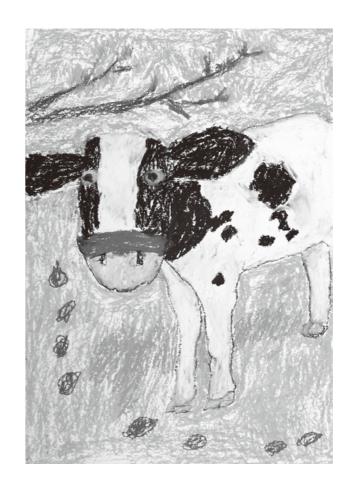
鍬守 倖吉



(選評)大きく口を開けてこちらを見つめる牛さんの表情がとても印 の具を使って隅々まで描きこまれ、張りつめた状況が力強く表といった鳴き声が聞こえてきそうです。画面はクレヨンや水彩絵 現されています。 から、牛さんの表情には緊張感があふれ、今にもモーーウォッ! 象に残る作品です。「子どもをうみそうな牛」というタイトル

「おさんぽいこうよ」あすなろ賞2

東広瀬こども園 6歳 (中部) 杉浦 慈栄



(選評)桜の木の下 です。緑の草の上に散った花びらのような赤い線の塊がリズミカル 花見を楽しんでいるかのようです。 に画面に配置され、絵にアクセントを与えています。牛さんもお の牛さんが描かれた春のある1日を感じさせる作品

全体の作品について

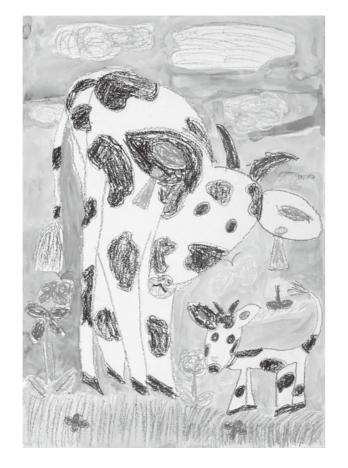
期は、 選ばれました。題名通りよく観察していますね。足を何度も描き直 影響で、昨年は開催見送りとなり2年ぶりの開催となりました。し あることを、 るのです。そうして描かれた作品には観る人に強く訴えかける力が に絵画表現があります。感じたことや思いを線や色に乗せて表現す 身体を大きく使ってみたり、声をひそめてみたり…。その表現の一つ 表現する。子供達は感受性が強く、様々な方法で自分を表現します。 構成しています。入選2は川端泰幸君の「はあとちゃんを観察」が です。計算された構図の中に白と黒のバランスを上手に生かして画面 引きました。入選1は野﨑和さんが木版画で表現した「私のお友達」 迫力ある作品は最終審査に残った秀作たちの中でも群を抜いて目を おおきいな」は、まさに大きな牛さんと出会った感動を一気に描いた 元気の良い作品が多いと感じました。今回特選となった「うしさん、 全体的な印象として、 るような日々が戻ってくる事を願います。今年応募いただいた作品の どれも魅力的で、子供らしいのびのびとした表現に満ちた素晴ら 厳重な感染予防対策の元で行われました。子供達も作品を描いた時 最終審査当日も審査会場のある東京は緊急事態宣言下であったため、 かし未だに収束の兆しが見えない状況での開催は、作品応募数がゼ 有難うございます。世界的に感染拡大している新型コロナウイルスの していて、 作品です。 りません。それでも、 口という地域がある程、これまでにない事が多い審査になりました。 いものでした。 今年も「らくのうこどもギャラリー」に多数のご応募をいただき 活動が制限されるなどの不安な時期を過ごしていたに違いあ 描くことと真剣に向き合った事が伝わってきます。感動を 作者の荒勇翔君は幼稚園に通う4歳の男の子です。彼の 私たちは審査をする度に再確認します。 1日も早く子供達が安心して牧場にスケッチに行け このような状況の中で応募いただいた作品は、 迷い無く勢いのある線やタッチで表現された、

ファミリー -賞 2

「大きな牛」

那須塩原市青木小学校 2年 (関甲信) 美桜

大野



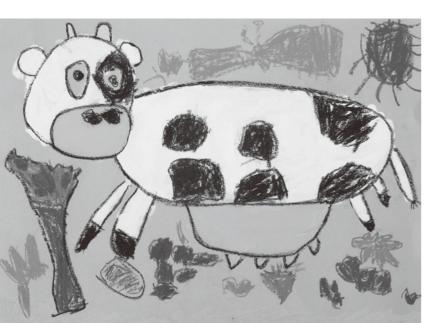
(選評)牛さん親子の愛おしさが伝わってくる作品です。絵全体がやわ ています。美桜さんのあたたかい視線が伝わってきます。 す。お母さん牛がやさしく子供に寄り添う姿勢が見事に表され らかな線やパステルのような淡い色で包まれていて、心地よいで

あすなろ賞1

「かわいい うしさん」

相馬市立大野幼稚園〈作品制作当時〉 **5**歳 (東北)

さくら



(選評)手足をいっぱいに広げてこちらを向いている牛さんを元気いっぱ とれます。見ているだけでウキウキしてくる、とっても楽しい雰 囲気の絵になりましたね。 いに描いてくれました。周りには太陽や蝶々や葡萄などが見て

広告協賛





加入しましたか?

酪農共済









酪農家でのための5つの共済



酪農共済

- ☑団体一括加入型だから 掛金が割安
- ☑死亡時保障額は最高 1,255万円(災害死亡時) ☑死亡だけでなく事故に
- よる入院もワイドに保障 ☑こども共済は月々1,000円

酪農ハイ・メディカル **SUPER**

- ☑先進医療も補償
- ☑日帰り入院から保障 ☑毎月の掛金は年齢にかかわらず一律
- ✓ もしもの時も安心の 緊急医療相談等のサービス

酪農年金

- ご希望の年金種類・年金
- 額を自由に設計]ご家族に対する保障 機能も兼備
- 若いうちに加入される ほど効率的
- ☑ 随時払の利用で年金額 の増額も可能



酪農傷害共済

- ☑ 作業中はもちろん、日常 生活中のさまざまなケガ も補償
- ☑ケガによる日帰り入院・ 通院も「1日目」から補償
- ☑ 損害賠償責任も補償

酪農がん共済

- ☑ がんと診断確定されたら 100万円
- ☑ 上皮内がんも100%給付 ☑ がん診断給付金は何回 でもお支払い
- ☑ 65歳~69歳の掛金は 月々2,400円から

お支払い方法も簡単。面倒な振込不要。掛金は乳代より控除されます。





MS&AD あいおいニッセイ同和損保 (2020年6月) B20-101022



東京海上日動

ご加入にあたってはパンフレット及び重要事項説明書を必ずお読みくださ

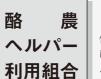
お問い合わせは当組合まで

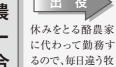
日本の畜産性、生産者の日々の努力と、そこに携わる様々な組織や業種に支 たとえば審産の一部門である (0): **病気、ケガや用事等で休みをと** る酪農家に代わって、搾乳や飼 料給与などの作業をおこなう。 TMR センター 人工授精師 牛の食べる飼料を 牛の授精をおこなう 専門的に作り酪農 家に供給する **MILK** 牛の削蹄をおこなう コントラクター 牛の飼料作物を栽 培、収穫する代行 組織



就 職

各地にある「酪農ヘル パー利用組合」の職員 として勤務します。 給与





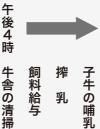
場へ出役すること

になります。

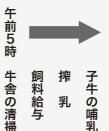


酪農ヘルパーの 仕事の流れ









牛の体調が悪くなっ

た時治療をおこなう

午前9時 その 他の作 の

/ 酪農ヘルパーについてのご質問な<u>どは</u> / お気軽に下記までお問合せください。/ 一般社団法人 酪農ヘルパー全国協会

TEL.**03-5577-5135** FAX.03-5577-5136

その他の作

しってる? 乳牛からの恵み 「生乳」

● 人間と同様に、乳牛も子牛を産んで初めてお乳(生 乳※)を出します。メスの乳牛は、誕生してから出産し て生乳を出すまで、2年以上かかります。

● 乳牛は暑さに弱いため、夏は人間同様バテ気味に なり生乳の量が減りますが、冬から春にかけては増加 します。一方で牛乳向けを中心に生乳の需要は夏に増 加し冬に減少する傾向にあります。

● 生き物である乳牛から生み出される生乳の生産量 は、簡単に増やしたり、減らしたりすることができません。 ※「生乳」とは、牛から搾ったままのお乳で、 牛乳や乳製品の原料となります。

生乳生産が多い時期 →保存性のある 乳製品を製造 生乳生産が少ない時期

牛乳向けの生乳需給(都府県)

→生産が多い北海道 からたくさん運ぶ



4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月



● 酪農家は、一年を通して乳牛が健康で快適に過ごせるよう気 を配りながら、安全で安心な生乳を消費者に届けるため毎日が んばっています。

● 牛のフンは田んぼや畑の肥料に活用 し、日本の「循環型農業」として環境問題 に貢献しています。

● 使われなくなった田畑を牛のエサ作り などに活用して、国土保全と里山の景観 や環境の維持などにも役立っています。



がんばっても、 想定を 超えることも…

● 乳牛と酪農家は日々がんばっ ていますが、それでも想定を超え る事態が生じることがあります。

■ 風雨災害や地震、新型コロナ ウイルスのような疾病の 流行など季節以外の影 響によっても、生乳の需

要と供給のバランスが 崩れることがあります。

日本の酪農のこと、 考えてみませんか?

........

● 日本人にとってたいせつな食料※で ある牛乳と乳製品。

● 乳牛と酪農家が消費者の皆さんにお 届けするためがんばっています。その意 味をみんなで考えてみませんか。



出典:令和元年度食料需給表)

生きているから、味もひとつではありません。

牛乳は、牛からしぼった生乳を加熱殺菌しただけのものです。りんごの味がひとつ ずつちがうように、牛乳の味もひとつではありません。同じ牧場の牛でも、一頭ずつ ちがう。牛乳の味のちがいは、みなさんがひとりひとりちがうのと、同じなんです。

いろいろな理由で、牛乳の味は変わります。

日本の乳牛のほとんど はホルスタイン種です。

牛の種類

A.1.191;

繊維質の多い草 トウモロコシ・大麦な

エサ

おかず

など。牛乳の乳 どの穀類や、米ぬか、 脂肪を高めます。 ふすまなど。無脂乳固



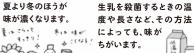
地域

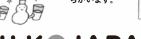
牛がすごす地方の気候や



季節や気温

夏より冬のほうが 味が濃くなります。









- 般計冊法人中中 秘鲁会議 指定生乳生産者団体

殺菌方法



ミルクから生まれる、 おいしい恵み。

大空と大地のあいだで育まれる、おいしいミルク。 そこから生まれるいろんなおいしさ。 ミルクに眠るたくさんの可能性が、 未来をもっとおいしくしていきます。





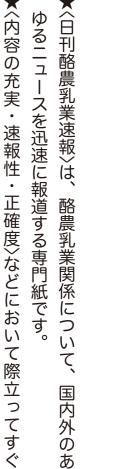








酪農スピードNE



国内外のあら

月と十月に年二回刊行しています。 〇ページ程度で表紙廻りなどはカラーです。 一月と七月に発行する特集号(新春、夏季)はA4判変型の一〇 で、一冊 五、五〇〇円(消費税込)です。 ているとの評価を得て、広く関係者に活用されています。 日々のニュースの根底にある問 現在、97号まで刊行ずみ 内容は日刊の紙面

題等を集録しています。一部二、二〇〇円(消費税込)です。

購読料 6 カ月 47.304 円 (消費税込)

藝酪農乳業速報

振替口座番号 00100-4-151599

社 〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1-13-12 (ファベルハウス)

FAX 03-3864-3695 ☎ 03-3864-3691(代表)

●北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1番地 (酪農センター)

四 011-222-7012(代表) FAX 011-222-7065

牧草専用肥料のラインナップ

普通畑用

N P K

ゼンラク **444** 号 | 14 - 14 - 14

ゼンラク 303 号 | 13-20-13

フン尿連用畑

ゼンラク 386 号 13-18-6

カリ過剰畑

ゼンラク **422** 号 | 14 - 12 - 2

※ 糞尿、堆肥を継続してきた土壌では加里が蓄積しています、

牧草にとって必要量以上の加里は Ca、Mg 不足に繋がり牛にとってマイナスとなります。

※ 飼料畑の作付けに際しては、土壌分析結果に基づき銘柄、施肥量を決めて下さい。

販売:全酪連・県酪連・酪農協製造:ワコー農材



▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶ 大人気「ここハズ」シリーズ第2弾!

どうして乳牛には粗飼料を食べさせるの?

「常識」あるいは「慣習」という言葉だけで、深く考えずに粗飼料を与えるのは問題です。「なぜ乳牛に粗飼料を食べさせているのか」をハッキリと意識することは、乳牛の栄養管理の基本になります。

「粗飼料に求めるもの」、言い換えると「粗飼料の質」の定義は、 それぞれの酪農家の粗飼料基盤や経営環境により異なるため、柔 軟な考え方をすることが求められます。

「粗飼料の質」には、「これだけ見ていれば間違いない」という 絶対的な指標は存在しません。タンパク含量などの栄養価、消化 性、物理性、ミネラル成分など、さまざまな指標・基準が存在しま す。これらの指標の重要性は、それぞれの農場で粗飼料の位置づ け、粗飼料を給与している理由、飼養コスト、給与対象となる牛、 飼養設計のアプローチ、粗飼料の給与量などによって変化します。 消化性が重要なケースもあれば、物理性に細心の注意を払うべき ケースもあります。それぞれのケースで最適な粗飼料を特定し、飼 料設計に上手く組み込むことは、乳牛の栄養管理の基本となりま す。それが本書全体で伝えたいことです。

粗飼料を理解することは、乳牛の栄養管理の最初の一歩です。 一緒に考えていきましょう。

0 11 (6 11 (

第1部

ここはハズせない粗飼料の質の基礎知識

第1章 粗飼料を理解しよう

第2章 粗飼料の消化性を理解しよう

第3章 粗飼料の機能性を理解しよう

第2部

ここはハズせない多様な粗飼料の基礎知識

第1章 乾草・サイレージを理解しよう

第2章 ホール・クロップ・サイレージを理解しよう

第3章 イネ科とマメ科の違いを理解しよう

第3部

ここはハズせない粗飼料を使いこなすための基礎知識

第1章 粗飼料分析を理解しよう

第2章 泌乳牛が粗飼料に求めるものを理解しよう

第3章 副産物飼料を理解しよう

第4章 乾乳牛が粗飼料に求めるものを理解しよう



Dairy Japan

乳牛栄養学②



著者: 大場 真人 カナダアルバータ大学農学部 乳牛栄養学・教授 B5 判・164 頁

定価 3,520 円 (税込み)

まだお読みでない人はぜひ一緒にご注文を!



ここはハズせない **乳牛栄養学①** ~乳牛の科学~



株) デーリィ・ジャパン社

F162-0806 東京都新宿区榎町75番地 TEL 03-3267-5201 FAX 03-3235-1730 JRL:dairyjapan.com e-mail:milk@dairyjapan.com



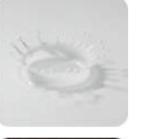
~豊かで健康な食文化の創造のために~

原料·包材部門











食品部門















「食」を取り巻く環境は、品質や価値観、食への嗜好などが大きく変化して きています。

また、その背景の中で生活者の意識も、安全で安心を求めながら、 健康を重視したより確かな品質を選択する時代にあります。 このような様々な変化に対して、弊社は食品、食材の専門会社として 豊かで健康な食文化の創造のために「原料・包材」「食品」「食肉」の

3つのカテゴリーを事業の柱とし、お取引先様の立場に立った商品の充実と 商品情報や企画、開発等のご提案を、迅速に、確実に対応をしてまいります。

ZEFUCO 全酪フーズ株式会社

本 社 〒151-0053

東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館 TEL: 03-5931-8013 FAX: 03-5931-8030

一緒にずっと。 安心をもっと。

共栄火災

いつもそばで、みんなの暮らしを見守ること。

いつまでも、みんなが笑顔で暮らせるように、

心からの安心をお届けし続けること。

それが、わたしたち共栄火災の使命です。

あなたが辛い時は、ともに壁を乗り越える。

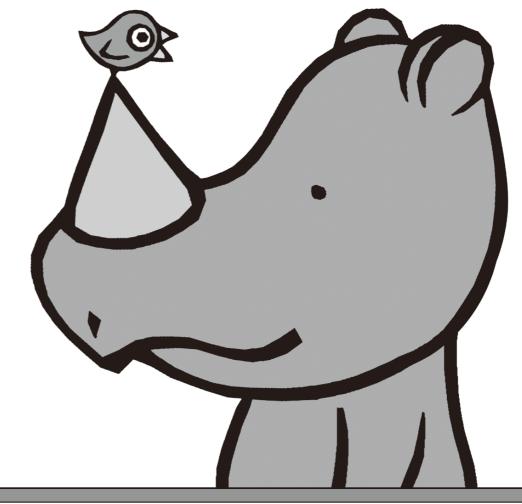
そして嬉しい時には、一緒に笑いあえる。

そんな、あたたかい保険会社であるために、

いつでもまごころを込めて、暮らしを支えていきます。

ぼく、サイ吉

人々が気持ちよく 毎日を暮らせるよう、 安心のチカラで そっと支えるサイ。 共栄火災のサイ吉です。



共栄火災では、酪農家の皆様向けの補償をご提供しております。お気軽にお問い合わせください。

出荷生乳賠償補償制度 (生産物賠償責任保険)

バルククーラー保険制度 (動産総合保険/運送保険)

共栄火災海上保険株式会社

〒105-8604 東京都港区新橋 1-18-6

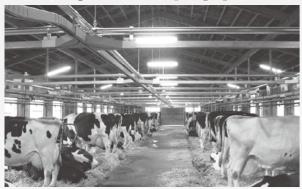
「何よりも酪農家のために」それがピュアラインのテーマです。 すべてが高く評価されています。

【オートスタート付き自脱】



見えない所まで高い技術力が活かされている実績で証明さ れる APユニットが標準仕様です。

▶労力軽減を実現し、作業能率アップ **レール移動方式** 【リバース&サイドシステム】 ハンディーユニットキャリアー



- ・レイアウトは自由に設計・施工
- レールはカスタマイズ可能

ロビベック社は40年以上 餌について常に「嗜好品」作りを追求しています。



24時間給餌 DEC-4448 型 DEC-4442 型 DEC-4436 型 DEC-4430 型

【充電不要】

《餌寄せ機能オプション》 DEC-HDR 型 《餌寄せ機能標準》 ロールベール PF600も取り

ストランゴ 【オートスタート付き自脱】



最優先事項です。APユニットが標準仕様です。

愛牛へのおもいやりを詰め込んだ 酪農を支える APユニット

どのミルカーにもご使用いただけます



APユニットは、現状の使用 ミルカーと同じ様に毎日搾 乳を続けながら、今迄のミル カーで傷んだ乳頭の括約筋 等を再生・復元させて正常な 乳房・乳頭に修復する。それ によって健全な乳牛となり、 長命連産に導き、1年から2 年健康な牛体を持続させ、大 幅な利益を出す事に貢献し ます。これは国際特許を持つ APユニットだから出来るこ

誰も考えた事もない▶餌寄せ作業の負担軽減 ROVERローバー給餌機

(電導レール仕様で 走行用H形鋼 走行用バッテリー不要) ロビベック給餌ロボットの目的は 飼料をおいしい嗜好品へと変えることです



ローバーはトロリー バスのように"地面" を走行しますので、走 行用H形鋼レールの 設置が不要となりま す。このほか、攪拌方 式などにも違いがあ りますので、牛舎の状 況等に応じてご選択 いただけます。

《餌寄せ機能標準》 常に飼料を撹拌して給餌

国内総輸入元

詳しくは最寄りの営業所までお気軽にお問い合わせください。

PURE LINE COMPANY LIMITED

社 ●〒154-0022 東京都世田谷区梅丘1-24-12 ピュアライン第7ビル ☎ 03-3420-7311(代) 商品配送センター ●〒370-0102 群馬県伊勢崎市境上渕名1313-2 ☎ 0270-76-4611(代)

http://www.pureline.ne.jp E-mail:head_office@pureline.ne.jp

●北海道営業所 ☎011-772-7711 ●道北営業所 ☎0162-82-3511 ●帯広営業所 ☎0155-21-3511 ●中標津営業所 ☎0153-72-2211

●北見営業所 ☎0157-25-1231 ●東北営業所 ☎019-643-1211 ●群馬営業所 ☎0270-76-4611 ●東京営業所 ☎046-239-0711

●九州営業所 ☎096-389-7811 ●山口出張所 ☎083-986-4611

祝 全国酪農青年女性酪農発表大会

有効微生物·発酵生成物

VITACOGEN

モリモリ食べて、病気知らず。 そんな家畜の飼育に 60年以上の実績の「ビタコーゲン」 悪臭防止・完熟堆肥作りにも活躍します。





〒513-0051 三重県鈴鹿市下箕田町1081-1 TEL 059-385-0347 FAX 059-385-5274









JA三井リース

農林水産本部 農林水産部

TEL: 03-6775-3029

農業・農村の「未来」を 0 思 ともに考えます。 全国農業新聞は 地域農業者の代表機関である 農業委員会のネットワークが 発行する週刊の農業総合専門紙です。

1 特長のある週刊新聞・・・・・・ 解説に力点をおいた企画編集とニュース報道 ② 時代に鋭く斬り込む・・・・・・> 農政・農業・農村の動き、問題をタイムリーに

③ 経営に役立つ・・・・・・・・・・
知っておきたい経営・流通情報と経営マイント

4 喜びや悩みを共感できる・・・・> 読者の心に訴え、ともに考える

⑤ 読みやすく親しみやすい・・・・> 老若男女が楽しむ読める

月700円 年 8,400円 係

- ■購読の申込みは、お住まいの 市町村農業委員会へお気軽に 連絡ください。

全国農業会議所

〒102-0084 東京都千代田区二番町 9-8 中央労働基準協会ビル2F **8** 03-6910-1130

MX 03-3261-5132

http://www.nca.or.jp/shinbur



自然の恵みアイヌのごはん



監修 藤村 久和

「北海道」と命名されるずっと前から、北の大地 に住むアイヌの人々。本書は、自然の恵みを生かし た料理の数々を楽しむレシピ集です。伝承文化の研 究者・藤村久和氏が、北海道内を回り、アイヌのお 年寄りの方々から手ほどきを受けた、12種、80品目 以上の料理を、美しいカラー写真とともに紹介しま す。また、山菜・栽培作物・魚・野生動物などの食

材図鑑や、伝統 的な食事の解説 なども掲載して います。

B5判 オールカラー 128頁 定価 1,980円(税込) 送料 300円

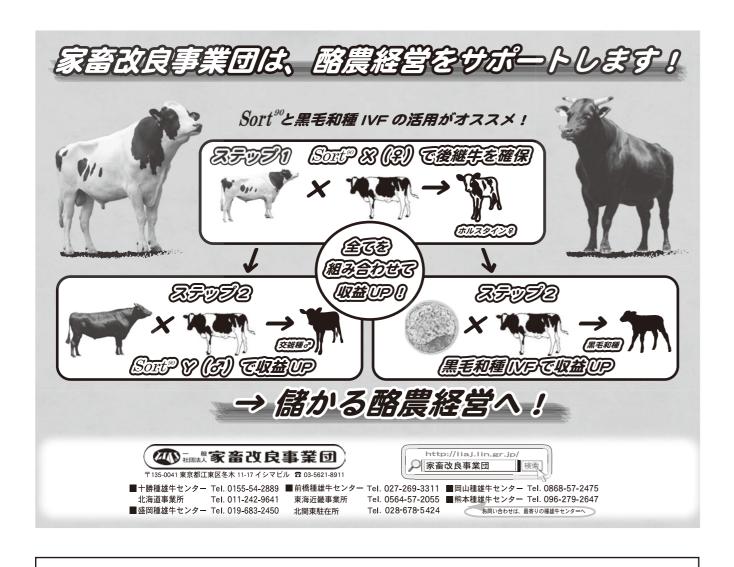
一 図書のお申し込みは下記へ -

株式 土海道協同組合通信社

23 011(209)1003 FAX 011(271)5515

e-mail kanri @ dairyman.co.jp

※ホームページからも雑誌・書籍の注文が可能です。 http:// www.dairyman.co.jp





1958 (昭和33) 年の創刊以来、酪農 ・乳業界の情報を発信し続ける専門紙 「日刊酪農経済通信」。生乳生産・取 引、牛乳・乳製品の処理、製造、流通、 消費の状況、酪農行政や関連団体の動 向など、豊富な情報を、電子版化によ り迅速に提供いたします。パソコンや タブレット、スマートフォンなどを用 い手軽に閲覧でき、印刷も可能です。 ご購読申込、お問い合わせはデーリ ィマン社ホームページからも可能です。

^{株式} 酪農経済通信社

23 011(231)5261 「デーリィマン社」 FAX 011(209)0534

〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-15-9 ITY大塚ビル3F e-mail info@dairyman.co.jp

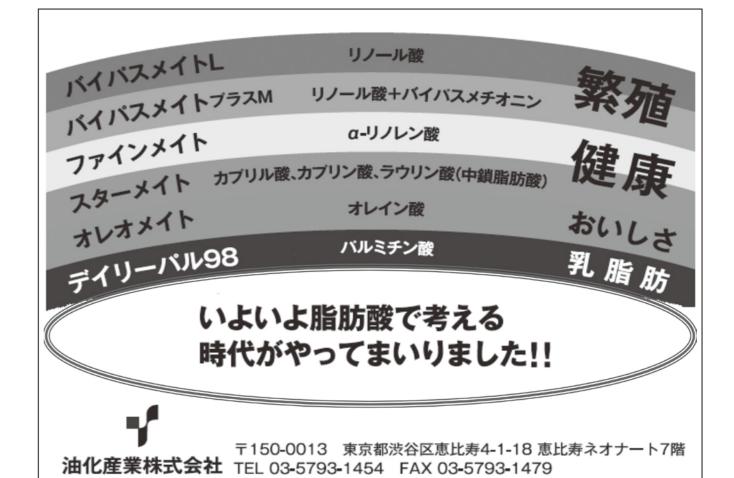
(http://www.dairyman.co.jp)

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

広域法人開発部 営業第二課 **〒103-0027** 東京都中央区日本橋 3-5-19 **203-5202-6605**







弱酸性次亜塩素酸水 ステリムPROでコロナ対策!



人に安全、牛に安全な除菌消臭水。 専門機関による実証試験済み商品です。 お気軽にお問合せ下さい。

室内のウイルスや落下菌 99% 撃退・除菌!

全国の医療機関や金融機関が採用



〒984-0015 仙台市若林区卸町 2 丁目 7 - 6 TEL (022) 284-2211 FAX (022) 284-2220 温http://www.ishi-i.co.jp





■■ 酪農家経営管理支援システム(DMSシステム)■■

Dairy-farm Management Support System

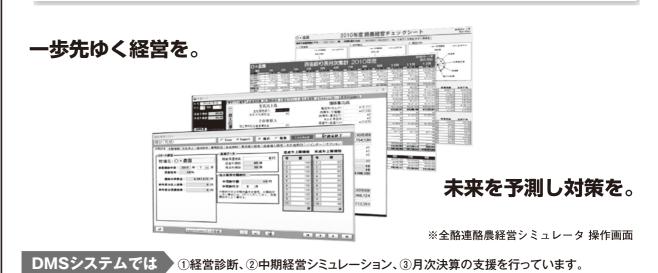
E-mail:mail@earth-net.co.ip

SaaS

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町1-17-2

会計ソフト『e酪農経営』がインターネット上で使用できるようになり、 情報管理やQ&Aの効率が飛躍的に向上しました!

ぜひ、ご体験ください!



全国酪農業協同組合連合会 購買生産指導部 酪農生産指導室 TEL 03 (5931) 8007

大会宣言

酪農生産基盤の弱体化が危惧されて久しいが、生乳生産量は2年続けての増加傾向となった。国民の健康を支えているという自負を持ち、日々牛乳を生産している我々にとっては喜ばしいことではあるものの、全国の酪農家戸数の減少は歯止めがかからず、自然災害や飼料価格の高騰等、不安は絶えない。コロナ禍は国民の行動や食生活などにも大きく影響し、農産物の需給を一変させた。昨年3月に策定された「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」では持続可能な経営展開が示され、新たな技術の活用と新たな経営モデルの構築が求められている。我々は、それらに応えられるよう対応していく必要がある。

このような状況の中、本日2年ぶりに酪農発表大会を開催することができた。 一昨年の鹿児島市で開催された第48回大会同様、酪農に対する熱い思い、お互いの絆を確かめることができた。12名の発表は、酪友が創意工夫を続けていることや、消費者との交流や食育活動などを通じ、酪農が地域社会や国土保全に貢献していることを改めて示してくれた。

また、今大会をオンラインで配信し、より多くの酪友に大会を視聴して頂いた事で、酪農の魅力や素晴らしさを全国に発信することができ、特に、次世代を担う若い後継者やこれから酪農を目指す者たちにとって、大きな励みになったと確信している。

私たちは、この経験を心に刻み、今後とも地域の酪農をより一層発展させ、 全国の消費者に安全・安心な牛乳・乳製品を提供することにより、人々の健康 を支えていくことを、ここに宣言する。

令和3年7月15日

第49回全国酪農青年女性酪農発表大会

- 150 -

全国酪農青年女性会議名簿(令和3年4月1日現在)

(全国会議)

所 在 地	〒151-0053 東京都渋谷区代々木1丁目37番2号	酪農会館2F 全酪連総務部内
	電話 03 (5931) 8003 Fax 03 (5931) 8020	
発足年月日	昭和 45 年 11 月 6 日	

委員長 小森崇宏(関東甲信越) 委 員 副委員長 池 田 辰 実(北海道) 引 頭 玉 枝 斉 (北海道) 中 山 砂 子 拓 也(西日本) 野村泰仁 福 田 祐 子(東北) 福嶋祐一 外 之 内 登 美 (関東甲信越) 大 山 雅 行(九州) 監 事 佐藤正仁(東北) 西尾直樹 髙 橋 明 美 (中部) 森 富 士 樹 (中部) 小 倉 越 子 森 原 佳 之(西日本) 問 半澤 善幸(東北) 仁 長友佳奈美(九州) 松田

事務局長 板 倉 雅 治

(構成会議)

会 議 名	事務局長	所 在 地	電 話	Fax
北海道 酪農青年女性会議	矢 口 正 史	〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1番地 酪農センター5階 全酪連札幌支所内	011-241-0765	011-241-0769
東北 酪農青年女性会議	蒲田泰介	〒980-0021 仙台市青葉区中央 1-7-20 東邦ビル 3 階 全酪連仙台支所内	022-221-5381	022-221-5384
関東甲信越 酪農青年女性会議	工藤文彦	〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館4F 全酪連東京支所内	03-5931-8011	03-5931-8027
中部 酪農青年女性会議	田中晴生	〒460-0008 名古屋市中区栄 1-16-6 名古屋三蔵ビル 3 階 全酪連名古屋支所内	052-209-5611	052-209-5614
西日本 酪農青年女性会議	荒木泰將	〒532-0011 大阪市淀川区西中島 5-14-10 新大阪トヨタビル6階 全酪連大阪支所内	06-6305-4196	06-6305-4899
九州 酪農青年女性会議	鈴木有希津	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南 1-2-15 事務機ビル 7 階 全酪連福岡支所内	092-431-8111	092-431-8355